クボタトラクタ

取扱説明書

M
4830DT
7530DT
8030DT

F-4483

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

注意マーク

燃料（残量）

エンジン予熱

エンジンオイル圧力

ホーン

方向指示器表示

パーキングスイッチ

ヘッドライト（下向）

ヘッドライト（上向）

高速又は高

低速又は低

油圧落下速度調整

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**： 注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，型式仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はM4830DTを基本とし，M4830DTと取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 大きさ別によって……「4830仕様」「7530仕様」「8030仕様」
- 倍速ターン付き……「B仕様」
- ターフタイヤ付き……「ターフタイヤ仕様」

目　次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

サービスと保証について …… 1

小型特殊自動車としての取扱い …… 2

装置の知識について …… 4

スイッチとメータの取扱い……4
運転装置の取扱い……7
PTOの取扱い……11
3点リンクの取扱い……12
油圧装置の取扱い……13
油圧装置使用の手引き……15

上手な運転のしかた …… 16

エンジンの始動について……16
エンジンの停止について……17
暖機運転について……17
バッテリあがりの処置……17
発進・走行のしかた……18
停車・駐車のしかた……19
トラックへの積込み積降ろしのしかた……20
パワーステアリング取扱い上の注意……20
ほ場への出入り時の注意……20
ほ場作業時の注意……20
デフロックの使いかた……21
運転中の作動点検……21
トレーラ用カプラ……22
輪距の調節……22
トーインの点検・調整……26
前輪切れ角の調整【4830・7530仕様】……27
ターフタイヤ仕様について……28
ローダ作業を安全に行なうために……29

作業前の点検について(日常点検) …… 30

点検箇所……30
点検のしかた……30

トラクタの簡単な手入れと処置 …… 33

定期点検箇所一覧表……33
給油(水)一覧表……35
燃料について……36
燃料の空気抜きのしかた……36
各部への給油と交換……38
各フィルタの交換……41
冷却水の交換……43
グリースの注入について……45
クラッチペダルの点検・調整……46
ブレーキペダルの点検・調整……46
駐車ブレーキレバーの点検・調整……46
PTOクラッチ操作レバーの点検・調整……46
バッテリ液の点検と交換……47
ファンベルトの点検・調整……48
前部デフケース前後遊びの調整……48
エアークリーナエレメントの清掃交換……48
パイプ類の点検……49
電気配線の点検……50
クラッチハウジングの水抜き……50
ヒューズ，ランプの交換……51
長期格納時の手入れ……52
エンジンの不調と処置……53

付　表 …… 54

アタッチメント一覧表……54
標準付属品……55
主要諸元……56
オイル・グリース一覧表……59
型式検査(国検)成績表……61

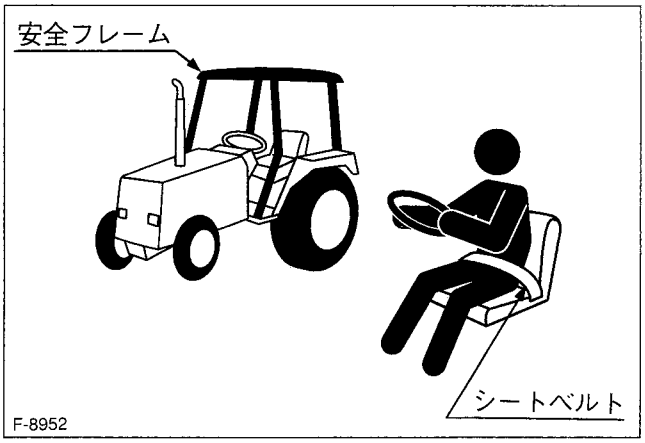
⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

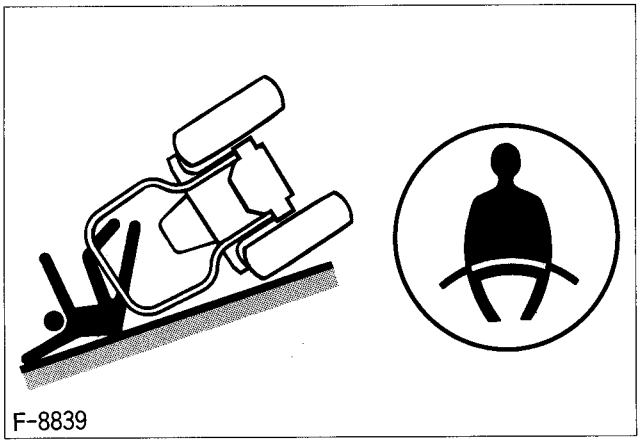
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全フレームについて

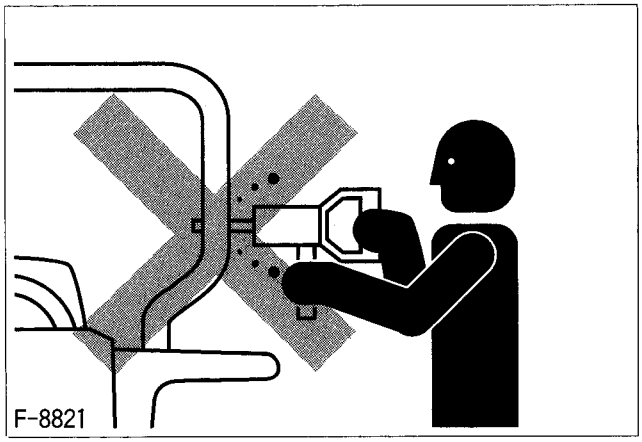
安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。



(1)運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。

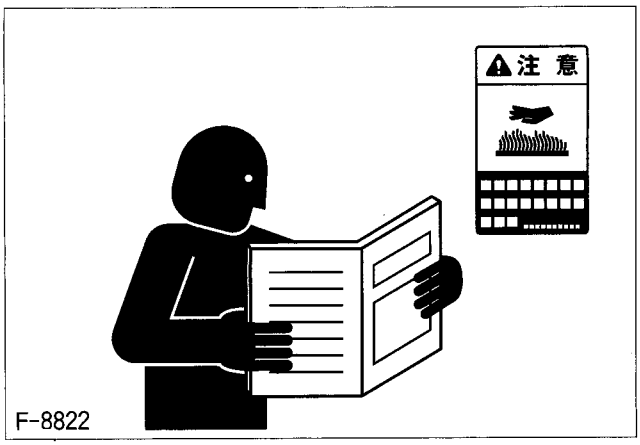


(2)安全フレームを取外して運転しないでください。
(3)安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。



2．運転前に

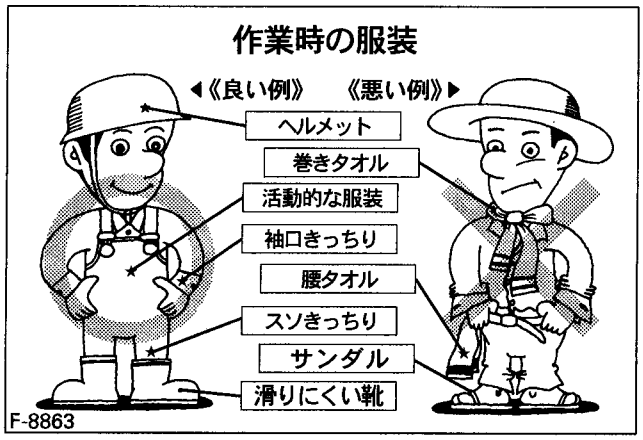
(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



⚠ 安全に作業するために

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の章参照)

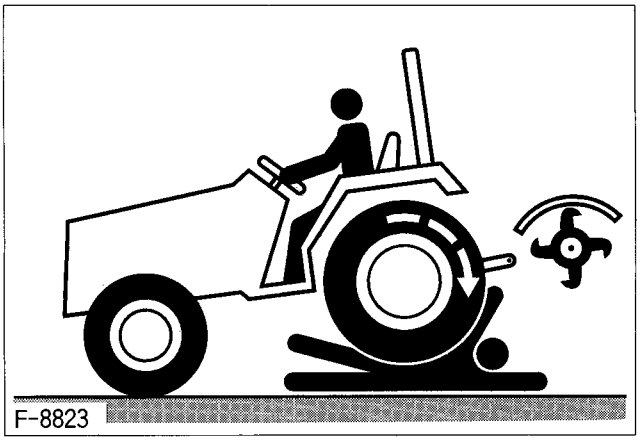
(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
（独立ＰＴＯ仕様はＰＴＯクラッチコントロールレバーも**“OFF”**(切)にしてください）

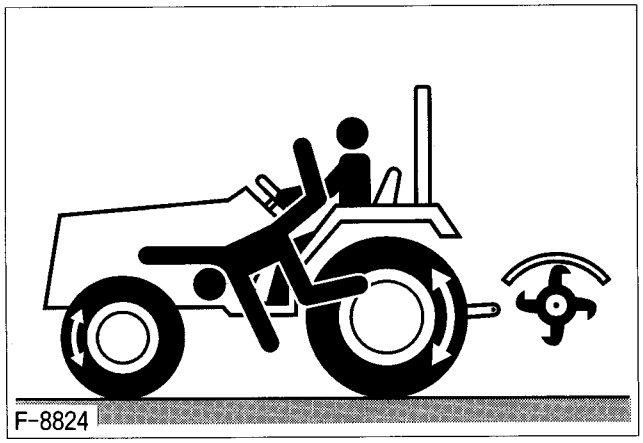
(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

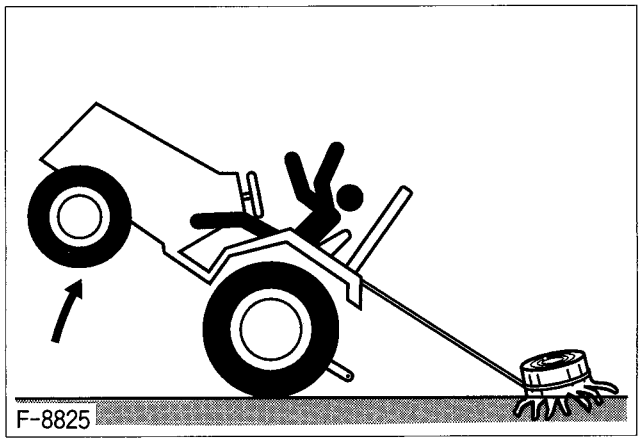


4．運転時に

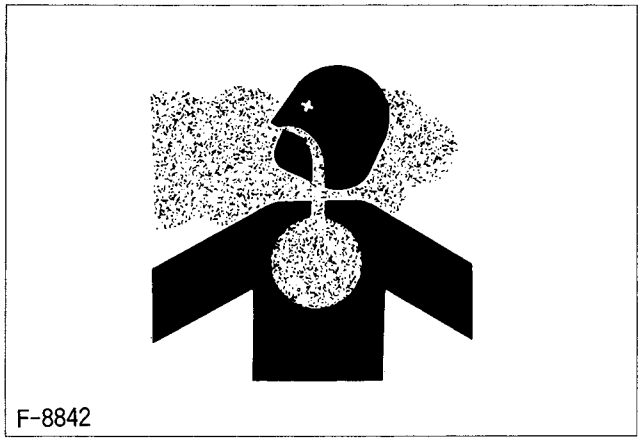
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。


F-8824

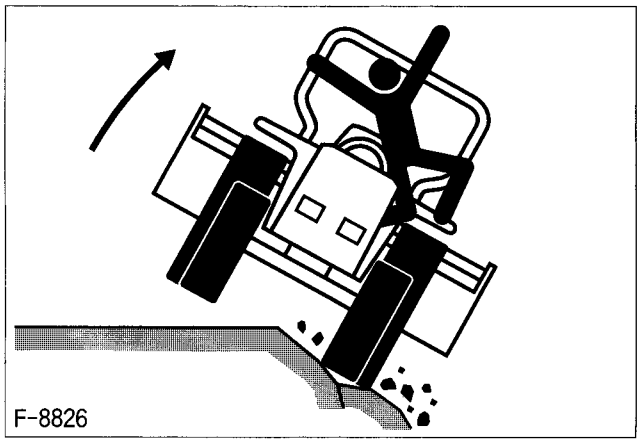
(2)けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。


F-8825

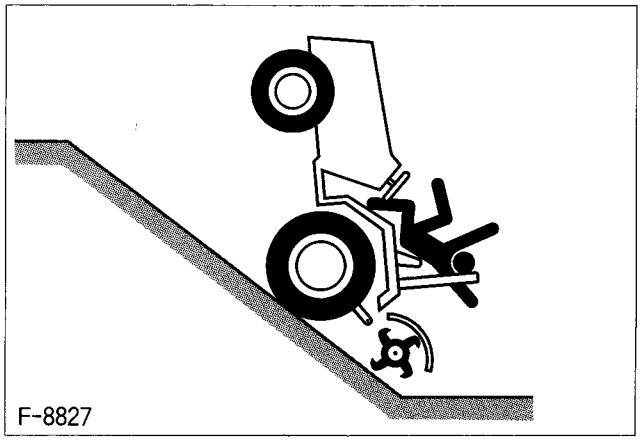
(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。


F-8842

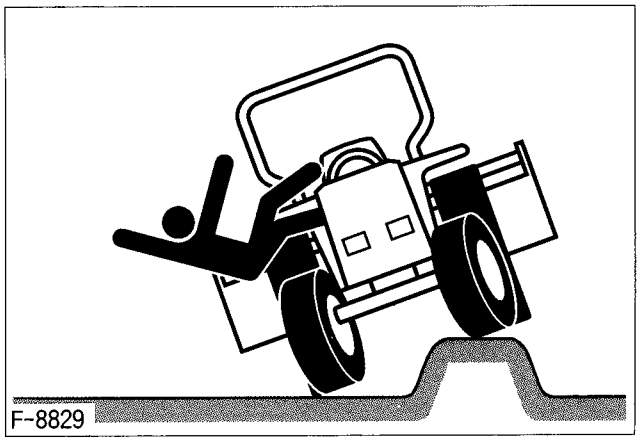
(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


F-8826

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

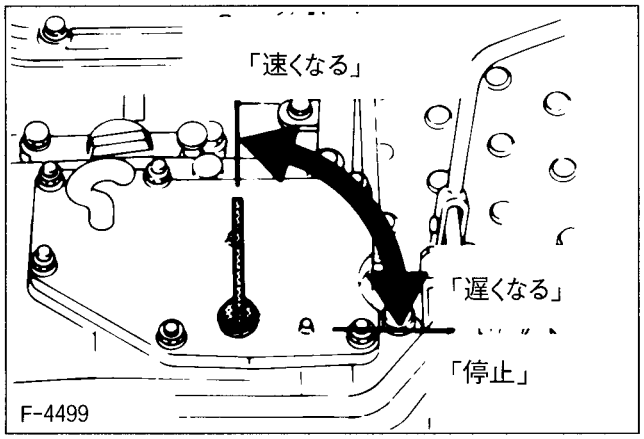

F-8827

(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。
(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

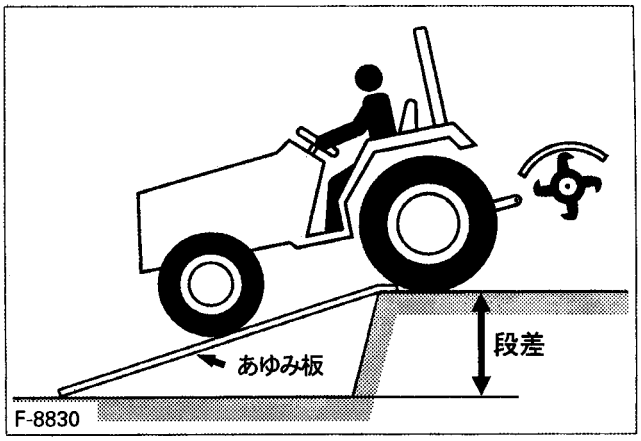

F-8829

⚠ 安全に作業するために

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。



(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。



あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

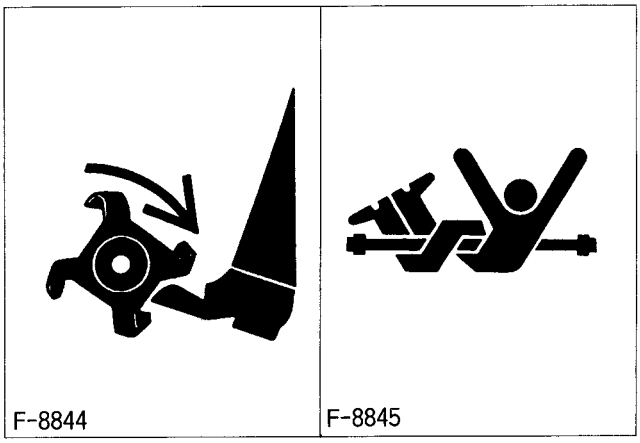
(10)急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

(11)倍速ターンはほ場以外では**“切り”**にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

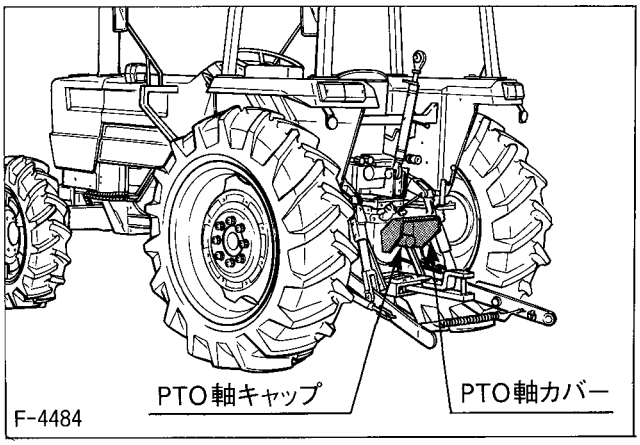
5．作業機使用時に

(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。



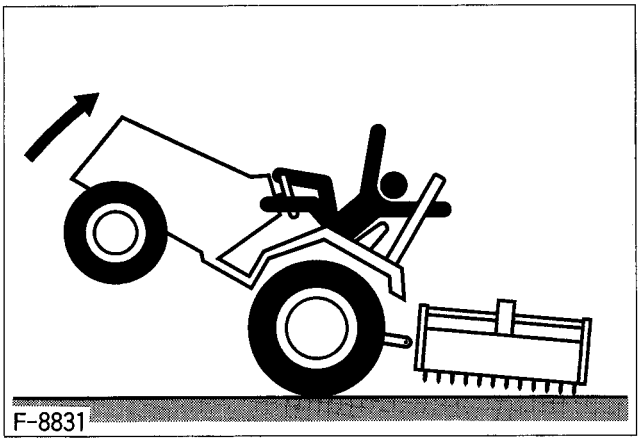
(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。



(4)ＰＴＯ軸カバーは常に取付けておいてください。

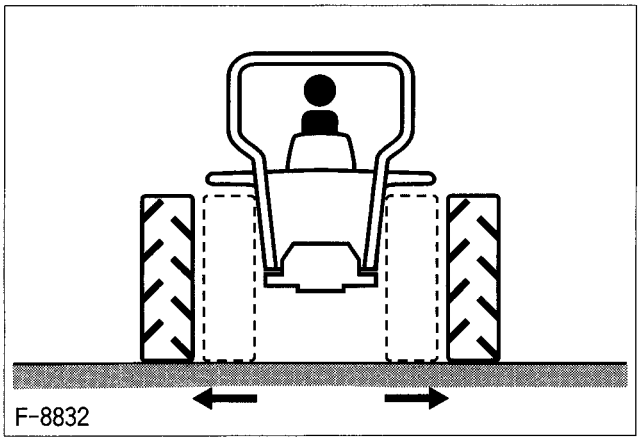
(5)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

(6)３点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。



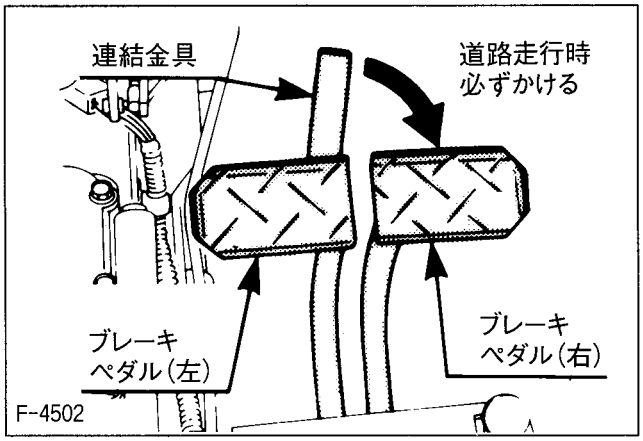
(7)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

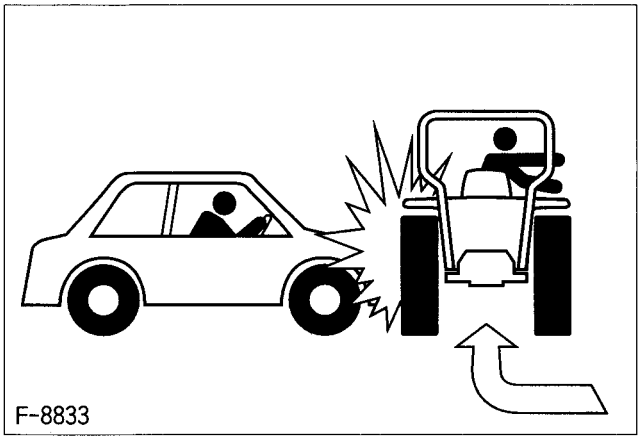
(8)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。



6．道路走行時に

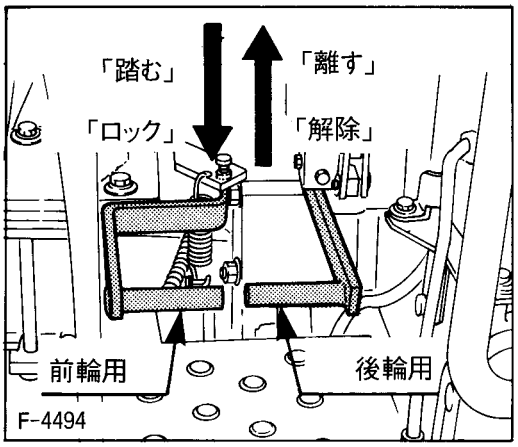
(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

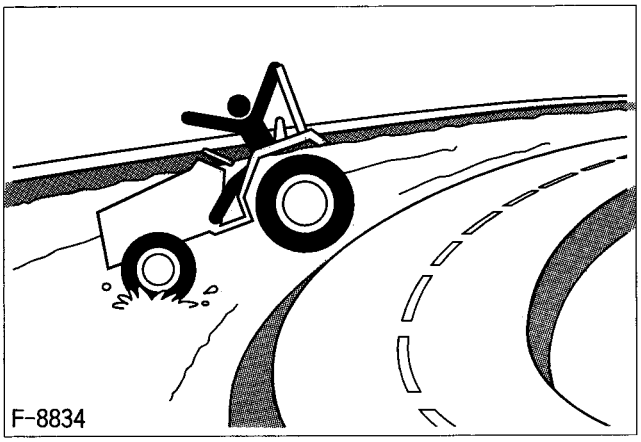




⚠ 安全に作業するために

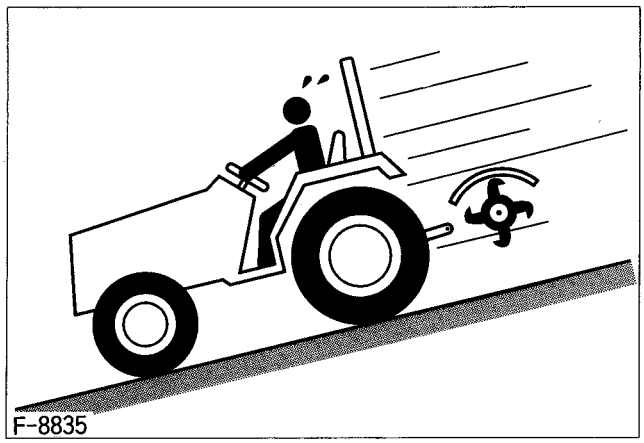
(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。





(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。

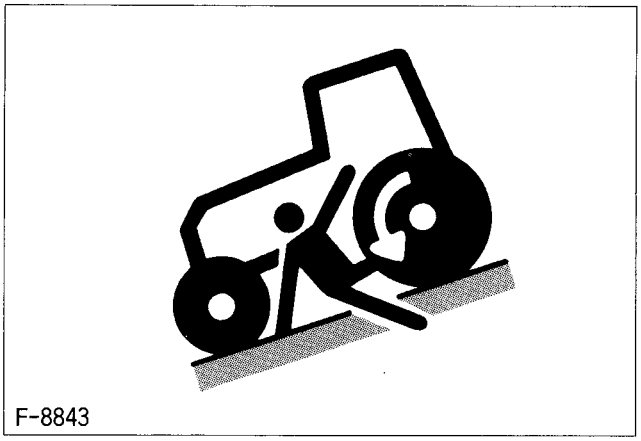


(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両法の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。

7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。



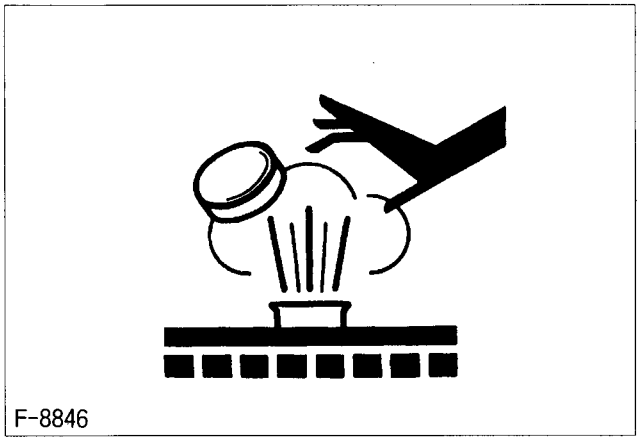
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。

8．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。


F-8846

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の危険性があります。

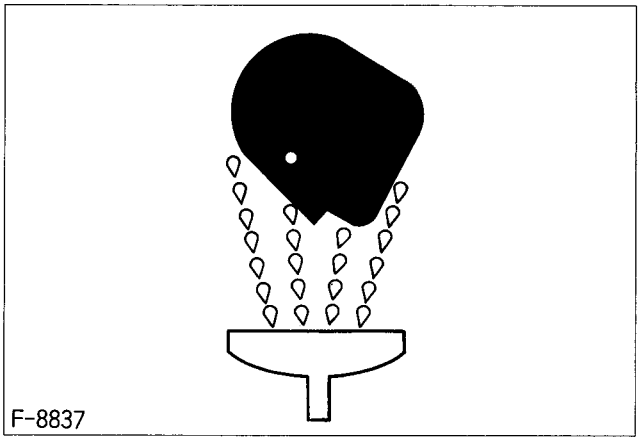
F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの運転の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

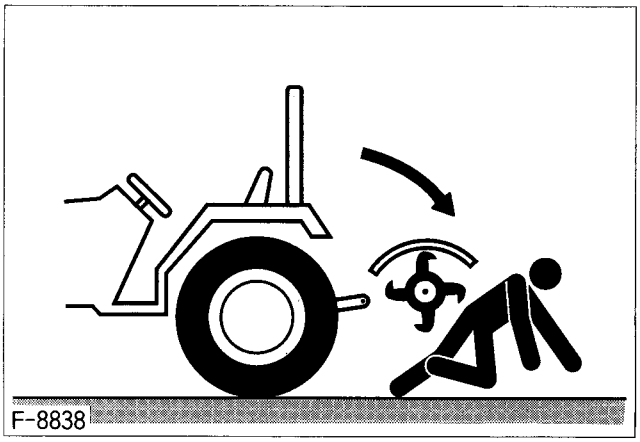
(5)バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL(上限)と LOWER LEVEL(下限)の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)

(6)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

(7)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837

(8)３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

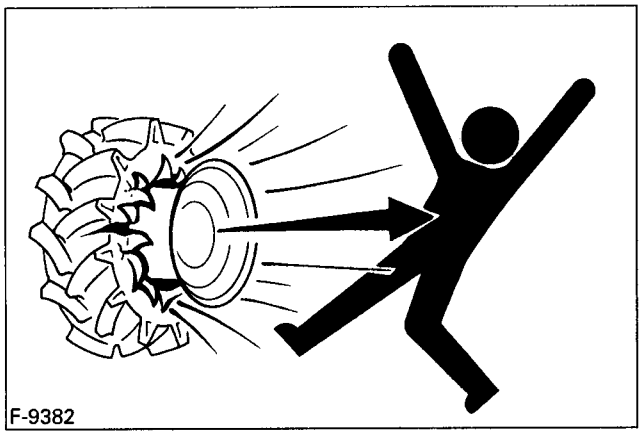

F-8838

⚠ 安全に作業するために

(9)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引起す原因になります。

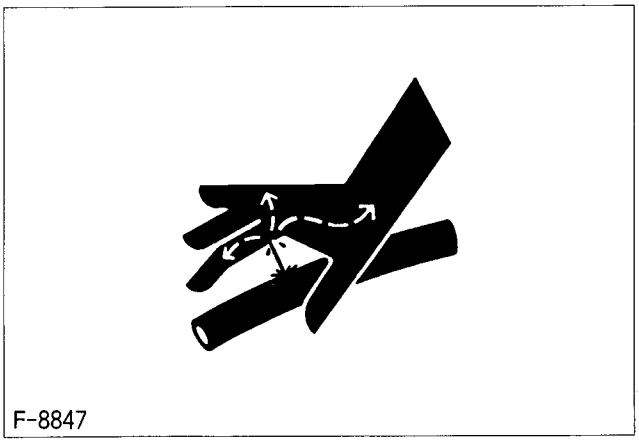
(10)タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

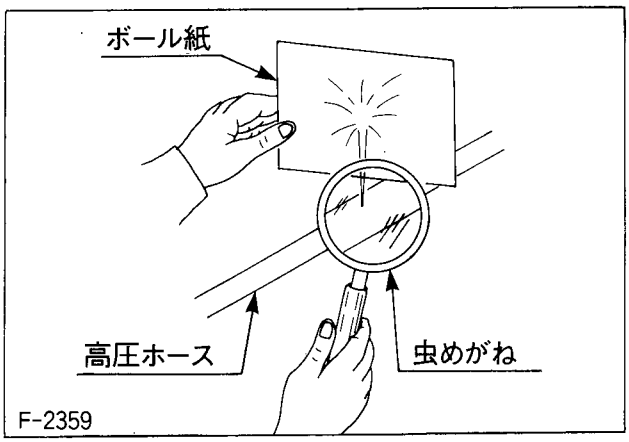
(11)タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)


F-9382

(12)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(13)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。


F-8847



F-2359

9. ▲表示ラベルと貼付け位置

①品番　3F740-3489-1

⚠ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
・シートにすわり、PTOを切り、変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

運転時
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・PTOを切り、変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

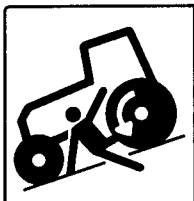
点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

②品番　T0180-4959-1

⚠ 警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
・PTO軸の回転中は近つかないこと
・使用しないときは、PTO軸キャップを装着すること

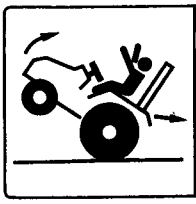
③品番　3F740-9890-1



⚠ 警　告

4輪駆動「入」で駐車ブレーキをかけてもエンジンを停止すると、ブレーキは後輪しか効きません。
タイヤがスリップする恐れがあるので、傾斜地での駐車はしないこと。

④品番　T0180-9404-1



⚠ 警　告

転倒による死傷事故をふせぐために
けん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

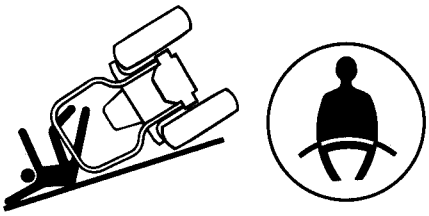
⑤品番　33718-9858-1(M7530AT)

⚠ 注意

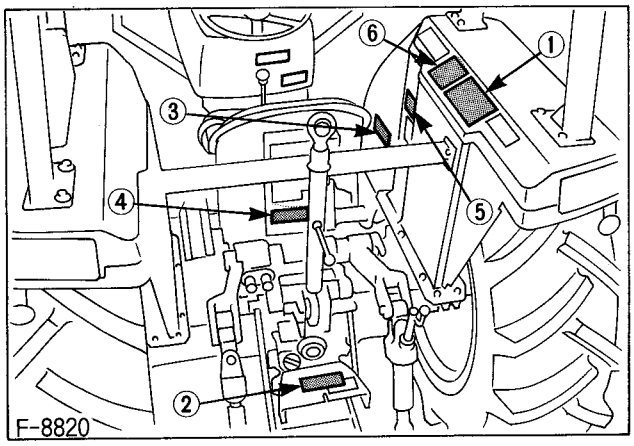
道路走行時の事故防止のために：
●トレッドは必らず左右同じ位置になるように調整すること。
●トレッド調整後は、切替レバーを必らず「トレッド固定」の位置にすること。

⑥品番　T0170-4932-2

⚠ 警　告

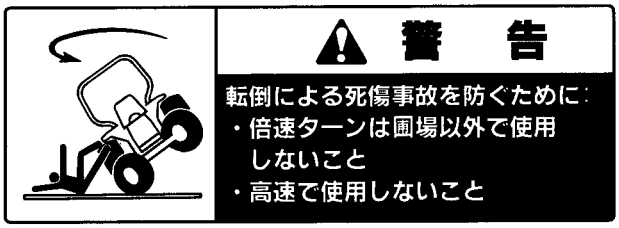


転倒、転落による死傷事故 軽減のために：
・安全フレームを取外して運転しないこと
・運転時はシートベルトを着用すること

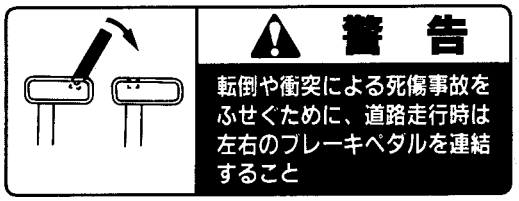


⚠ 安全に作業するために

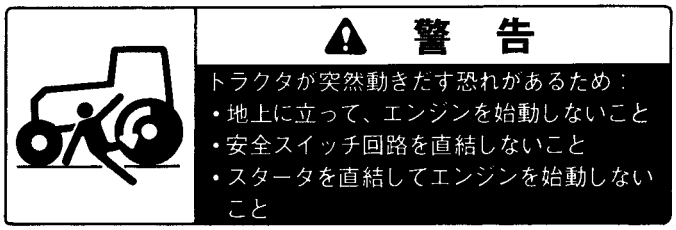
①品番　T0180-4905-1



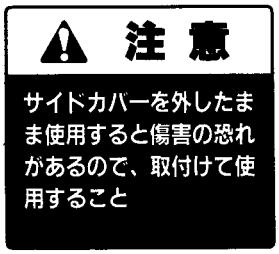
②品番　67955-4746-1



③品番　T0180-4965-2



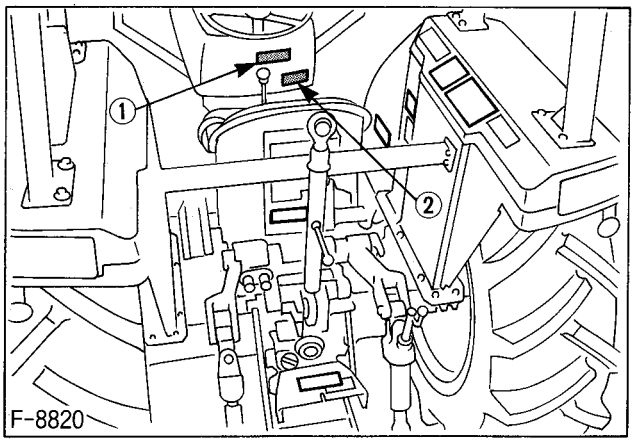
④品番　T0180-4955-1

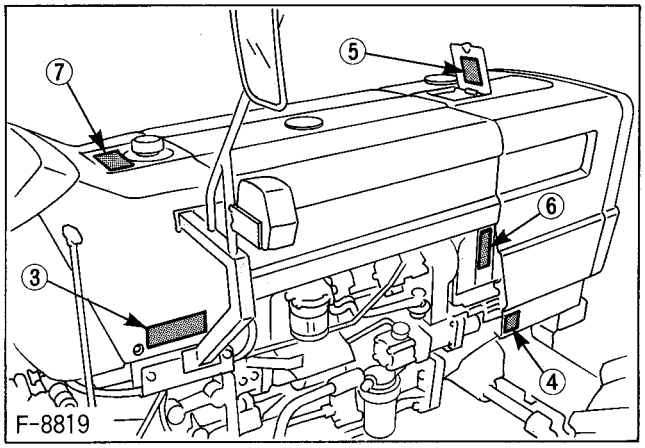


⑤品番　T0180-4954-1

⑥品番　T0180-4957-1

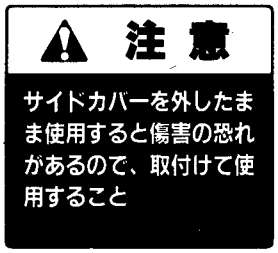
⑦品番　3F740-9828-2





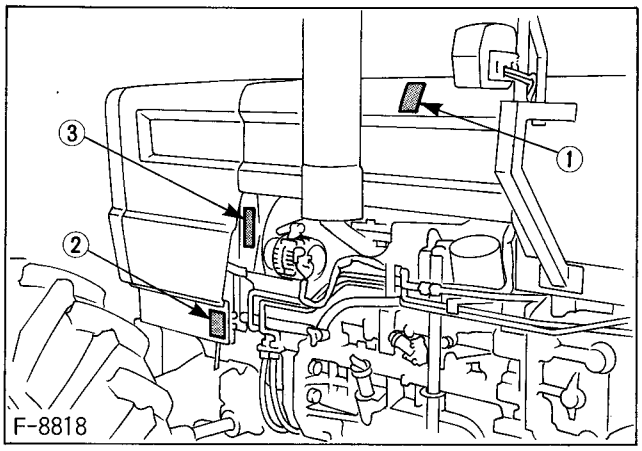
①品番　T0180-4958-1

②品番　T0180-4955-1

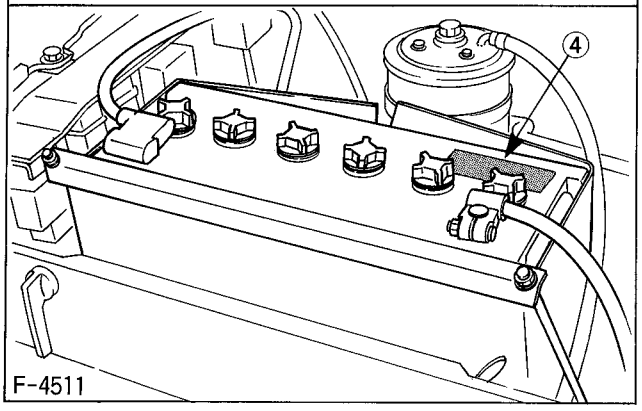


④品番　T1060-3009-1

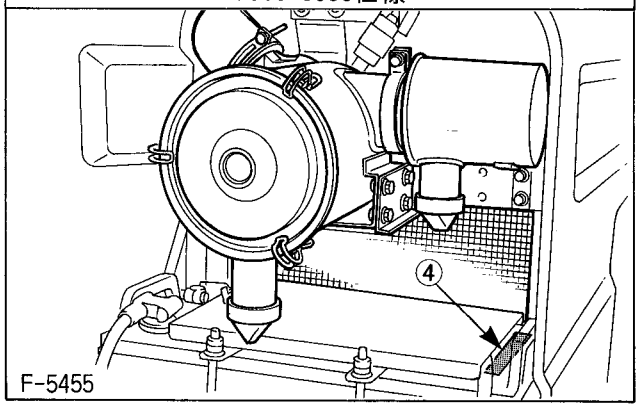
③品番　T0180-4957-1



4830仕様



7530・8030仕様



10. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買いあげいただいた購入先にそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1)トラクタ名称と車台番号
(2)エンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，お買いあげいただいた購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆型式検査(国検)合格番号

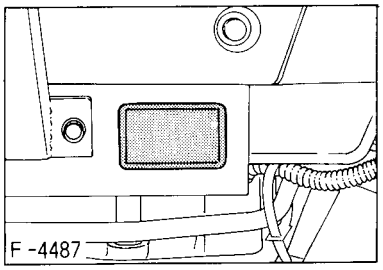
クボタM4830DT……85054
クボタM7530DT……88003
クボタM8030DT……87046

クボタSF48……85085
クボタSF7530……88014
クボタSF8030……87066

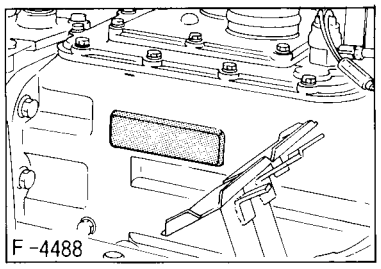
(安全キャブ及び安全フレーム)
検査成績表は61～65ページをご覧ください。

◆新型自動車登録番号

クボタM4830DT……新型自動車第91367号
クボタM7530DT3……新型自動車第91763号
クボタM8030DT3……新型自動車第91762号

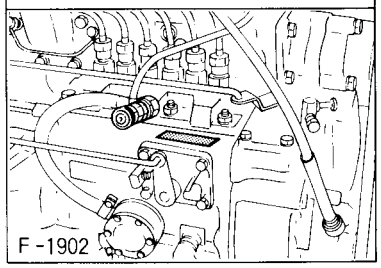


銘　板
トラクタ名称
エンジン名称



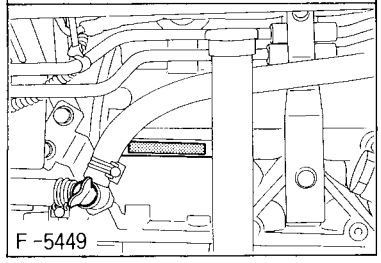
車台番号
(クラッチハウジング右側)

4830仕様

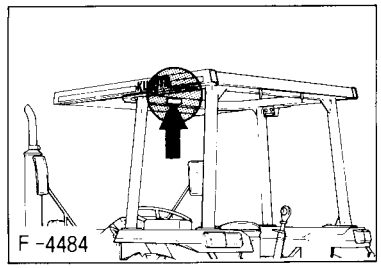


エンジン番号
(エンジンフレーム右側)

7530・8030仕様



エンジン番号
(エンジンフレーム左側)



安全フレーム
銘板

小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。

❷届出が済むと標識(ナンバープレート)が交付されます。

❸標識(ナンバープレート)は，車体の取付け位置に取付けてください。

■免許

重　要

＊このトラクタは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，道路交通法では，大型特殊自動車に該当します。
従って，公道を走行する場合は，
大型特殊自動車の運転免許証が必要です。
必ず所持してください。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊エンジンで封印されている所はさわらないでください。
(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

補　足

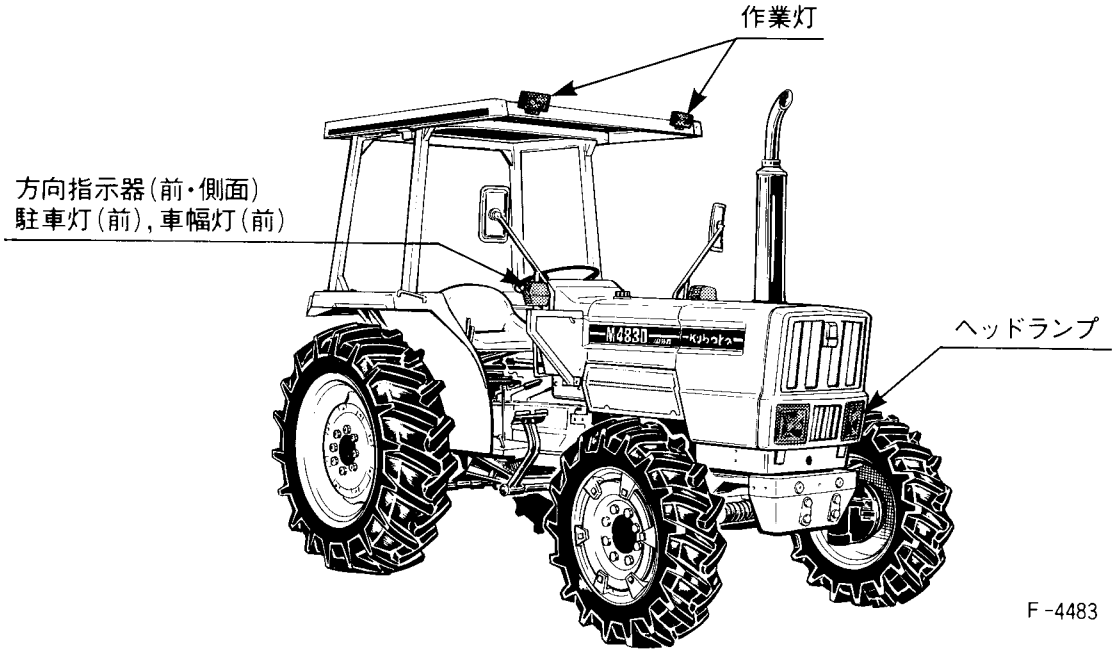
＊インプルメントを装着した状態では**“道路運送車両法の保安基準”**を満足しませんので，道路走行することはできません。

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

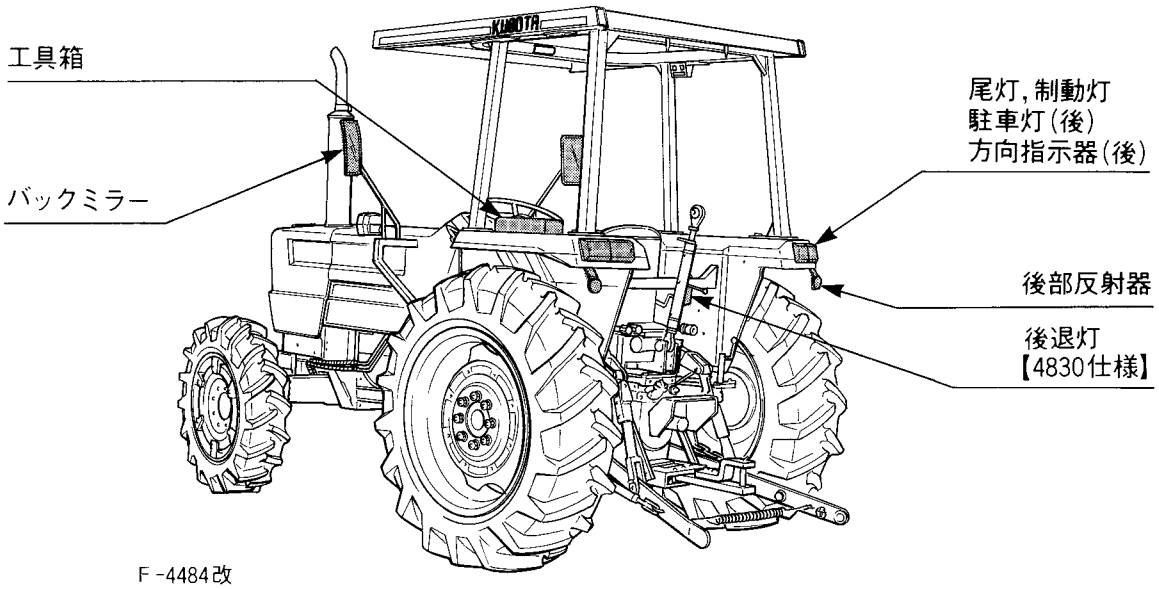
■輪距

道路走行は，必ず指定の輪距で走行してください。
各機種の指定輪距は下表のとおりです。
これを怠ると「道路運送車両法の保安基準」違反になり，道路走行できません。

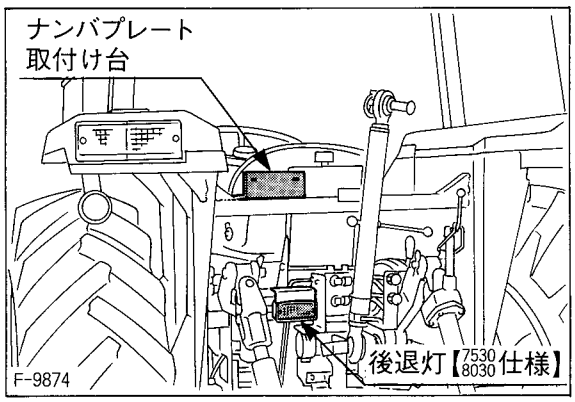
前　輪			後　輪		
形　式	タイヤの呼び	輪距(mm)	形　式	タイヤの呼び	輪距(mm)
M4830DT	8.3－20－6PR	1400	M4830DT	12.4－28－6PR	1420
	8.3－22－6PR			12.4－32－6PR	
	9.5－20－6PR			13.6－28－6PR	
M7530DT	8.3－24－6PR	1400	M7530DT	12.4－36－6PR	1320
	9.5－24－6PR			13.9－36－6PR	
M8030DT	9.5－24－6PR	1510	M8030DT	12.4－36－6PR	1420
	11.2－24－6PR			13.9－36－6PR	
				16.9－30－6PR	



F-4483

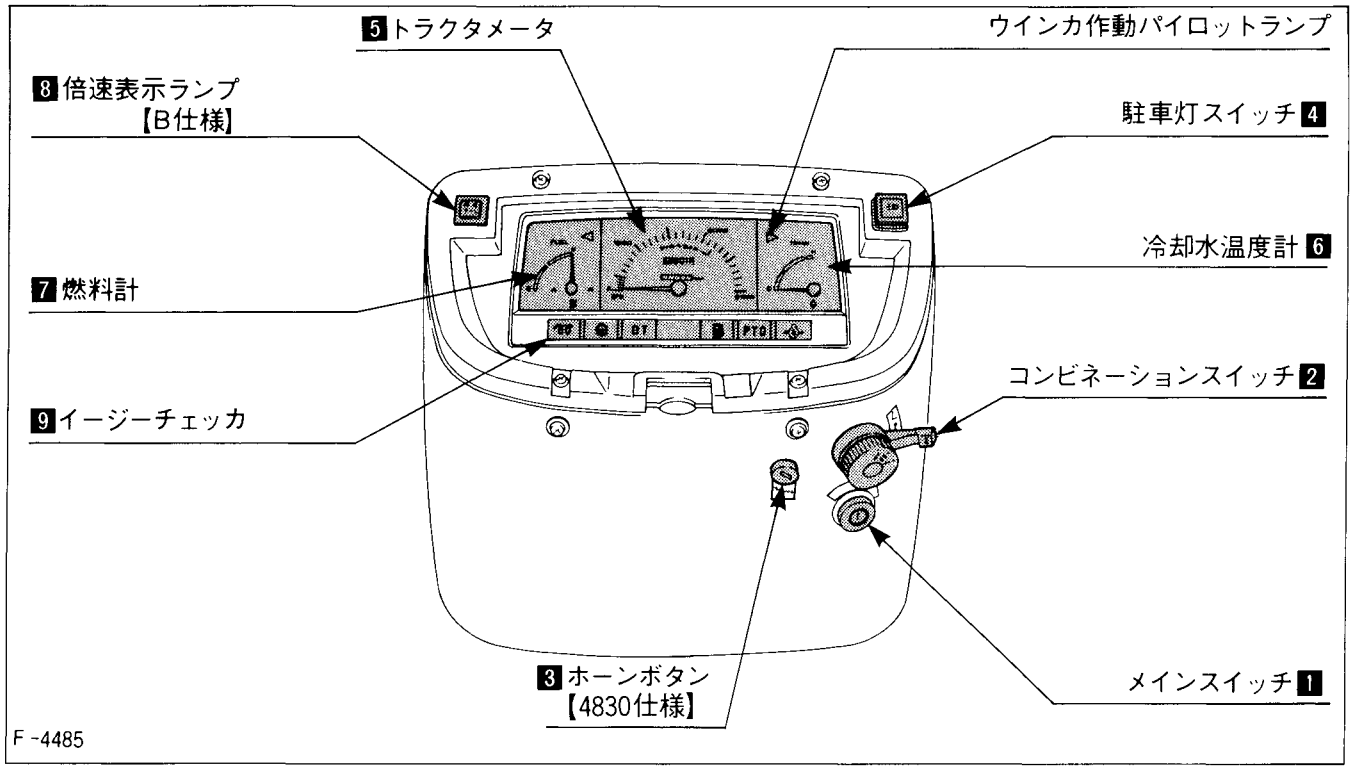


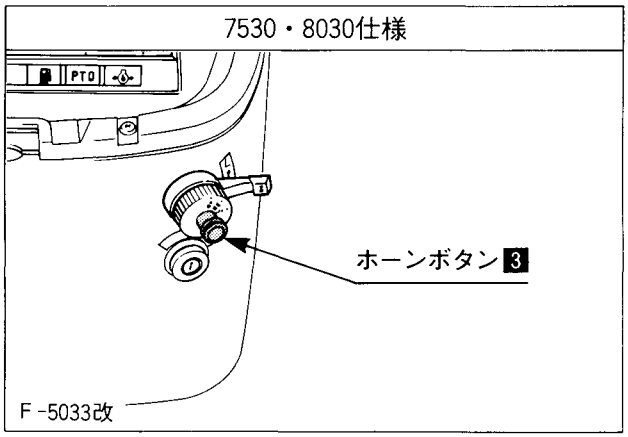
F-4484改

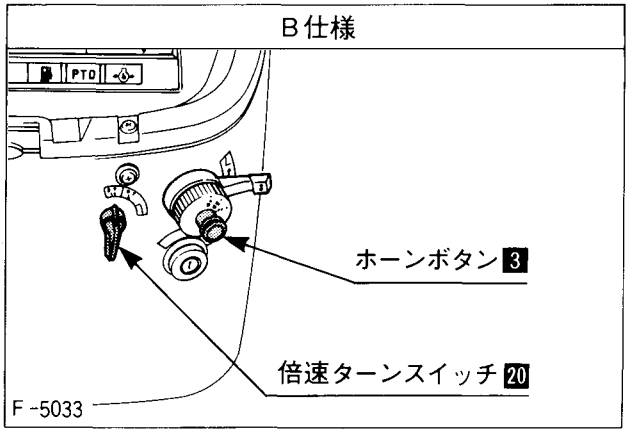


装置の知識について

スイッチとメータの取扱い







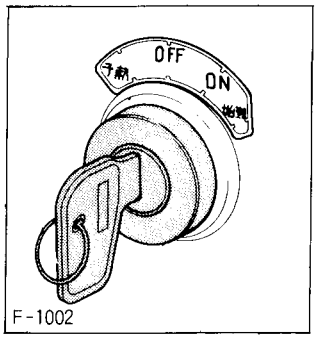
1 メインスイッチ

OFF …… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ON …… エンジン回転中の位置。

予熱 …… 燃焼室内が予熱される位置。

始動 …… 副変速を「中立」にして，エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「ON」に戻ります。
（副変速を「中立」にしないと，始動しません。）



2コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

≡D ……ヘッドランプ上向き照射位置

≡D ……ヘッドランプ下向き照射位置

OFF ……ヘッドランプ消灯位置。

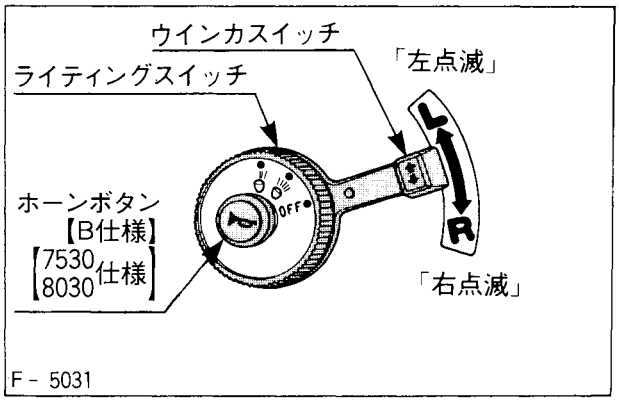
◆ウインカスイッチ

(1)スイッチを操作すると，ウインカランプ及び計器盤のウインカ作動パイロットランプが点滅します。

(2)右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

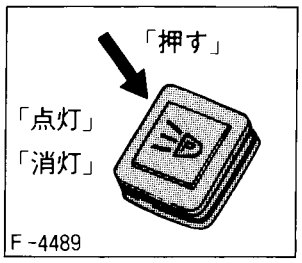
3ホーンボタン

メインスイッチの「ON」「OFF」に関係なく，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



4駐車灯スイッチ

スイッチを押すとスイッチランプが点灯し，「ON」になります。再度押すとスイッチランプが消灯し，「OFF」になります。



5トラクタメータ

エンジン回転速度，PTO軸回転速度，及び使用積算時間を示します。

(1)針はエンジン回転速度と，それに対応するPTO回転速度を示します。

(2)積算時間計は5桁になっており，最後の1桁は$\frac{1}{10}$時間を示します。

6冷却水温度計

(1)メインスイッチが「ON」のとき，冷却水の温度を示します。Cは低温，Hは高温です。

(2)針がHの位置(レッドゾーン)にきたときは，過熱状態です。22ページ「■冷却水」の項を参照の上，点検してください。

7燃料計

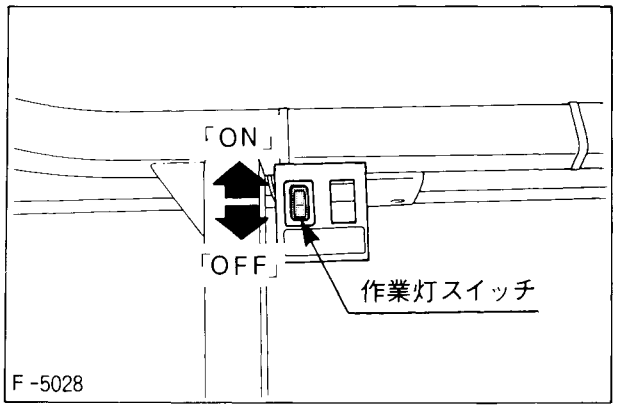
メインスイッチの「ON」「OFF」に関係なく，常に燃料の量を表示します。

8倍速表示ランプ(緑)【B仕様】

メインスイッチを「ON」にし，倍速ターンスイッチが「倍速ターン」で点灯し，「DT入」又は「DT切」で消えます。道路走行時は倍速表示ランプ及びDT表示ランプが消えていることを確認してください。

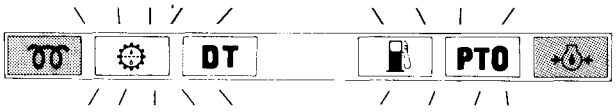
(10ページ「◆倍速ターンの使いかた」参照)

■作業灯スイッチ



9 イージーチェッカ(赤)

F-4490



チャージランプ

グローランプ，エンジンオイル油圧警告灯を除くイージーチェッカ全体がチャージランプになっており，エンジン回転中に充電系統に異常があれば，点灯して警告します。

◆使用方法

(1)エンジン停止中にメインスイッチを「ON」にすると，すべてのランプが点灯します。(グローランプ，エンジンオイル油圧警告灯を除く)

(2)エンジンを始動すると消灯します。

(3)エンジン回転中に検知箇所に異常があれば，ランプが点灯し異常を知らせます。

補　足

＊イージーチェッカのみで日常点検を済ませず，点検は確実に行なってください。(30ページ「作業前の点検について(運行前点検)」参照)

グローランプ

メインスイッチを「予熱」にすると点灯し，完了すると消灯します。

油圧オイルフィルタの目詰まり警告灯

油圧オイルフィルタの目詰まりが多くなったとき点灯して警告します。

点灯したままのときは，油圧オイルフィルタの清掃又はミッションオイルを交換してください。

DT DT表示ランプ

エンジン回転中，前輪駆動レバーが「入」又は倍速ターンスイッチが「DT入」で点灯し，「切」で消えます。道路走行時はDT表示ランプが消えていることを確認してください。

(9・10ページ「◆前輪駆動の使いかた」参照)

燃料残量警告灯

燃料の残量が約10ℓ以下になったとき点灯して警告します。

点灯したままのときは，燃料を補給してください。

PTO PTOランプ

メインスイッチを「ON」にして，PTOクラッチが「切」で点灯し，「入」で消えます。

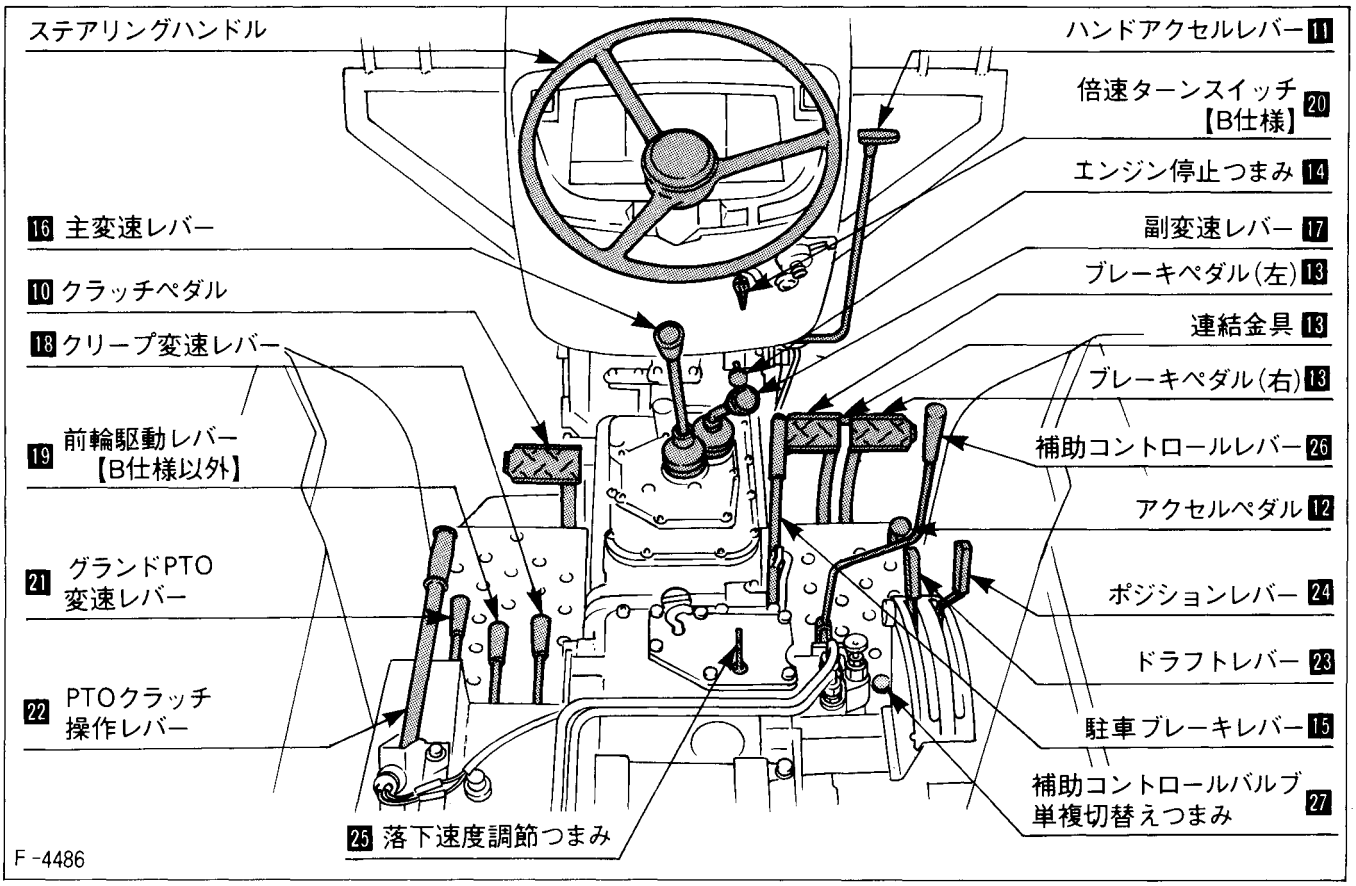
(エンジン回転中はPTOクラッチを「入」(消灯)にしてください。エンジンを破損させる原因になります。)

エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。

点灯したままのときは，エンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

運転装置の取扱い

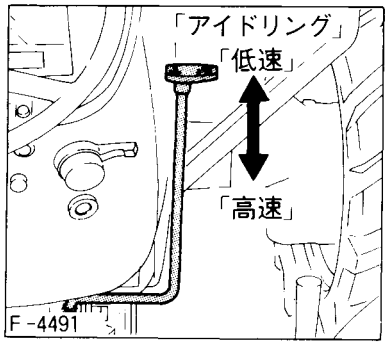


10クラッチペダル

いっぱいに踏込むとクラッチが切れます。
クラッチペダルは，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。
半クラッチ操作は，クラッチの摩耗を早めますので，できるだけ避けてください。

11ハンドアクセルレバー

エンジンの回転速度を作業に合せて選べます。



12アクセルペダル

道路走行時に使用します。

足を離す……アイドリング
踏込む……回転上がる

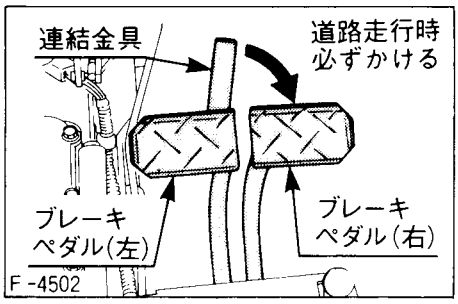
このペダルは，ハンドアクセルレバーと連動しています。ハンドアクセルレバーをアイドリング状態にして使ってください。

13ブレーキペダル

左右それぞれ独立していて，後輪の片輪に，ブレーキをかけることができます。

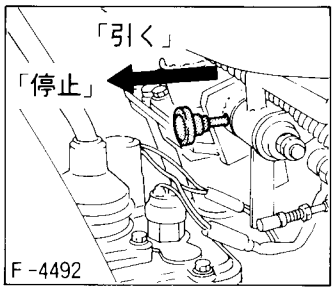
警　告

＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。



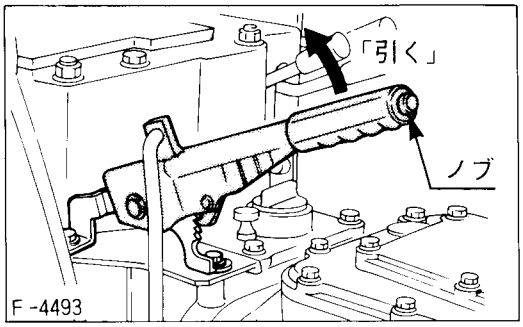
14エンジン停止つまみ

メインスイッチを「OFF」にすると，エンジンが自動的に「停止」します。
万一停止しないときは，エンジン停止つまみをいっぱい「引張る」と，エンジンが停止します。このときエンジン停止装置が働いたままになることがありますので，停止したら停止つまみを押して元に戻してください。戻し忘れるとエンジンが始動しない構造になっています。



15駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを引くとブレーキがかかります。



重　要

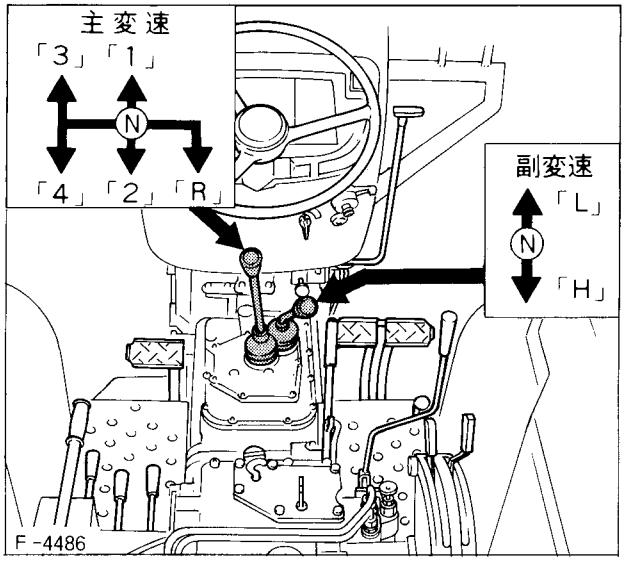
＊駐車ブレーキを引いたまま走行すると，駐車ブレーキを損傷します。

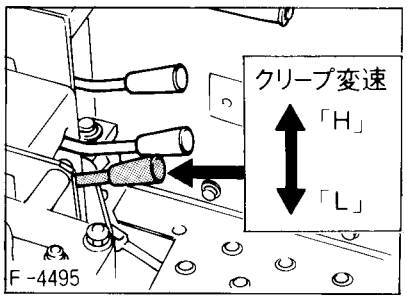
16主変速レバー

17副変速レバー

18クリープ変速レバー

3本の組合せにより，前進16段、後進4段に変速できます。





補　足

【4830・7530仕様】

＊前進の場合，主変速３↔４速は，シンクロメッシュ付きですので，走行時にクラッチを切るだけで変速できます。しかし，１↔２速及び後進するときは，クラッチを切って，トラクタが完全に停止してから操作してください。

【8030仕様】

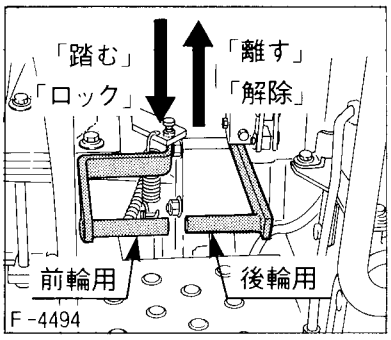
＊前進の場合，主変速はシンクロメッシュ付きですので，走行時にクラッチを切るだけで変速できます。しかし，後進するときは，クラッチを切って，トラクタが完全に停止してから操作してください。

■デフロックペダル

(1)前・後輪の片側がスリップしたときにペダルを踏込むと，左右の車輪がいっしょに回り，スリップを防止します。

(2)ペダルを踏込んでいるときだけデフロックされ，離すと外れます。

(3)21ページ「デフロックの使いかた」をご覧ください。



重　要

＊デフロックが外れないときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏むと外れます。

注　意

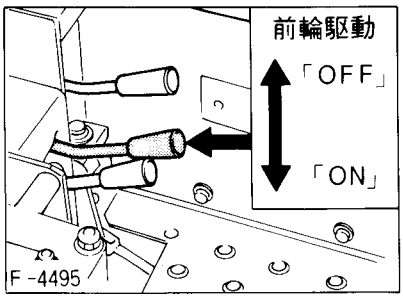
＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。

＊道路走行時は，絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

19前輪駆動レバー【B仕様以外】

前輪駆動の断続に使用します。

駆動レバーを下方に押すと前輪駆動が入ります。



重　要

＊前輪駆動レバーの「OFF」→「ON」への切換えは，クラッチペダルを踏んでから行なってください。

＊前輪駆動レバーの「ON」→「OFF」への切換えは，いったん停車し，ステアリングハンドルを左右どちらかに回しながら切換えてください。

◆前輪駆動の使いかた

前輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。

(1)傾斜地・湿田・トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。

(2)砂地で作業をする場合。

(3)固いほ場でロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

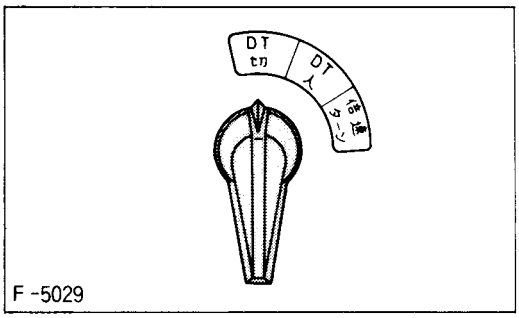
(4)ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

注　意

＊舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。タイヤの摩耗を早めます。
また，高速走行時に，前輪駆動を入れたまま急ブレーキをかけると，思わぬ事故の原因にもなりますので，前輪駆動は必ず切ってDT表示ランプが消えていることを確認してから走行してください。

20倍速ターンスイッチ【B仕様】

前輪駆動及び倍速ターンの断続に使用するスイッチで，
スイッチを「ＤＴ切」にする……２輪駆動
スイッチを「ＤＴ入」にする……前輪駆動（４輪駆動）
スイッチを「倍速ターン」にする
……倍速ターンが入る。



◆前輪駆動の使いかた

前輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。
(1)傾斜地・湿田・トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。
(2)砂地で作業をする場合。
(3)固いほ場でロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
(4)ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

注　意

＊舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。タイヤの摩耗を早めます。
また，高速走行時に，前輪駆動を入れたまま急ブレーキをかけると，思わぬ事故の原因にもなりますので，前輪駆動は必ず切ってDT表示ランプが消えていることを確認してから走行してください。

◆倍速ターンの使い方

警　告

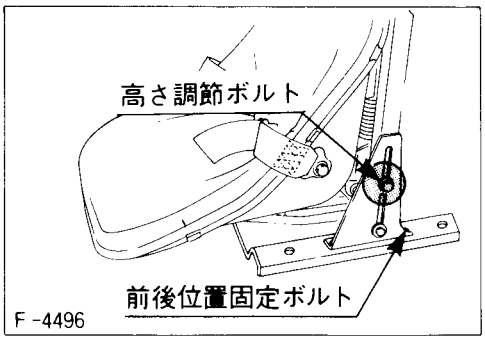
＊倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンスイッチを“DT入”又は“DT切”に切換えてください。
＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

重　要

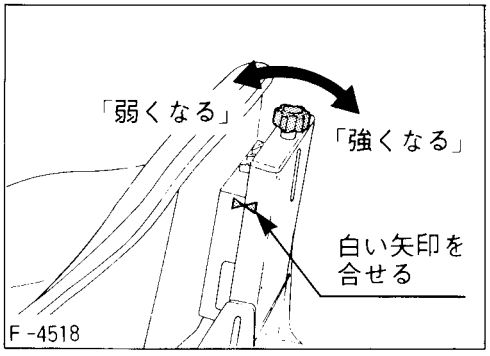
＊プラウなどの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

■シート

(1)ボルト取付位置の変更で，
【4830・7530仕様】……前後３段階
【8030仕様】……前後２段階
の調節ができます。



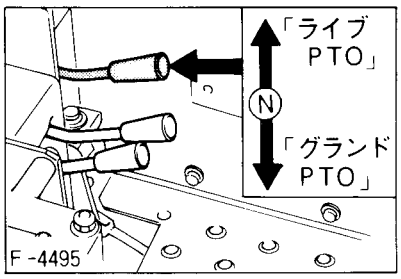
また，高さ調節ボルトをゆるめると上下に調節できます。
(2)後部のつまみを回すと，クッションの強さを調節できます。
座席に座った状態で，白い矢印が一致する位置に調節します。



PTOの取扱い

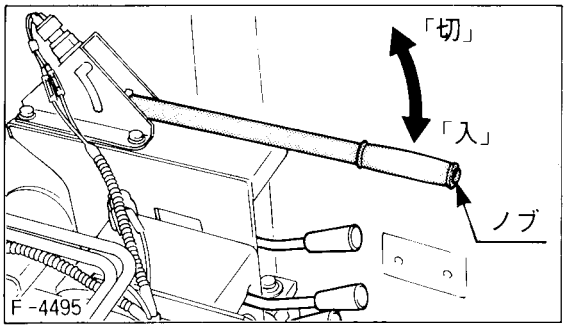
21グランドPTO変速レバー

PTOは，グランドPTO変速レバーによってエンジン駆動「ライブPTO」又はグランド駆動「グランドPTO」が選択できます。



22PTOクラッチ操作レバー

下げるとPTOクラッチが接続し，上げると切れます。



重　要

＊「グランドPTO」↔「ライブPTO」の切換え時，及びPTO回転速度「540」↔「1000」の変速時は，必ずPTOクラッチ操作レバーを上げて(クラッチ「切」状態にして)，操作してください。クラッチが接続状態のまま上記操作をすると故障の原因になります。

＊エンジンを回転して，長時間PTOを使用しないときは，操作レバーを水平(接続状態)にしてください。

＊PTO回転を変えるときのみ操作し，作業中及び走行中は，常に水平状態(PTOランプ消灯)にしてください。もし怠ると，エンジンを破損させる原因になります。

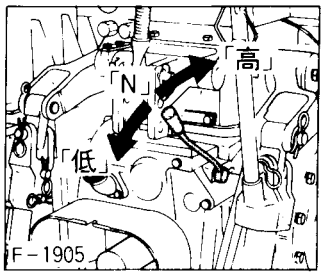
＊PTO軸の回転の停止は，グランドPTO変速及びPTO変速レバーを「中立」にして停止するように心がけてください。

注　意

＊作業機の調整などを行なう場合は，必ずエンジンを停止してください。

■PTO変速レバー

PTO軸の回転速度を２段階に変速できます。



注　意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転(540回転／分)で使用すべき作業機を，高速回転(1000回転／分)で使用すると非常に危険です。

■ライブPTO

PTOクラッチ操作レバーでクラッチを切ります。数秒後，グランドPTO変速レバーを上方「ライブPTO」の位置に動かします。

重　要

＊変速が入りにくいときは，無理に変速しないでください。故障の原因になります。
このときは，PTOクラッチを「接」「断」し，スムーズに変速できる位置を探してください。

PTOをライブPTOにすれば，トラクタの走行と完全に独立します。
したがって，PTOを切らずにトラクタの走行を止めることができ，トラクタ停止中もPTOを使用できます。
各機種のPTO標準回転方向は，トラクタ後方から見て右回転で，標準回転速度は主要諸元(56, 57ページ)を見てください。

■グランドPTO

トラクタを止め，グランドPTO変速レバーを下方「グランドPTO」の位置に動かします。
グランドPTOに変速するときは，PTOクラッチ操作レバーには関係ありません。
各機種のPTO回転速度は主要諸元(56, 57ページ)を見てください。

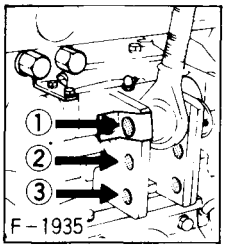
重　要

＊グランドPTOは，ロータリ耕うん，フォーレージハーベスタなどの負荷の大きい作業には使用しないでください。

3点リンクの取扱い

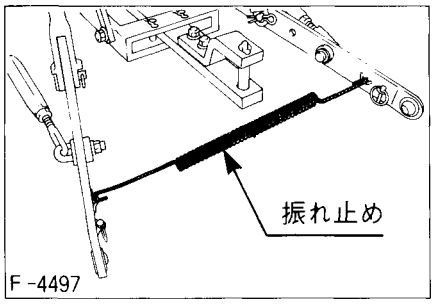
■上部リンク取付け穴

15ページの「油圧装置使用の手引き」に従い取付け穴を選択します。
油圧装置がドラフトコントロールとして作動しているときは，上から下へいくほど敏感になります。
原則として，ドラフトコントロールを使用しない場合は①の穴を使用してください。



■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。
振れ止めを取付けるときは，ドローバは最も縮めた位置にしてください。ロアーリンクを上げたとき，振れ止めがドローバに引掛かり，伸びてしまいます。



■リフトロッドの調整

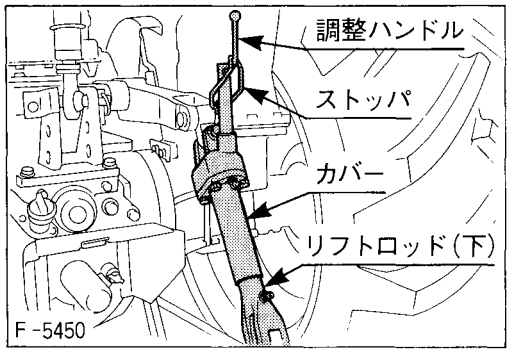
◆リフトロッド(右)

(1)右側の調整ハンドルで，作業機を水平にしてください。

(2)調整後は，ハンドルをストッパで固定してください。

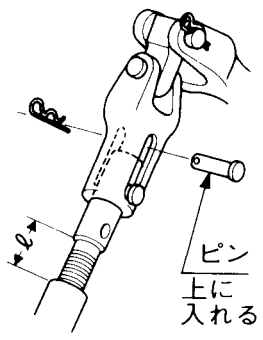
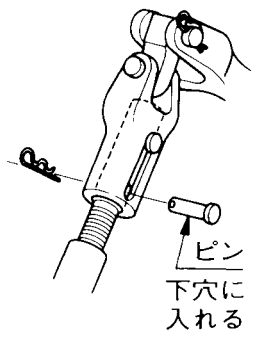
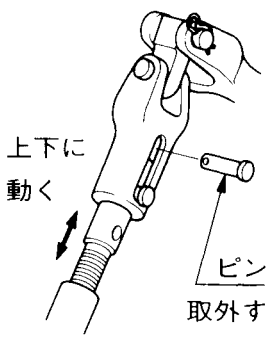
注　意

＊リフトロッド(右)を伸ばしたときは，リフトロッド(下)の上端がカバーから出ないようにしてください。伸ばしすぎると，ネジが外れることがあります。

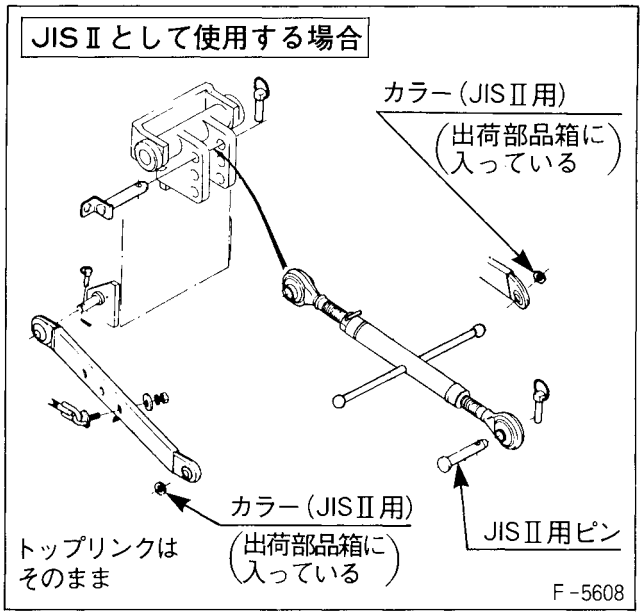


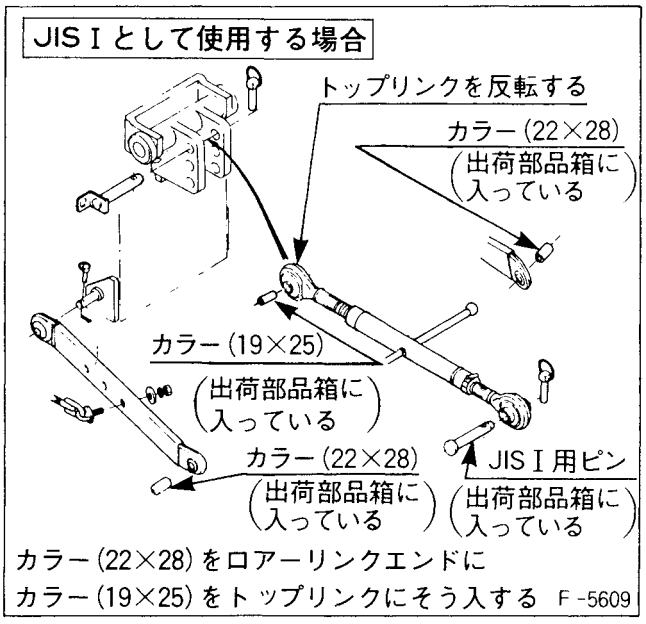
◆リフトロッド(左)及びフローティング機構の取扱い

フローティング機構を働かせると，作業機が地面や耕地の状況に応じて自由に追随します。トラクタより幅の広い作業機での作業に便利です。

伸ばして使用する場合	縮めて使用する場合	フローティングで使用する場合	
			**注　意** **＊ロッドの長さ“ℓ”は，** **【4830仕様】… 70mm** **【7530/8030仕様】…103mm** **以下で使用してください。**

■3点リンクの取扱い【7530・8030仕様】

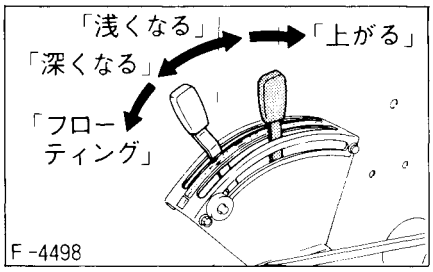




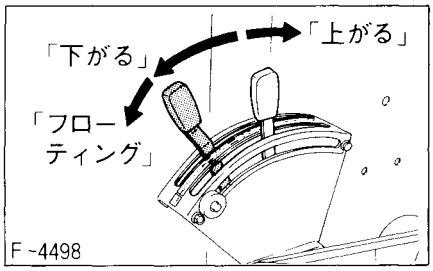
油圧装置の取扱い

油圧昇降装置は，油圧シリンダ，コントロールバルブを含む昇降装置と，エンジン駆動油圧ポンプと油圧パイプにより構成されています。

23ドラフトレバー



24ポジションレバー



■操作方法

油圧装置は，次の3つの操作ができます。油圧操作の形は，使用する作業機の種類によって選ばなければなりません。

◆ポジションコントロール

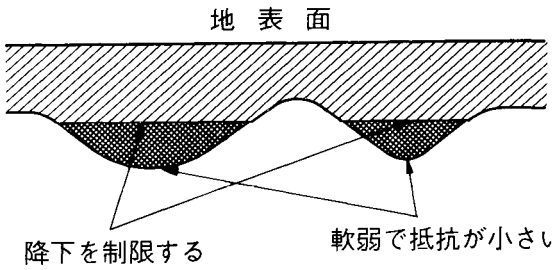
ポジションコントロールを働かすには，ポジションコントロールレバーを操作するだけでOKです。
この場合，ドラフトコントロールレバーは，最下部の位置にしておくことが必要です。
ポジションコントロールは，油圧を完全に**浮動**させる(フローティング)必要のある作業に対しても使用できます。

◆ドラフトコントロール

ドラフトコントロールを働かすには，ドラフトコントロールレバーを操作するだけでOKです。

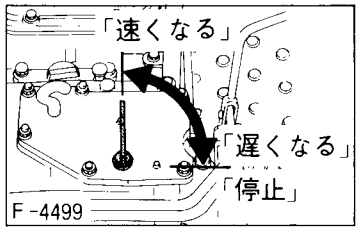
◆ミックスコントロール

通常ドラフトコントロールを使用する場合，けん引抵抗が小さくなると作業機が降下して，自動的に抵抗を大きくする動きとなりますが，必要以上に降下することがあります。
この場合，ポジションコントロールで降下位置を規制することにより，作業を能率よく，きれいに仕上げることができます。



一般作業はドラフトコントロールで，抵抗に応じて自動的に油圧制御するが，けん引抵抗が小さくなった場合の作業機降下量をポジションコントロールで限定してやる，これがミックスコントロールです。

25落下速度調節つまみ



警　告

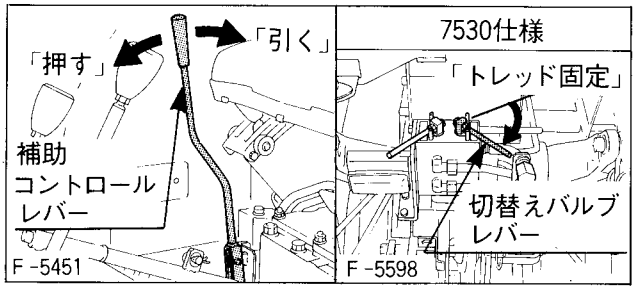
＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調節つまみを「停止」位置にして，作業機の落下を防止してください。

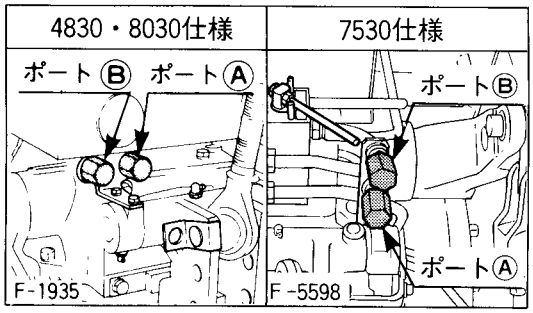
26補助コントロールレバー

補助コントロールバルブ単複切替えつまみにより，「単動」「複動」2種類の操作ができます。

注　意

＊補助コントロールレバーを操作するときは，必ず切替えバルブレバーを「トレッド固定」位置にしてください。【7530仕様】



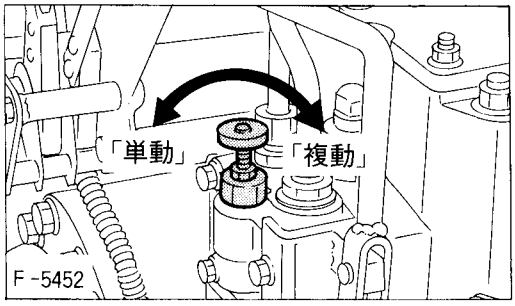


	複　動		単　動	
油圧補助コントロールレバー	ポートⒶ	ポートⒷ	ポートⒶ	ポートⒷ
↑ 引く	→ 吐出	← 戻り	→ 吐出	
↓ 押す	← 戻り	→ 吐出	← 戻り	

	パイプ側ネジサイズ
ポートⒶ,Ⓑ	PT 1/2

27補助コントロールバルブ単複切替えつまみ

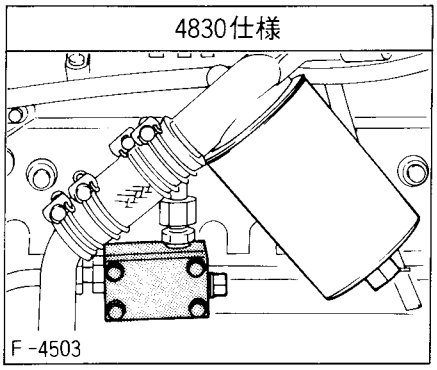
単動……左に回しゆるめる
複動……右に回し締込む

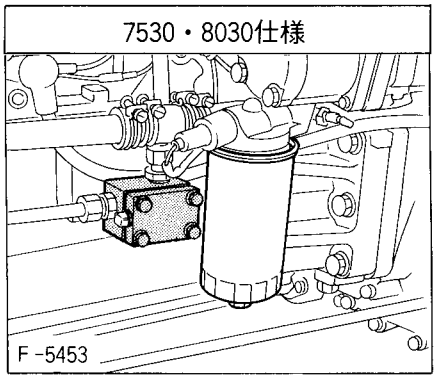


重　要

＊「単動」の作業機を，「複動」の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。
ご使用になる作業機に合せて，切替えてください。

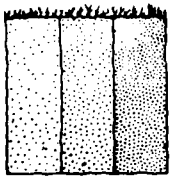
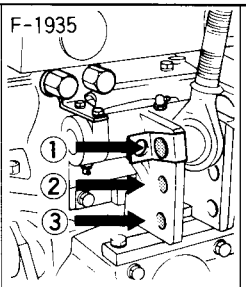
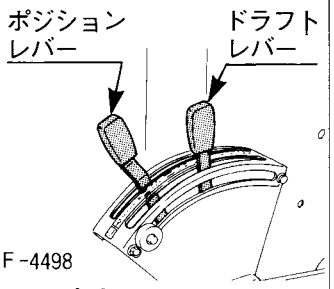
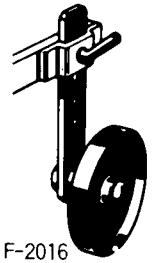
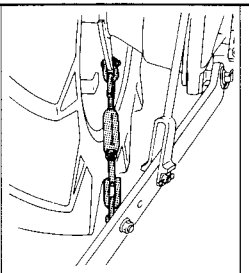
■ドッキングローダ専用油圧取出し装置





油圧装置使用の手引き

油圧装置の正しい取扱いをするために，運転者は次表を熟知してください。これらの指示は，作業の種類，作業機のさまざまな性質及び土地条件が異なりますので，定められた規定として取扱うことはできませんが，経験をつむ手段としてご利用ください。

作業機		土質	上部リンク取付け穴	ポジションレバー ドラフトレバー	ゲージホイール	チェックチェーン	備考
							
ボトムプラウ	1連(単用又は双用)	軽い土壌 中程度 重い土壌	3 3 2又は3	ミックスコントロール 又は ドラフトコントロール	有／無	ゆるめる	作業機が横方向に5～6㎝動くようにチェーンを調整します。作業機持上げ時，過大な横振れはさけます。
	2連(単用又は双用)	軽い土壌 中程度 重い土壌	3 2又は3 2				
	3連	軽い土壌 中程度 重い土壌	2又は3 2 2				
デスクプラウ：2連		—	3				
3連			2				
ハロー(ブレード，ツース又はデスク形)		—	2				
サブソイラ							
ロータリ ウイーダー，リッジャなど		—	1	ポジション コントロール	有	締める	作業中，レバーは最下位に下げておきます。
排土板，穴掘機，スクレーパ，マニアフォーク，後部キャリアなど					有／無		もし，作業機がゲージホイールを持っていれば，作業中はレバーいっぱい下げておきます。
モーア，ヘイレーキ，テッダなど					無		

上手な運転のしかた

エンジンの始動について

警　告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが“中立”かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

重　要

＊雨中ではトラクタを放置しないでください。放置する場合は，マフラパイプから雨が入らないようカバーをしてください。

■始動のしかた

重　要

＊長期格納（１カ月以上）後に始動するときは，エンジン停止つまみを引き，セルモータを約10秒間回転させ，エンジン各部にオイルをゆきわたらせてください。

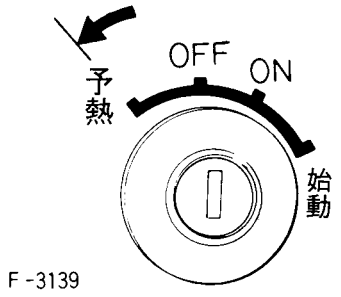
❶座席に座ります。
❷主変速レバー，副変速レバー，及びPTO変速レバーは必ず「中立」にします。

補　足

＊副変速レバーを「中立」にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

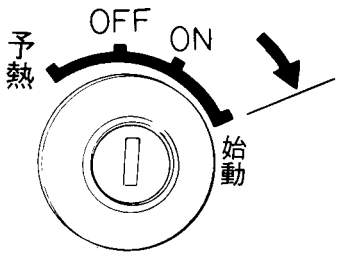
❸ハンドアクセルレバーを「中程」まで引きます。
❹クラッチペダルを「踏込み」ます。
❺メインスイッチにキーを差込み，「ON」位置に回します。
❻イージーチェッカの各ランプが点灯していることを確めます。
❼気温が0℃以下でエンジンが冷えているときは，次の要領でエンジンを始動します。
＊エンジンが暖まっている場合は不要です。

キーを「予熱」位置に回し，イージーチェッカのグローランプが消灯するまで保持してください。



F-3139

❽メインスイッチキーを「始動」の位置に回します。



F-3139

重　要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作を繰返してください。

❾エンジンが始動したら，キーから手を離してください。自動的に「ON」にもどります。

重　要

＊エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障の原因になります。

❿クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま５分程度暖機運転しましょう。
⓫始動後，イージーチェッカの各ランプが消えたことを確めます。

重　要

＊寒冷時の始動直後約１分程度，青白煙を排出することがありますが，異常ではありません。また，それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも，いったん負荷をかけて暖機し，マフラを十分に加熱すれば，ノズルのつまりなどの故障でない限り青白煙は消えます。

冷機時，アイドリング運転の繰返し，及び長時間にわたるアイドリング運転は青白煙排出の原因となりますので極力避けてください。

■寒冷時の始動のしかた

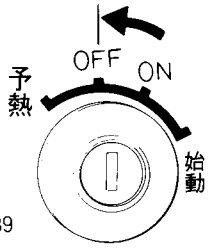
前に述べた❶～❽までの操作を行ないます。

（セルモータを約20秒まで回して始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから，再度❼❽の操作を繰返してください。バッテリ及びセルモータを保護するために，30秒を越えない範囲で，セルモータを回してください。）

エンジンの停止について

❶アクセルレバーをいっぱい前へ「押し」てアイドリング状態にします。

❷メインスイッチのキーを「OFF」の位置にすると，エンジンは止まります。



F-3139

（万一停止しないときは，エンジン停止つまみをいっぱい引張ると止まります。）

❸エンジンが停止して４～８秒後，カチッと音がしますが，これは停止ソレノイドが戻る音です。

【4830仕様】

❹必ずキーは「抜き」ましょう。

重　要

＊エンジンを停止させるために引張った停止つまみは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで押戻しておいてください。
停止つまみを引張った状態にしておくとエンジンは始動しません。

暖機運転について

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

補　足

＊暖機運転中は駐車ブレーキを必ず使用しましょう。

■寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて

特に寒冷地では，気温が下がってオイルが冷えると，粘度が高くなって，始動時に，油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。

このようなことをなくすため，下記のことを必ず守ってください。これを怠ると，油圧系統の故障につながります。

(1)トラクタの始動時は必ず暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
－10℃以上	約　5　分
－10℃～－15℃	10～20分
－15℃～－20℃	10～20分
－20℃以下	20分以上

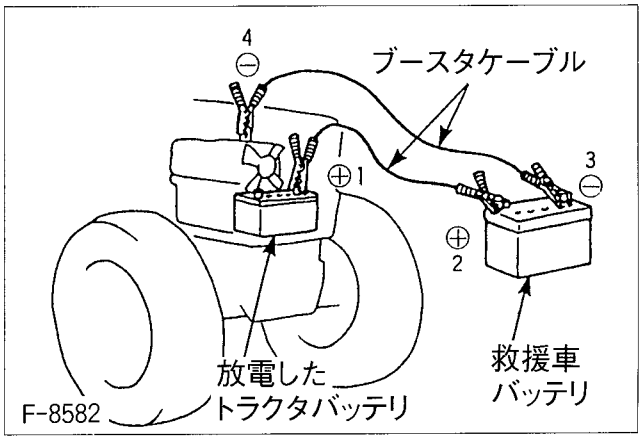
(2)寒冷地域（気温―15℃以下）ではミッションオイルとして，
クボタ純オイルUDT（油圧駆動用）
を使用していただくことをおすすめします。暖機運転は５分程度で済みます。**このオイルはそのまま夏期にも使用できます。**

(3)上記のミッションオイルを使用しても，気温が－20℃以下の場合は，10～15分の暖機運転を行なってください。

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊バッテリの⊕端子同士を接続します
＊マイナスケーブルの他端〔４〕の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端〔４〕を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火する危険があります。）



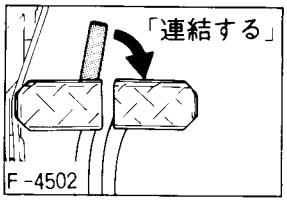
F-8582

❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
❸トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は“エンジンの始動について”の項を参照）
❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

発進・走行のしかた



❶ブレーキペダルが左右「連結」されていることを確認してください。
❷作業機を上げます。
❸クラッチペダルを踏込み，主変速レバー，副変速レバー及びクリープ変速レバーを希望する変速位置に入れます。
❹エンジンを適当な速度に加速します。
❺駐車ブレーキレバーを下げ，クラッチペダルをゆっくり離します。

重　要

＊必ず駐車ブレーキを外してから走行してください。駐車ブレーキをかけたまま走行すると，故障します。
＊変速は必ずクラッチペダルをいっぱい踏込んで行なってください。
【4830・7530仕様】
主変速の１，２速へは走行中に変速できません。主変速の３↔４速は走行中に変速できます。
【8030仕様】
主変速の１↔２↔３↔４速はいずれも走行中に変速できます。
＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
- ●速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- ●作業に応じた変速及びエンジン回転を選択してください。
- ●クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

＊トレーラけん引作業時などの発進は，15速で行ない，次に16速に入れて走行してください。（クラッチの寿命が長くなります。）【4830仕様】
＊作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条（灯光の色などの制限）において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

警　告

＊トラクタを発進するときは，前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また安全レームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。
ブレーキペダルを踏むだけで降りるのは危険です。
＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊高速で旋回すると，横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

停車・駐車のしかた

❶エンジンを低速にします。
❷クラッチペダルとブレーキペダルを踏込みます。
❸トラクタ停止後，主変速レバー，副変速レバーを「中立」にして，クラッチペダルを離し，駐車ブレーキレバーを引いて駐車ブレーキをかけます。
❹作業機を取付けている場合は，作業機を下げます。

注　意

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTOを“切”，作業機を“下げ”，変速レバーを“中立”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

トラックへの積込み積降ろしのしかた

注　意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積み・降ろしは，あらかじめ遅い車速で運転し途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを「連結」しバック(副変速は「L」)で行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリング取扱い上の注意

注　意

＊ハンドル操作は，大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

(1)パワーステアリングは，エンジン運転中のみ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。また，エンジン停止時はパワー装置が働かなくなり，ハンドルが非常に重くなります。なるべくハンドル操作はしないでください。
(2)ハンドルをいっぱい切ると，安全弁が働き信号音が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。短い時間であればかまいません。
(3)不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるのでさけてください。

重　要

＊パワーステアリングのオイルは，クボタ純オイルUDT又はクボタ指定のタービンオイル32(＃90相当)を使用してください。(59ページ参照)
また，油量は検油プラグの位置まで入れてください。(油量2.2ℓ)
油量が多すぎると，ポンプなどの故障の原因になります。

ほ場への出入り時の注意

(1)ブレーキペダルの左右の連結を確認してください。
(2)耕作地への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
(3)耕作地への出入りは，斜めに登り降りせず，直角に行なってください。
(4)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作するようにしてください。
(5)あぜを上がるとき，4輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

ほ場作業時の注意

警　告

＊傾斜地で作業する場合，転倒しやすくなりますので，前後左右のバランスに注意して作業してください。

＊作業中はトラクタの近辺に人を近づけないようにしてください。

重　要

＊クリープ変速の低速「L」では，けん引作業をしないでください。超低速で無理に負荷をかけると故障の原因になります。

デフロックの使いかた

デフロック装置は，上手に使うと非常に役立ちますが，使用方法を誤ると非常に危険であり，故障の原因にもなりますので，特に注意してください。

■デフロック装置を使うとき

(1)ほ場への登り降りに片車輪がスリップして直進できないとき。
(2)フロントローダ作業で前・後輪の片側がスリップした場合。
(3)ほ場の一部の軟弱なところに片車輪が入り込みスリップして，走行不可能なとき。
(4)プラウ作業の場合に車輪がスリップするとき。

重 要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてください。
＊ペダルを離すと，デフロックは自動的に外れますが，抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏むか，ステアリングハンドルを左右に軽く回してください。

注 意

＊デフロックを入れたままでは旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊道路走行時は，絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

運転中の作動点検

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

■油圧

油圧サクションパイプの負圧が規定圧力以上になると，イージーチェッカのランプが点灯します。そのまま使用すると油圧ポンプ故障の原因になりますので，油圧フィルタを交換してください。また，必要ならミッションオイルを交換してください。

■チャージランプ

グローランプ，エンジンオイル油圧警告灯を除くイージーチェッカ全体がチャージランプになっており，エンジン回転中に充電系統に異常があれば，点灯して警告します。

■燃料

フューエルタンクを空にしないようにしましょう。空にすると，燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。(36～38ページ参照)
イージーチェッカの**燃料残量警告灯**が点灯したら燃料を補給してください。

■エンジンオイルプレッシャ

エンジンオイルの圧力が，規定圧力以下になったらイージーチェッカの**エンジンオイル油圧警告灯が点灯**して，運転者に危険を知らせます。
運転中に点灯した場合(エンジン1000回転以上でも消灯しない場合)は，すぐにエンジンを止めて，次の点検をして整備してください。
(1)エンジンオイルの量の点検(31ページ参照)
(2)潤滑油系統の点検。

■冷却水

水温計の針がHの位置(レッドゾーン)にきたときは，エンジンを止め，下記の警告文にしたがい，次の点検・整備をしてください。

(1)冷却水の量(不足)，及び水もれ。
(2)防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
(3)ファンベルトの張り(ゆるみ)。
(4)ラジエータ水管の中に，水アカがたまっていないか。

注　意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

■PTOランプ

(1)PTOクラッチレバーが「切」の位置にあるとき点灯して運転者に知らせます。
(2)点灯時間が長いと，それだけクラッチバネ・クラッチベアリング及びエンジンに負担をかけますので，5分以上「切」の状態にするのはさけてください。
(3)走行などでPTOが不要なときは，グランドPTO変速レバーを「中立」にして，PTOクラッチレバーを水平の状態にしてPTO回転を止めてください。

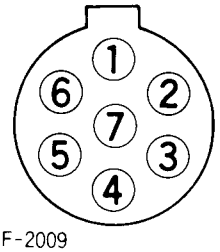
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

(1)回転が急に下降したり上昇したりする。
(2)突然，異常な音をたてた。
(3)排気色が急に黒くなった。
(4)運転中，オイルランプが点灯した。

＊点検整備は，購入先に相談の上，その指示にしたがってください。

トレーラ用カプラ

(1)トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。(品番：99884－48000)
(2)電源は右上図のとおりです。



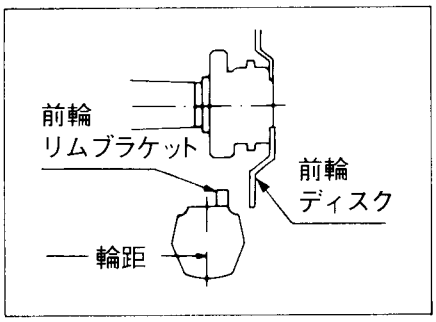
F-2009

①アース
②尾灯(8W)
　車幅灯(8W)
　駐車灯(8W)
③方向指示器左(23W)
④制動灯(23W×2)
⑤方向指示器右(23W)
⑥予備
⑦後退灯(10W)

輪距の調節

■前輪

リムとディスクの取付け位置変更により，【4830仕様】は4段階に，【7530仕様】は8段階に，【8030仕様】は4段階に変えられます。



■後輪

後輪輪距は，【4830・7530仕様】は8段階に，【8030仕様】は6段階に変えられます。

輪距の変更は，

❶ジャッキで，左右の後輪を浮かす。

【4830・7530仕様】(24，25ページ参照)

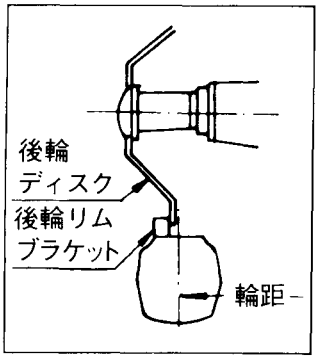
❷No.(1)～No.(4)又はNo.(5)～No.(8)は，後輪ディスクを取外すことなく，後輪リムの移動又は左右を交換することによってできます。

「12.4—28」，「12.4—32」のタイヤは，リムブラケットがダブル構造になっていますので，後輪リムの移動のみでできます。

【8030仕様】(26ページ参照)

❷No.(2)～No.(4)又はNo.(5)～No.(8)は，後輪ディスクを取外すことなく，後輪リムの移動又は左右を交換することによってできます。

「13.9—36」のタイヤは，リムブラケットがダブル構造になっていますので，後輪リムの移動のみでできます。

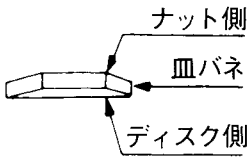


補　足

＊タイヤは側面の矢印が，前進時の回転方向に合うように取付けてください。

＊後輪ウエイトは,(1)～(4)の輪距で取付けられます。

＊皿バネの取付け方向には十分注意し，右図のようにしてください。



■後輪油圧アジャスタブルトレッドの調整【7530仕様】

◆調整要領

❶エンジンを始動し，エンジン回転をアイドリング状態にします。

❷補助コントロールバルブ単複切替えつまみを，「複動」位置にします。(14ページ参照)

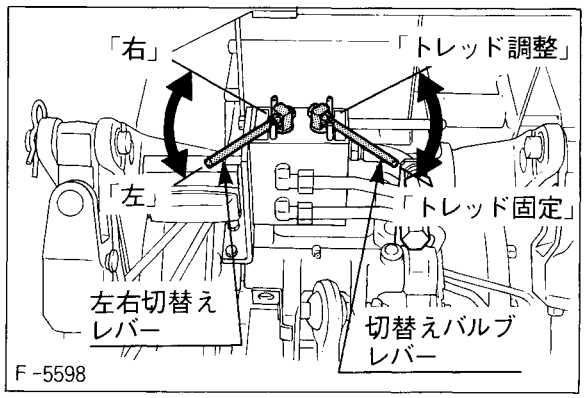
❸切替えバルブレバーを「トレッド調整」位置にします。

❹左右切替えレバーを「右」又は「左」に切替え，低速で進みながら，補助コントロールレバーで操作してください。

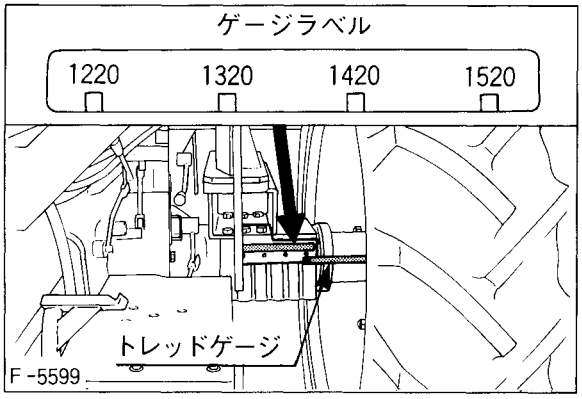
補助コントロールレバーを，

「引く」……トレッドが広くなる。

「押す」……トレッドが狭くなる。



❺トレッドゲージを見ながら希望する位置に調整してください。



❻❹，❺の操作で，もう一方のトレッドも同じ位置に調整してください。(25ページ参照)

トレッドNo.	ゲージラベル(mm)			
	①1220	②1320	③1420	④1520
(1)	1220	1320	1420	1520
(2)	1320	1420	1520	1620
(3)	1420	1520	1620	1720
(4)	1520	1620	1720	1820
(5)	1620	1720	1820	1920
(6)	1720	1820	1920	—
(7)	1820	1920	—	—
(8)	1920	—	—	—

❼トレッド調整後は，切替えバルブレバーを「トレッド固定」位置にしてください。

重　要

＊トレッドを調整する前に，車軸のメッキ部分を水洗いしてください。(土が付着した状態でトレッド調整を行なうと，オイルシールの寿命が低下する原因になります。)

＊エンジン回転は，必ずアイドリング状態で調整してください。

注　意

＊トレッド調整は，必ず1920mmを越えないようにしてください。

▶もし怠ると……

故障の原因になります。

＊トレッド調整後は，切替えバルブレバーを必ず「トレッド固定」位置にしてください。

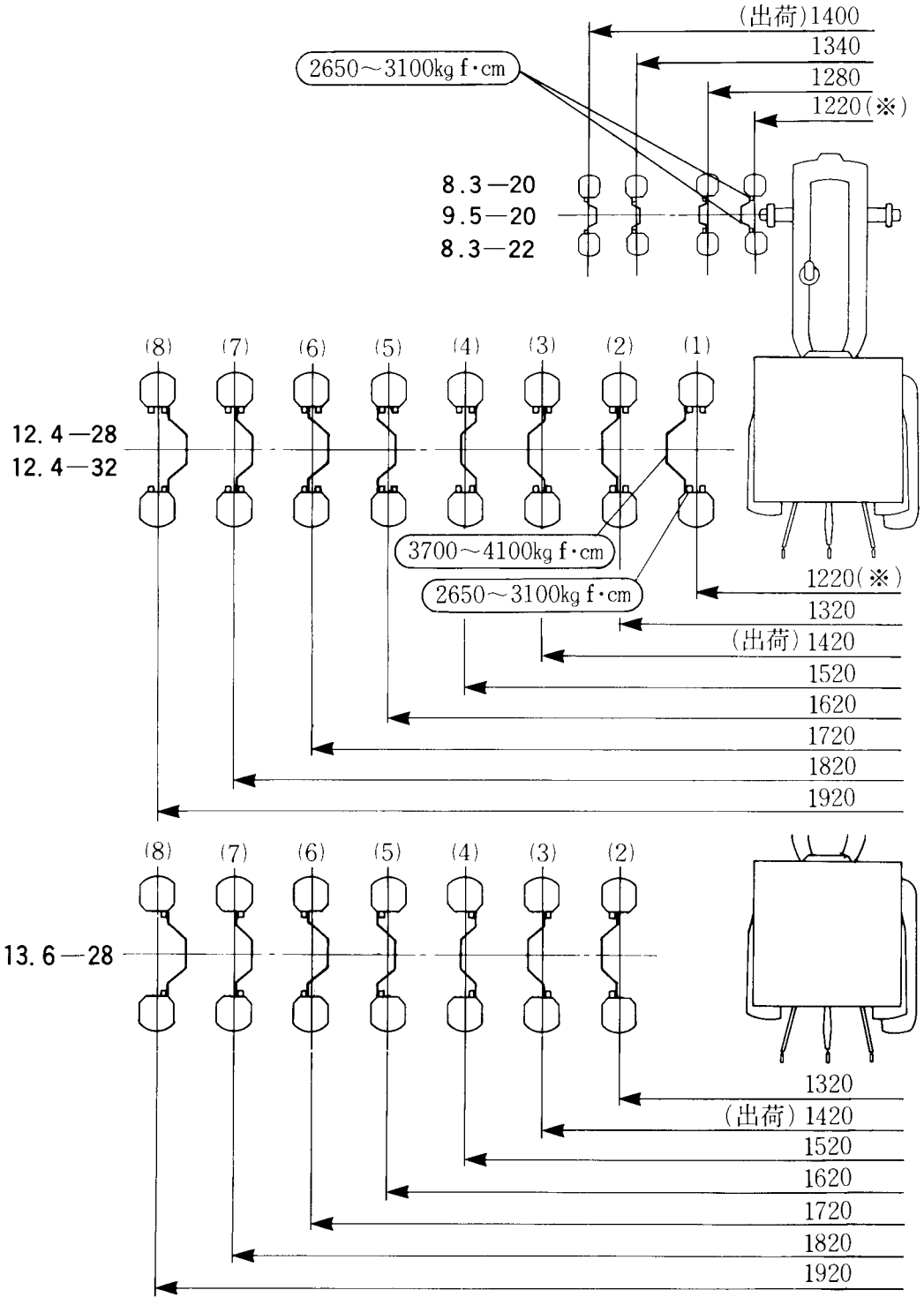
▶もし怠ると……

誤操作による傷害事故を引起すおそれがあります。

M4830DTの輪距

注　意

＊最小輪距で傾斜地作業する場合は転倒に十分注意してください。(※印)

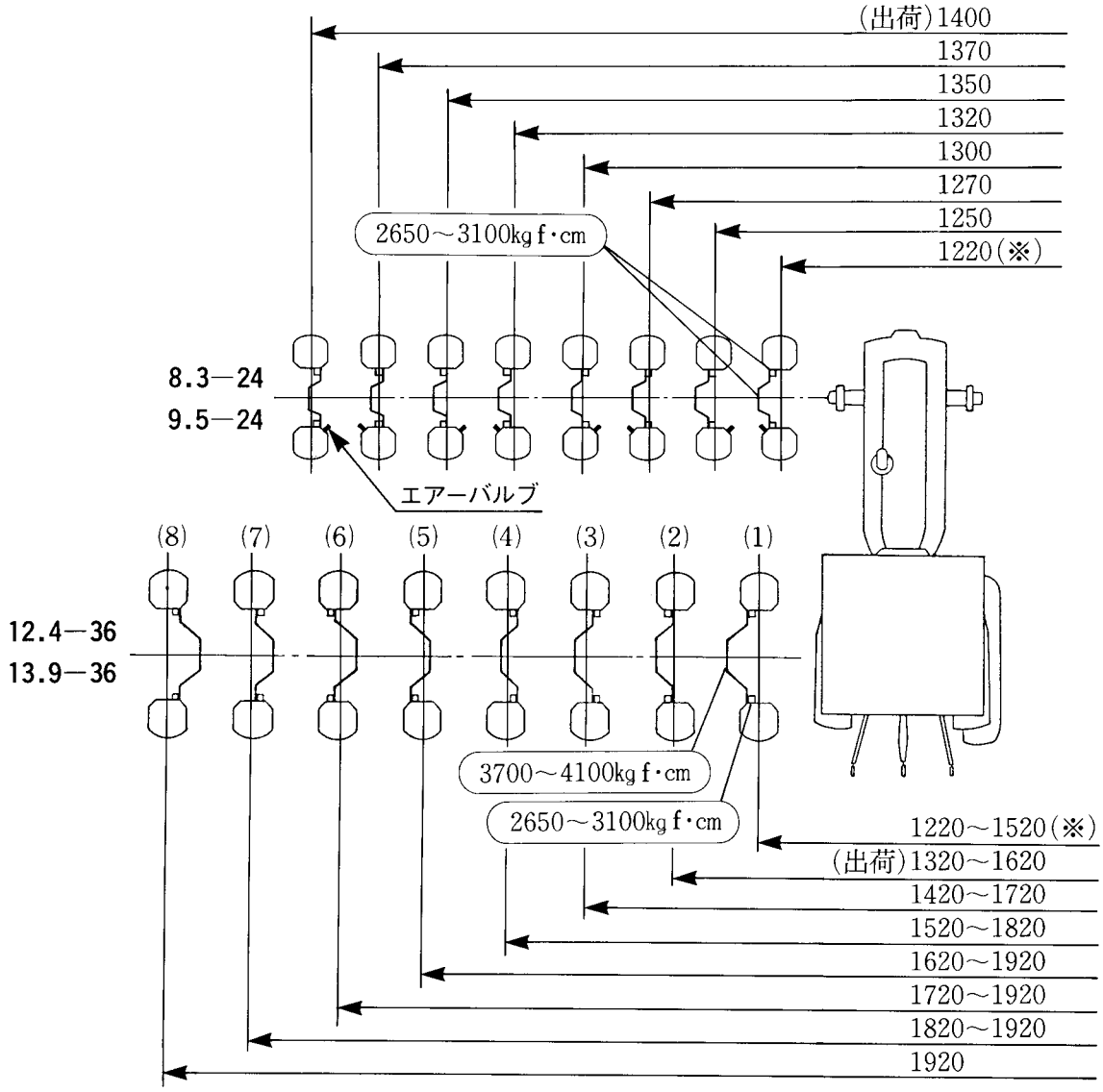


F－4520改

M7530DTの輪距

注 意

＊最小輪距で傾斜地作業する場合は転倒に十分注意してください。(※印)

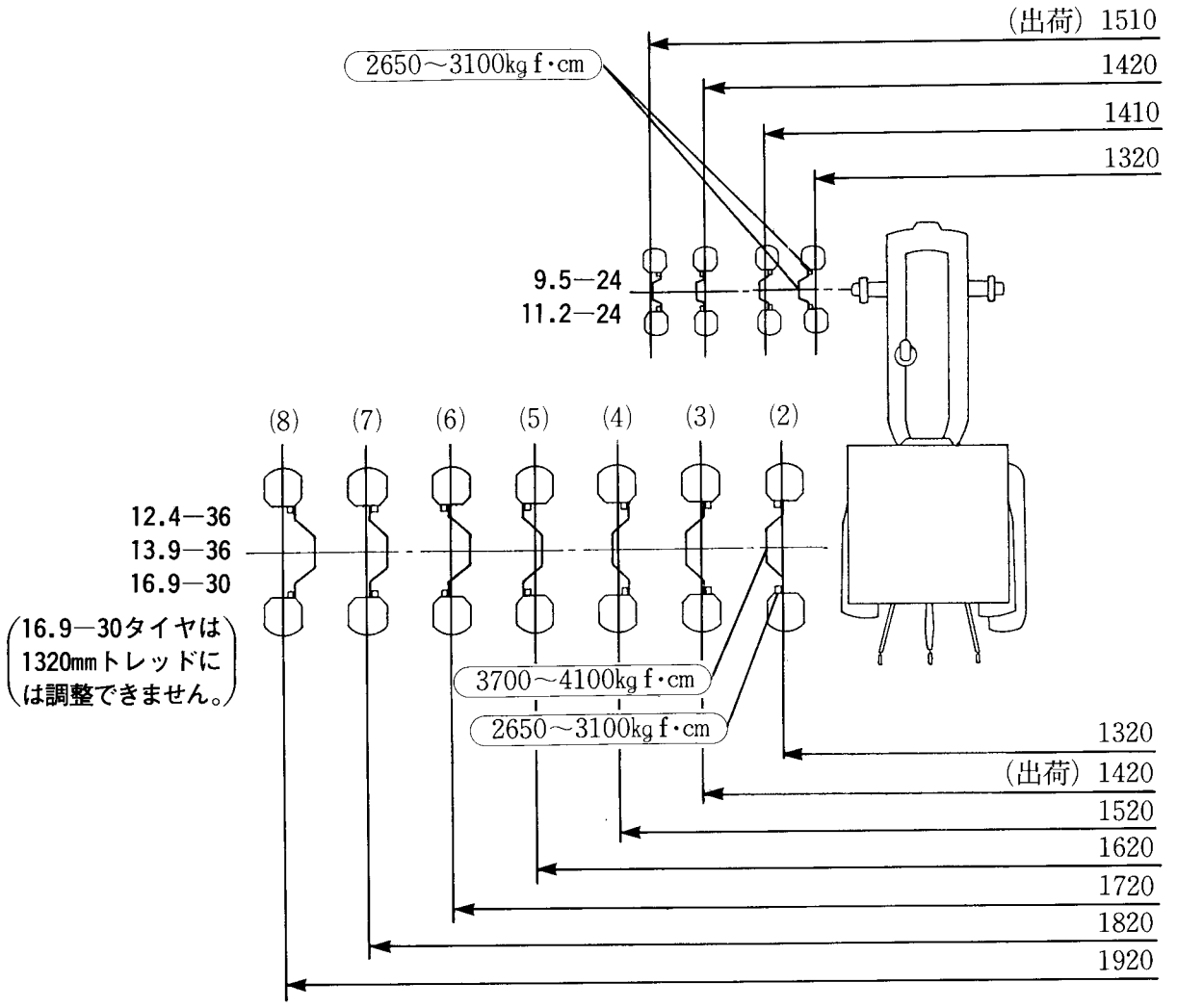


注 意

＊トレッド調整は，必ず1920㎜を越えないようにしてください。

M8030DTの輪距

（　　）内数値は締付けトルクを示します。



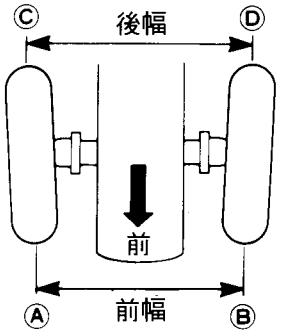
F-4520改

トーインの点検・調整

トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

■トーインの点検

前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～８㎜になっているかを調べます。



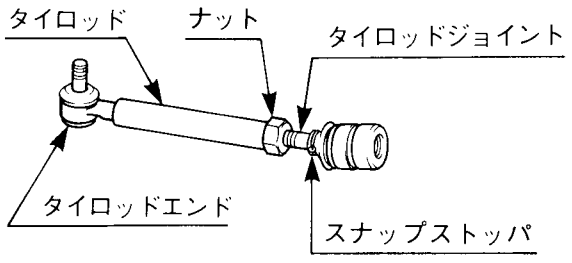
F-3197

■トーインの調整

スナップストッパを取外してナットをゆるめ，タイロッドジョイントのネジ部を左右に回して調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。

タイロッドエンドは外さなくてもかまいません。



F-4475

前輪切れ角の調整

トレッドを狭くして使用するときは，旋回時タイヤが本体に接触することがありますから，次の要領で切れ角を調整してください。
切れ角の調整は，ストッパの交換で行ないます。

■ストッパ交換要領

【M4830・7530仕様】

タイヤサイズとトレッドから，下表を見ながら適正な切れ角を確認してください。

トレッド(mm) / タイヤサイズ	1400	1340	1280	1220
8.3-20	50°			45°
9.5-20				
8.3-22				

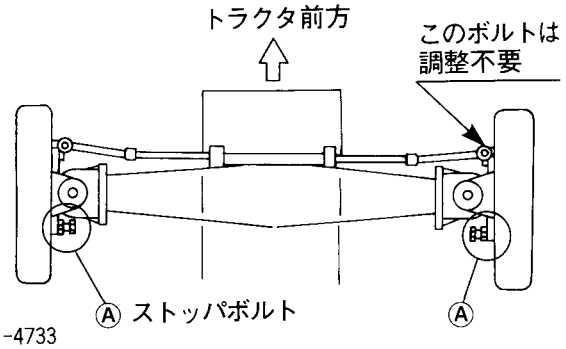
トレッド(mm) / タイヤサイズ	1400	1370	1350	1320	1300	1270	1250	1220
8.3-24	50°	45°		44°		36°		
9.5-24				44°	36°			34.5°

◆切れ角を50°に調整する場合

ストッパボルトを前側ボルト(下図の『このボルトは調整不要』)と同時当り又は１～２㎜の隙間になるようにセットしてください。

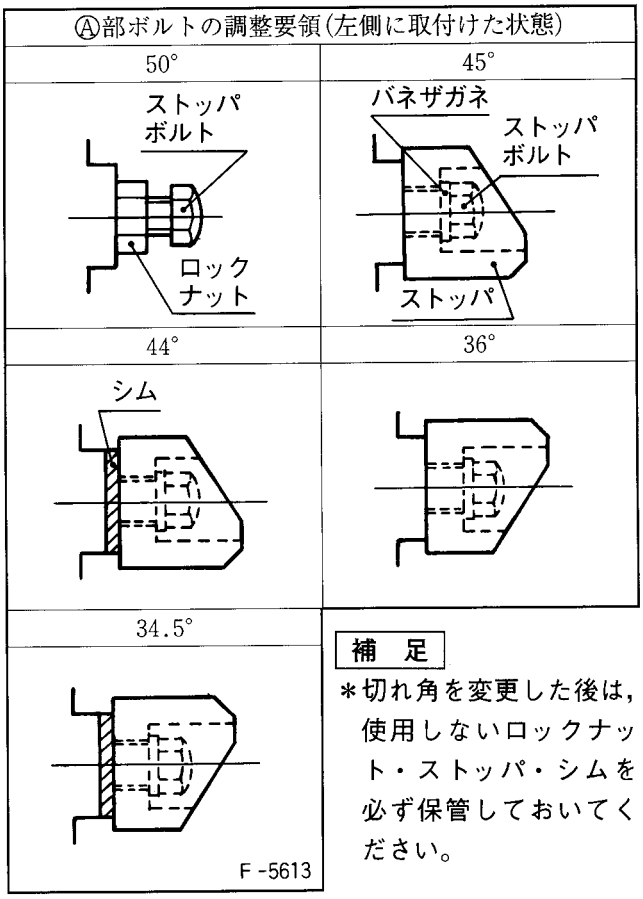
◆切れ角を45°～34.5°に調整する場合

❶ストッパとシムを右図のように取付け，ストッパボルトで軽く締付けてください。
❷エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパを２～３回ベベルギヤーケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)
❸その後，ストッパボルトを締込みますが，ストッパの位置がずれないようにするため，付属のモンキーレンチでストッパの回り止めをしてからストッパボルトを強く締込んでください。



F-4733

Ⓐ部ボルトの調整要領(左側に取付けた状態)

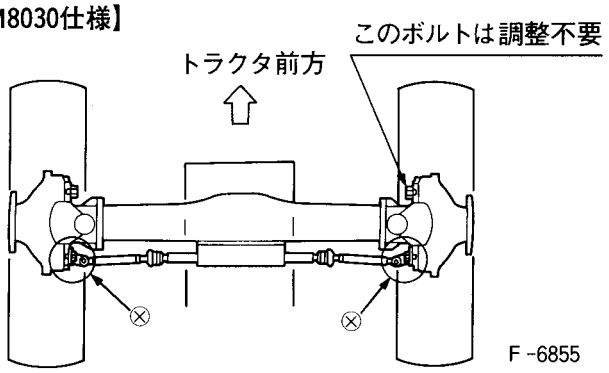


F-5613

補　足

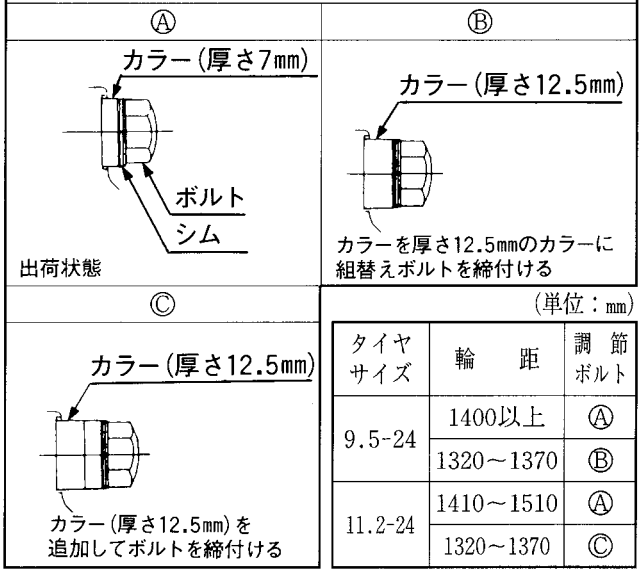
＊切れ角を変更した後は，使用しないロックナット・ストッパ・シムを必ず保管しておいてください。

【M8030仕様】



F-6855

Ⓧ部ボルトの調整要領



(単位：mm)

タイヤサイズ	輪　距	調節ボルト
9.5-24	1400以上	Ⓐ
	1320～1370	Ⓑ
11.2-24	1410～1510	Ⓐ
	1320～1370	Ⓒ

F-6855

ターフタイヤ仕様について

■後輪ダブルタイヤ取付要領

作業を始める前に，必ずお読みください。

警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

注　意

＊安全のために，車輪に必ず歯止めを使用してください。

❶トラクタのエンジンを止め，駐車ブレーキを引いてください。

❷後輪取付けナット①を１個おきに４個取外し，皿バネ③はそのまま使用し，付属のダブルタイヤ取付け金具②を取付け，締付けます。

……締付けトルク　35～41kg・m

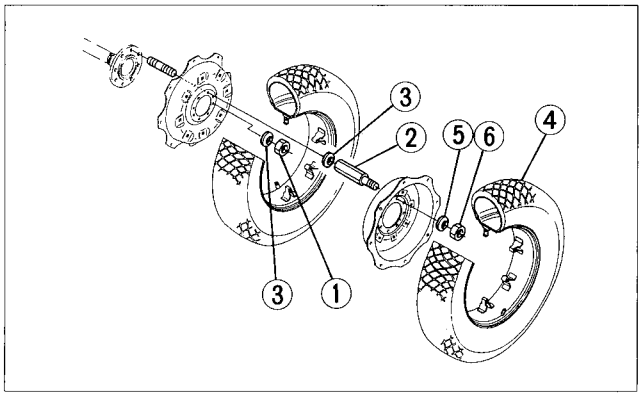
❸残り４個のナットを取外し，❷と同じ要領でダブルタイヤ取付け金具②を取付け，締付けます。

❹作業している側のタイヤをジャッキアップして浮かし(追加するタイヤが取付けられる程度)，追加するタイヤ④を②に取付け，付属の皿バネ⑤，先程外したナット⑥を取付け，締付けます。

……締付けトルク　35～41kg・m

❺ジャッキを取除き，外側タイヤの空気圧が内側タイヤの空気圧より，0.1～0.2kg/cm²程少なくなるように調整してください。

❻反対側も同じ要領で，外側タイヤを取付けてください。



■その他

(1)ダブルタイヤ仕様では道路運送車両の保安基準に適合しませんので，公道走行はしないでください。

(2)本機は小型特殊自動車としての要件を備えておりますので，運転はそれ相当の運転技術を持っている方が行なってください。

(3)特にダブルタイヤ仕様での運転は，幅に対する感覚が変りますので十分注意してください。

(4)ターフタイヤ仕様でのフロントローダ作業はしないでください。

(5)ターフタイヤ仕様についても「定期点検箇所一覧表」に基づき，点検・整備を実施してください。

※その他の操作のしかた，作動方法及び注意事項については，標準仕様と同じです。

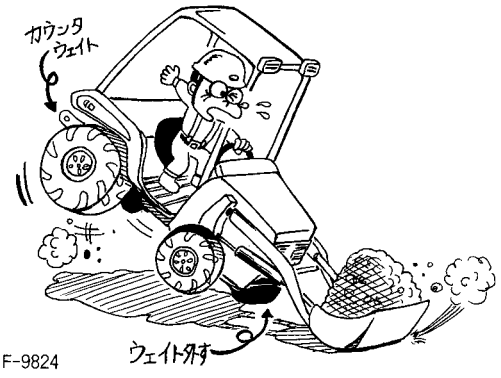
ロータ作業を安全に行なうために！

ロータ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

1．トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！

トラクタの後部に，３点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前・後輪のバランスを保つようにしてください。

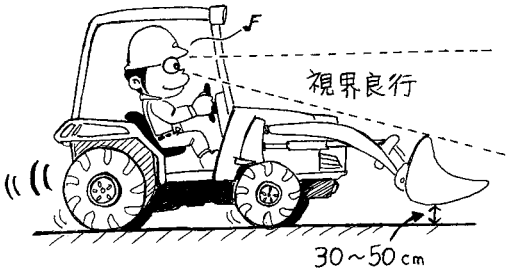
適正カウンタウエイト量（ロアーリンク先端）
600kg



F-9824

2．運搬はロータを低く下げてゆっくり走行する！

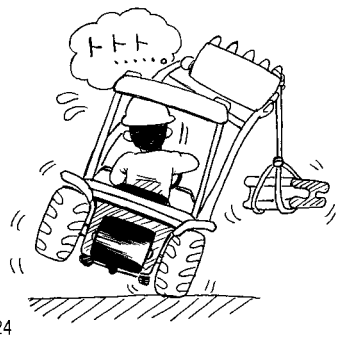
運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も5km／時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



F-9824

3．片持ち作業をしない！

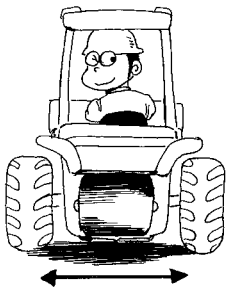
片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右に片寄らないようにバランスよく載せてください。



F-9824

4．後輪トレッドはできるだけ広げる！

作業時はトラクタの安定性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



F-9824

★以上，ロータ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもロータの「取扱説明書」をよく読んで安全に作業してください。

作業前の点検について(日常点検)

点検箇所

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行なってください。
※印は，次に作業要領が説明してあります。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日の異常箇所
(2)トラクタの回りを歩いて
- タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷……※1
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 油もれ，燃料もれ及び水もれ
- エンジンオイルの量及び汚れ……※2
- ミッションオイルの量及び汚れ……※3
- 冷却水の量とキャップの締付け……※4
- エアークリーナのバキュエータバルブの清掃及びインジケータの点検……※5
- セディメンタ(水分離器)内の水の排出【7530・8030仕様】……※6
- PTO軸キャップ
- 3点リンク及び作業機取付けピン
- バッテリ，配線，マフラ部の清掃……※7
- 各ランプ類の損傷
- ナンバプレート，反射器の汚れ，損傷

(3)運転席に座って
- ブレーキペダル，クラッチペダルの遊びと作動(46ページ参照)
- 駐車ブレーキの作動
- ハンドルの作動
- バックミラーの汚れ及び損傷

(4)メインスイッチを入れて
- 燃料計の作動
- 燃料は十分か，キャップの締付け
- ランプ類及びイージーチェッカの点灯及び汚れ
- メータ類の作動
- ホーン，ウインカランプの作動

(5)エンジンを始動して
- イージーチェッカの消灯
- 排気ガスの色，異常音
- ブレーキのきき，片きき

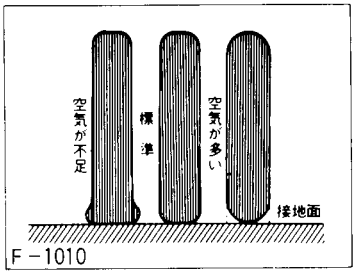
点検のしかた

1 タイヤの空気圧

警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



◆適正空気圧(標準タイヤ)

(kgf/cm²)

	4830仕様		7530仕様		8030仕様	
前輪	8.3−20	2.4	8.3−24	2.4	9.5−24 11.2−24	2.0
	9.5−20	2.0	9.5−24	2.0		
	8.3−22	2.4				
後輪	12.4−28 13.6−28 12.4−32	1.2	12.4−36 13.9−36	1.2	16.9−30 12.4−36 13.9−36	1.2

＊フロントローダ装着時は，前輪の空気圧を上げてください。

(kgf/cm²)

4830仕様		7530仕様		8030仕様	
8.3−20	2.8	8.3−24	2.8	9.5−24 11.2−24	2.4
9.5−20	2.4	9.5−24	2.4		
8.3−22	2.8				

◆適正空気圧(ターフタイヤ仕様)

(kg/cm²)

	前　輪	後　輪
4830DT－T1	2.0	1.6
4830DT－T2	2.2	0.8
4830DT－TW	1.4	1.0

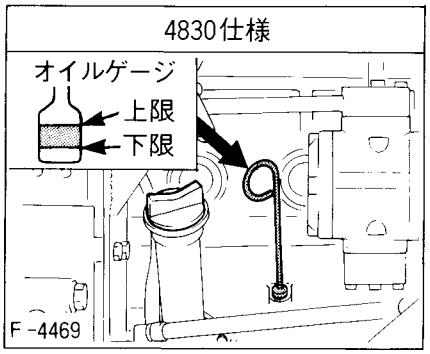
●後輪がダブルタイヤのときは，外側のタイヤの空気圧は上表より0.1～0.2kg/cm²少なくしてください。

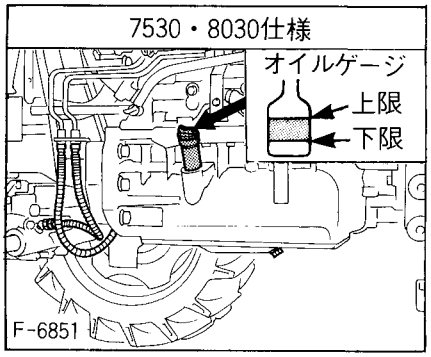
2 エンジンオイルの量

注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

(1)オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，ゆっくり差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
(2)下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。(給油は38ページ参照)





重　要

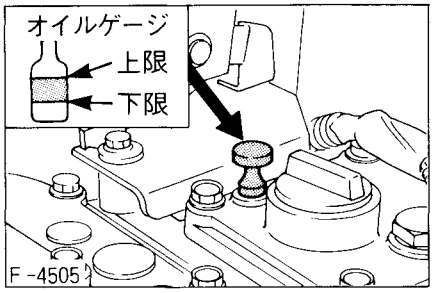
＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約5分以上たってから点検してください。
そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

3 ミッションオイルの量

注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

(1)オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にあるか調べます。
(2)下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。油洩れの原因になります。
(給油は39ページ参照)

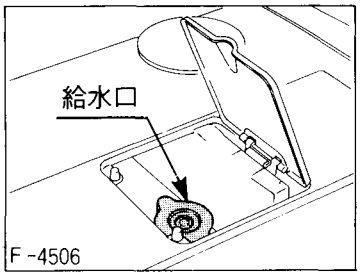


4 冷却水の量

注　意

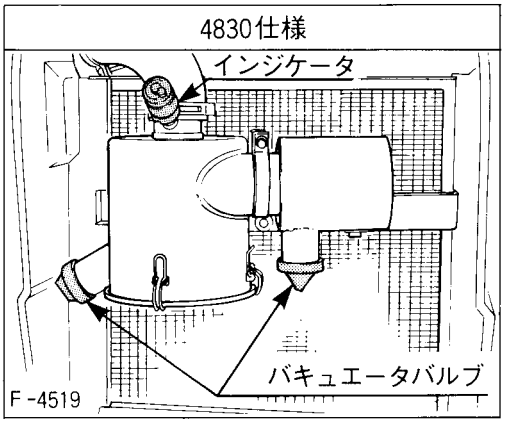
＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出し，ヤケドをするおそれがありますので，停止後30分以上たって冷えてからにしてください。
＊ラジエータキャップを開けるときは，最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し余圧を抜いてから，キャップを外してください。

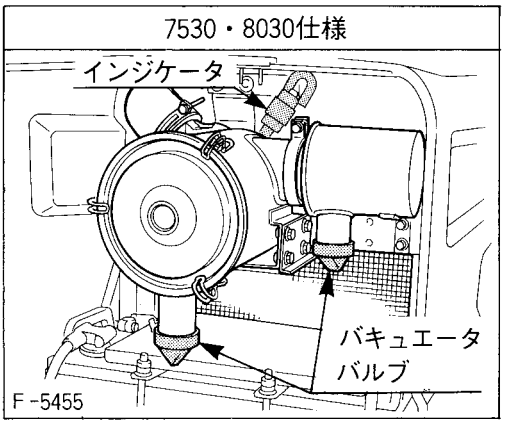
「給水口のすぐ下まで」あるか調べ，少ない場合は補給してください。(給水は43ページ参照)



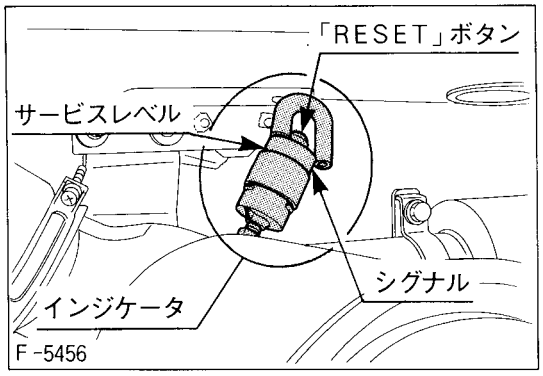
5 エアークリーナのバキュエータバルブの清掃及びインジケータの点検

バキュエータバルブを取外して，大きなゴミを取除いてください。よごれ及び水分があるときは，布などできれいにふき取ってください。





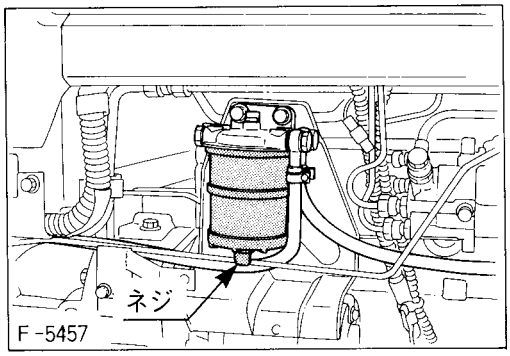
エアークリーナに付いているインジケータの赤のシグナルが，サービスレベルに達しているのを発見したときは，ただちにエレメントを掃除し，「RESET」ボタンを押して，シグナルを元に戻してください。



6 セディメンタ(水分離器)内の水の排出【7530・8030仕様】

(1)水が分離されているか調べます。

(2)水が分離されていたら，下のネジを３～４回ゆるめて排出し，水が抜けて燃料が流れ出るようになったらネジを締めます。



重 要

＊燃料に水が混入されると噴射ポンプ内が錆びて作動しなくなります。

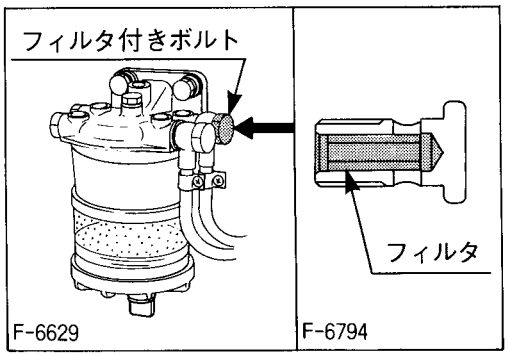
◆アイカン継手ボルト(セディメンタ)のフィルタの洗浄

❶フィルタ付きボルトをゆるめて外します。

❷フィルタ付きボルトからフィルタを取出します。

❸フィルタを洗浄します。

❹洗浄後フィルタをボルトに取付けてから，セディメンタに締付けます。



7 バッテリ，配線，マフラ部の清掃

注 意

＊バッテリや配線及びマフラやエンジン周辺部に，ワラくず，ゴミや燃料の付着などがあると火災のおそれがあります。毎日作業前に点検し，きれいに取除いてください。

トラクタの簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷作業機を降ろし，❸駐車ブレーキをかけ，❹変速レバーを中立にし，❺エンジンを止め，安全を確認してから行なってください。

＊トラクタは，常に清掃しておいてください。

バッテリ・配線・マフラやエンジン周辺部に，ゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，お買いあげいただいた購入先に，それぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間（下記時間めごとに交換）																		購入日から		参照ページ
		35	50	60	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	
1	エンジンオイルの交換			◎			○				○				○				○			38
2	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換			◎							○								○			41
3	ミッションオイルの交換			◎											○							39
4	油圧オイルフィルタカートリッジの交換			◎			○				○				○				○			42
5	マグネットフィルタの掃除	◎		◎			○				○				○				○			42
6	前部デフケースのオイル交換			◎											○							40
7	前輪ケース・前部ベベルギヤーケース左・右のオイル交換			◎											○							40
8	アイカン継手ボルト(セディメンタ)のフィルタの洗浄【7530・8030仕様】			◎							○								○			32
9	グリースの注入		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			45
10	クラッチペダルの遊び点検		◎			○			○			○			○			○				46
11	ブレーキペダルの遊び点検					○			○			○			○			○				46
12	駐車ブレーキレバーの遊び点検					○			○			○			○			○				46
13	PTOクラッチ操作レバーの遊び点検					○			○			○			○			○				46
14	トーインの点検					○			○			○			○			○				27

【注】◎はならし運転の35時間，50時間，60時間後に必ず行なってください。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間（下記時間めごとに交換）																	購入日から		参照ページ
		35	50	60	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	
15	バッテリの電解液量の点検					○			○			○			○			○				47
16	ラジエータホースの締付けバンドのゆるみ点検					○			○			○			○			○				49
17	油圧・燃料パイプ取付けねじのゆるみ点検		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49
18	ファンベルトの張り点検						○				○				○				○			48
19	燃料フィルタの交換										○								○			42
20	パワーステアリングオイルの交換										○								○			39
21	前部デフケース前後遊びの調整														○							48
22	バルブクリアランスの点検	お買いあげいただいた購入先で交換及び点検をしてもらってください。																	○			
23	燃料噴射ノズルの噴射圧の点検																		○			
24	エンジン冷却系統（ラジエータ内部）の洗浄																		○			44
25	エンジン冷却水の交換																				○	43
26	エアークリーナエレメントの交換																			○（6回掃除ごと）		48
27	パワーステアリングゴムホースの交換																				○	49
28	燃料パイプの交換																				○	49
29	ラジエータホースの交換																				○	49
30	操向装置ナックルアーム,キングピン,タイロッドの点検																		○			
31	車体各部のボルト,ナット及びピン類の点検																			○		
32	電気配線の損傷及び接続部のゆるみ点検																			○		50

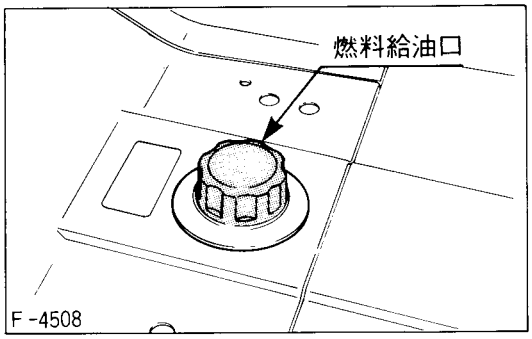
【注】バッテリ電解液は年間使用時間が100時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

給油(水)一覧表

No.	給油(水)項目	容量(ℓ)			使用オイル	
		4830	7530	8030		
1	燃料	64			クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油 (7530・8030仕様はディーゼル軽油のみ)	
2	冷却水	8.2	13.6		清水(不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。)	
3	不凍液	4.5	7.5		−40℃まで	
4	エンジンオイル	14.7	15.8		クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D30又はD10W30 CC級又はCD級(59ページ参照)	
		(オイルゲージ上限全量で)				
5	ミッションオイル (油圧オイル)	48		50	クボタ純オイルUDT又はM80B (59ページ参照)	
6	パワーステアリングオイル (タンク・配管)	2.2			クボタ純オイルUDT又はタービンオイル32(#90相当) (59ページ参照)	
7	前部デフケース	4.5		7.5	クボタ純オイルUDT 又はM90 (59ページ参照)	
8	前輪ケース右・左	各3.5		各4.6		
9	各操作レバー支点	注油			クボタ純オイルM90 (59ページ参照)	
10	グリースの注入	注入箇所			容量	使用グリース
	• 前輪ケースサポート	2			外部にはみ出すまで	シャーシグリース (60ページ参照)
	• 前車軸受部	2				
	• クラッチペダル	1				
	• ブレーキペダル	1				
	• ペダル軸サポート	1				
	• トップリンク取付け台	2				
	• リフトロッド右上・下，左下	各1				
	• バッテリターミナル	2			少量	
	• クラッチレリーズハブ	1			分解時に補給	

燃料について

使用燃料	クボタディーゼル重油又は ディーゼル軽油 (7530・8030仕様はディーゼル軽油のみ)



注 意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。

＊火気厳禁。

重 要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，必ずこし網を通して補給してください。

＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，

●燃料フィルタ及び配管を取外したとき

●燃料切れが起きたとき

●トラクタを長時間使用しなかったとき

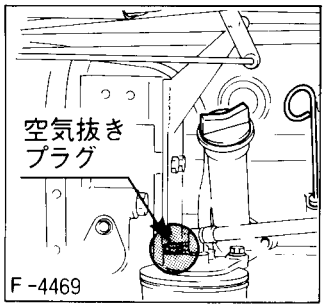
に行なう必要があります。

■4830仕様

❶タンクに燃料を満たし，燃料コックを開く。

❷フィルタ上部の空気抜きプラグを，約2回転ゆるめる。

❸空気抜きプラグから出る燃料にアワがなくなったら，プラグを締付ける。



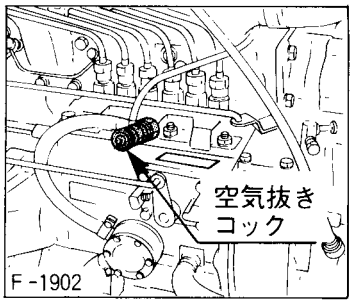
❹噴射ポンプ上にある空気抜きコックを開き，

❺エンジン停止つまみを引いて(エンジン停止の状態)，セルモータを約10秒間回す。

注 意

＊必ず停止つまみを引いて，停止の状態でセルモータを回してください。

❻コックを閉める。



重 要

＊空気抜きをするときのほかは，必ず噴射ポンプのコック及び空気抜きプラグは閉じておいてください。

エンストの原因になります。

■7530・8030仕様

◆フィルタエレメントを交換した場合

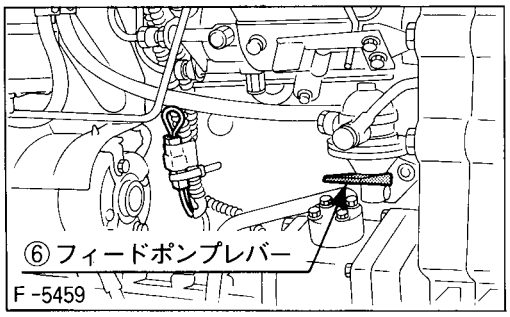
インジェクションポンプにエアーを送らないで，フィルタ内のエアー抜きを行なう。

(インジェクションポンプ，配管などにエアーが入っていないこと。)

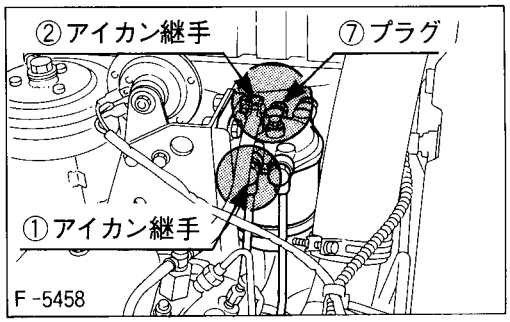
❶フィードポンプレバー⑥を上下に動かし，燃料が圧送されていることを確認する。

燃料が圧送されていない(手ごたえが少ない)場合は，ポンプの作動が一番大きく感じられる位置まで，セルモータを瞬時回して，クランク軸を少し回転させる。

(フィードポンプのレバーの作動を大きくさせ燃料の圧送を最大にするため)



❷フューエルフィルタのアイカン継手①②を約2回転ゆるめる。



❸フィードポンプレバーをゆっくり上下に動かし，アイカン継手①から気泡のない燃料が出てくれば，まずアイカン継手①を締付ける。

❹つづけてフィードポンプレバーをゆっくり上下に動かし，アイカン継手②から気泡のない燃料が出てくれば，アイカン継手②を締付ける。

❺アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，中速回転(約1500rpm)位置に戻す。

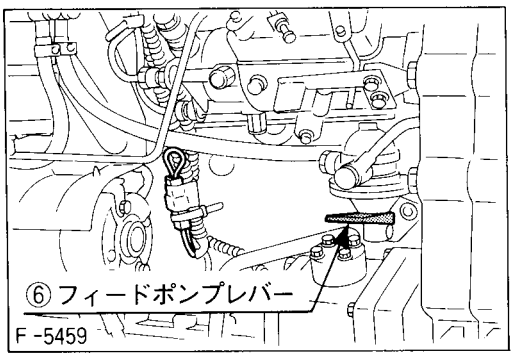
❻エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアーを追い出す。

❼以上の操作後，まだエアーが抜けずにエンストする場合は，次項の「◆燃料切れ及び配管を外した場合」の手順でエアー抜きを行なう。

◆燃料切れ及び配管を外した場合

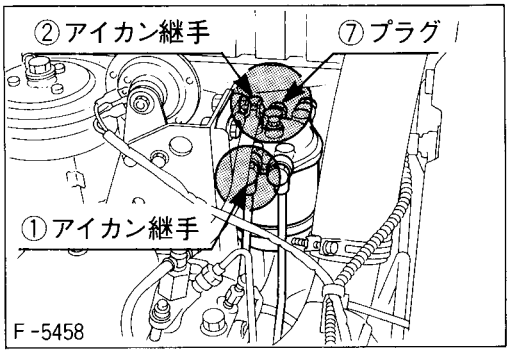
エアー抜きは燃料の流れに従って❶→❷→❸→❺→❹の順序で行なう。

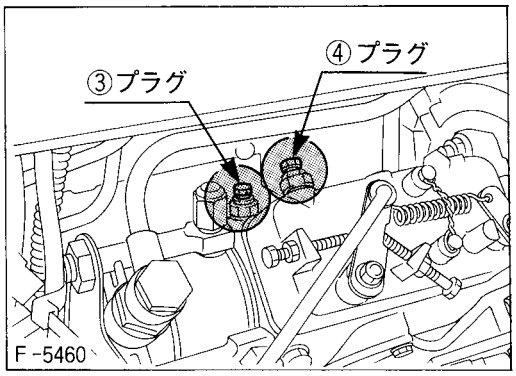
❶フィードポンプレバー⑥を上下に動かし，燃料が圧送されていることを確認する。燃料が圧送されていない(手ごたえが少ない)場合は，ポンプの作動が一番大きく感じられる位置まで，セルモータを瞬時回して，クランク軸を少し回転させる。

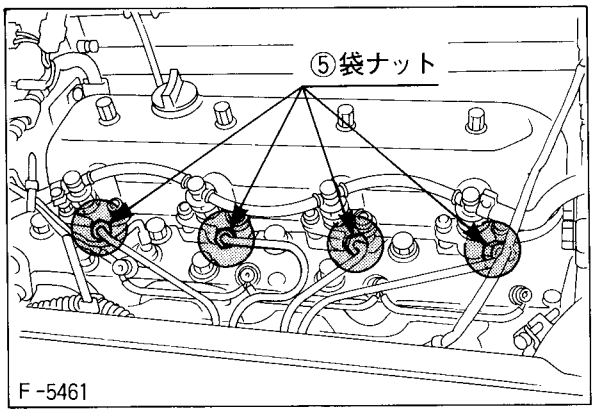


❷メインスイッチを「ON」にする。(停止ソレノイドバルブに通電し燃料が流れるようにする。)

❸フィルタのアイカン継手①②，インジェクションポンプのプラグ③④をそれぞれ約2回転と，インジェクションパイプの袋ナット⑤を全部ゆるめる。







❹フィードポンプレバーをゆっくり上下に動かし，アイカン継手①から気泡のない燃料が出てくれば，まずアイカン継手①を締付ける。

❺つづけてフィードポンプレバーをゆっくり上下に動かし，アイカン継手②とプラグ③から気泡のない燃料が出れば，アイカン継手②とプラグ③を締付ける。

❻アクセルレバーを最高回転位置にし，セルモータでエンジンを回転させ，インジェクションパイプから勢いよく燃料が出てくれば，袋ナット⑤を締付ける。(セルモータを連続10秒間回せば30秒間休む，この操作を２～３回繰返す。)

❼アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転(約1500rpm)位置に戻す。(セルモータを連続10秒間回しても始動しない場合は，30秒間休み，この操作を再度１～２回繰返す。)

❽プラグ④から気泡のない燃料が出てくれば，プラグ④を締付ける。

❾エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアーを追い出す。

❿以上の操作後は，まだエアーが抜けずにエンストする場合は，上記の❶～❾の手順で再度エアー抜きを行なう。

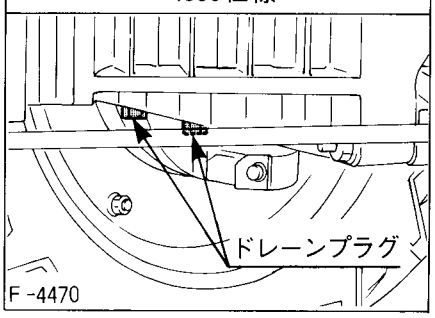
各部への給油と交換

使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず「**クボタ純オイル**」を使用してください。(60ページ参照)

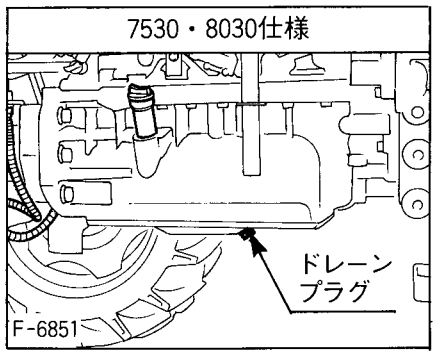
■エンジンオイルの交換

ドレーンプラグを外して古いオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。

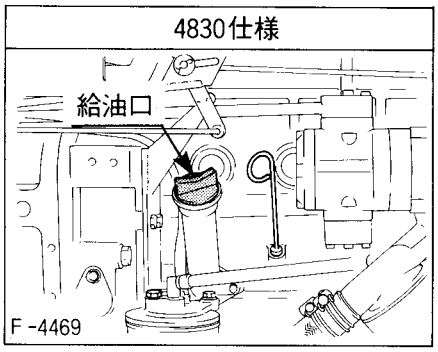
4830仕様



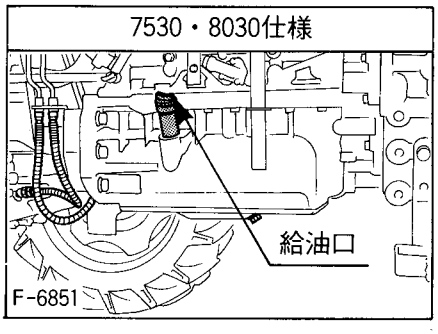
7530・8030仕様



4830仕様



7530・8030仕様



重　要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は(注ぎ足し使用は絶対にしないで)，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。

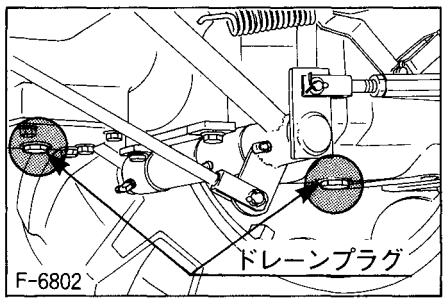
＊気温により次のように使い分けてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

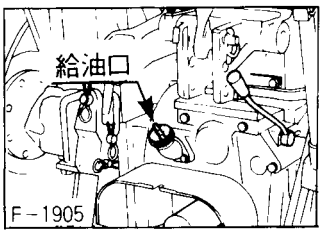
■ミッションオイル(油圧オイル)の交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。



❷オイルゲージの刻み線の上までオイルを入れます。

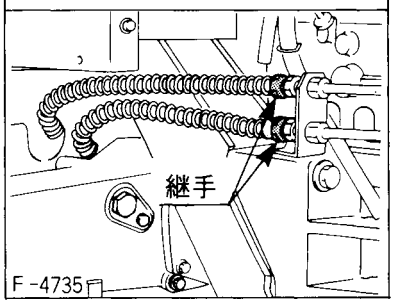
❸エンジンを始動して2～3分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。



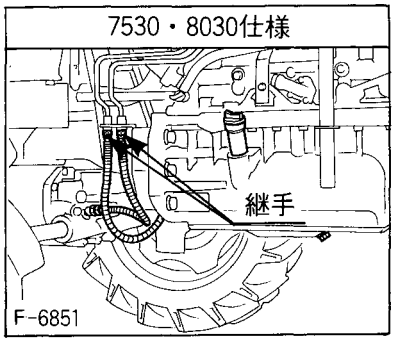
■パワーステアリングオイルの交換

❶オイルタンク部のパイプの継手及び，ゴムホース部の継手を外して，オイルを抜取ります。

4830仕様

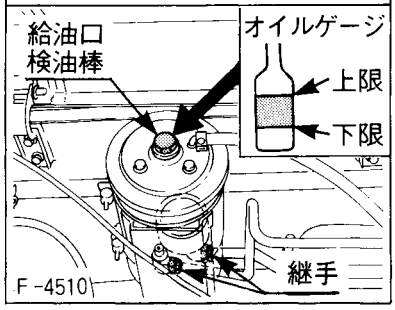


7530・8030仕様

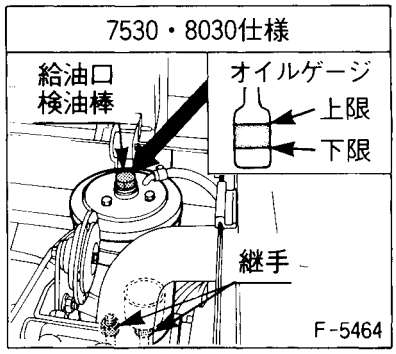


❷給油口から，新しいオイルを入れます。

4830仕様



7530・8030仕様



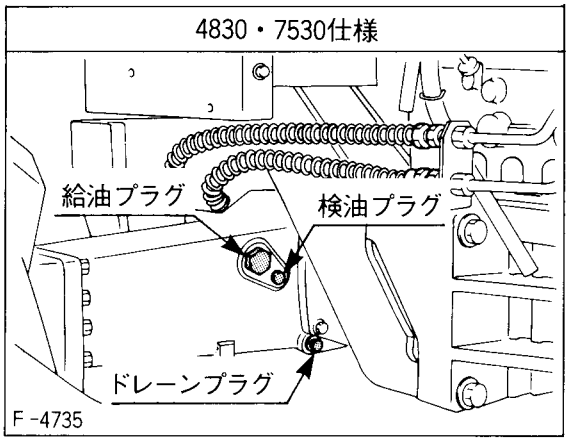
❸エンジンを始動してハンドルを左右に2～3回いっぱい回した後，エンジンを止め，**検油棒まで**オイルがあるか確認し，不足の場合は補給してください。

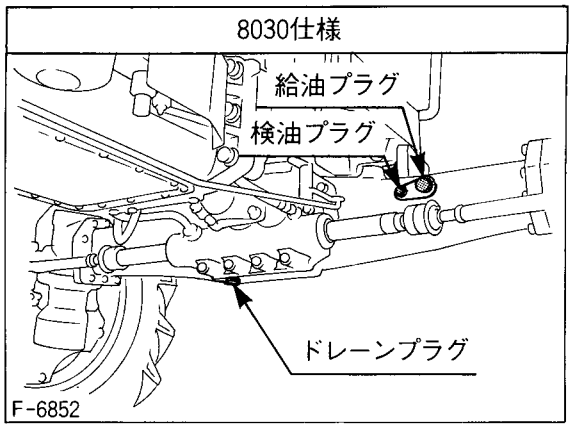
重　要

＊パワーステアリングのオイルは，クボタ純オイルUDT又はクボタ指定のタービンオイル32(＃90相当)を使用してください。(59ページ参照)

■前部デフケースのオイル交換

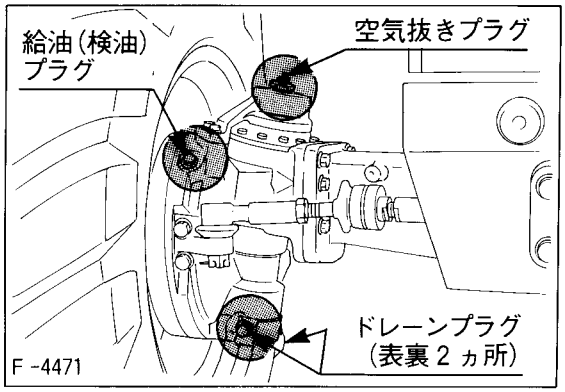
ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定量入れてください。





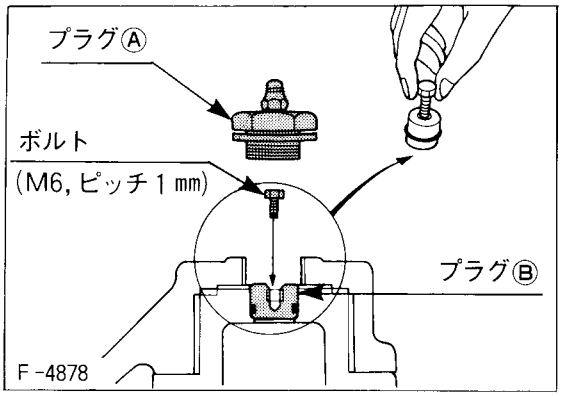
■前輪ケース・前部ベベルギヤーケース左・右のオイル交換

左右のドレーンプラグと給油プラグ，空気抜きプラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定量入れてください。



◆空気抜きプラグの外しかた

プラグⒶを外し，ボルトをプラグⒷにねじ込み，そのボルトを持ってプラグⒷを引抜いてください。

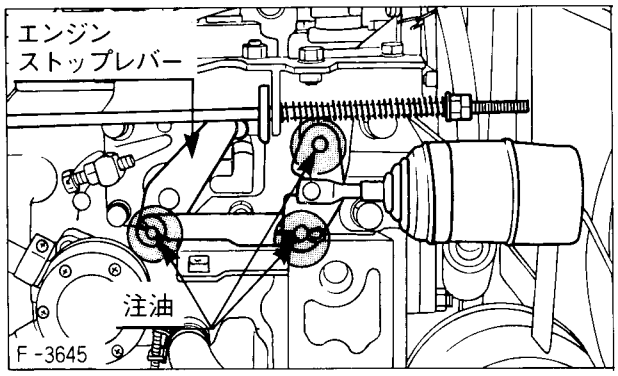


■停止ソレノイドリンクへの注油
【4830仕様】

ソレノイドリンクへの注油及び清掃は，１年に１回使用前及び長期格納時に行なってください。

(1)注油は，安全カバー右及びソレノイドカバーを外して行なってください。

(2)注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してメインスイッチ「OFF」でエンジンが停止するか確認してください。



重　要

＊この部分は，メインスイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが浸入したときは，適宜清掃を行なってください。

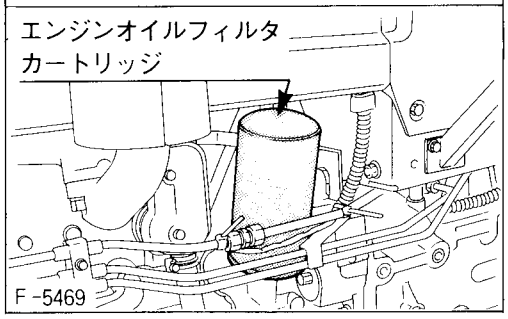
各フィルタの交換

■エンジンオイルフィルタ
カートリッジの交換

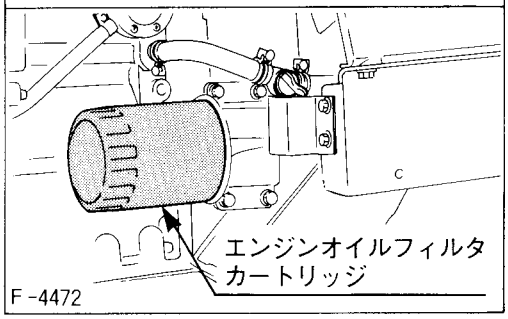
オイルフィルタは，カートリッジタイプです。

このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しいカートリッジと交換してください。

7530・8030仕様



4830仕様



【4830仕様】

❶付属のフィルタレンチで取外します。

❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，手で確実に締付けます。

❸エンジンオイルを規定量まで補給します。

❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異状がないか確認してからエンジンを止めます。

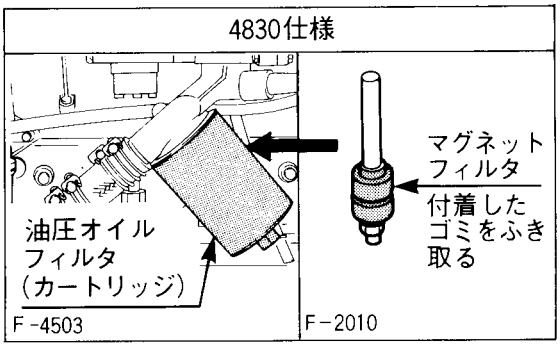
❺再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給する必要があります。

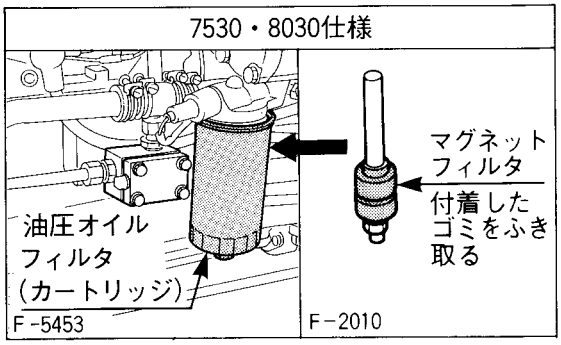
■油圧オイルフィルタ(カートリッジ)の交換

スパナで外し，新しいカートリッジと交換してください。

◆マグネットフィルタの掃除

カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したゴミをふき取ってください。



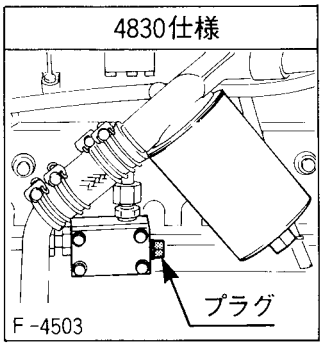


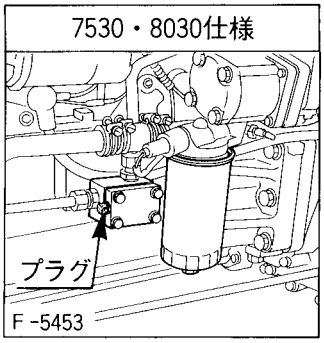
重 要

＊掃除及び交換後は，油圧オイルのエアー抜きを行なってください。

◆油圧オイルのエアー抜き

プラグをゆるめ，エンジンを始動すると，アワのあるオイルが出ます。アワが出なくなればプラグを締付けてください。

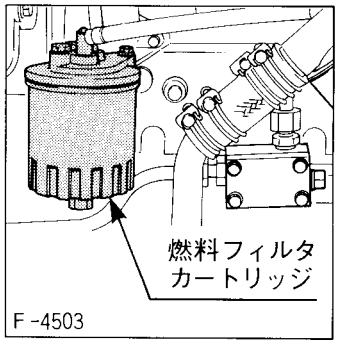




■燃料フィルタの交換

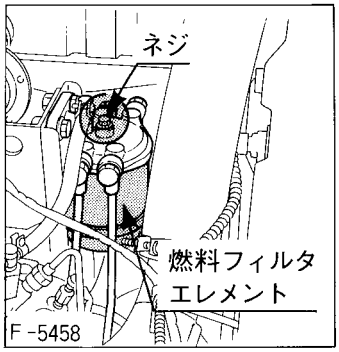
【4830仕様】

カートリッジタイプです。付属のフィルタレンチで取外し，組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してから手で十分に締付けてください。



【7530・8030仕様】

エレメントを交換します。
ネジをゆるめて外し，新しいエレメントと交換してください。



冷却水の交換

■交換のしかた

(1)冷却水を抜くときは，冷却水コックを開けると同時に，ラジエータキャップも開けてください。
締めたままでは，少し出るだけで完全には排出されません。

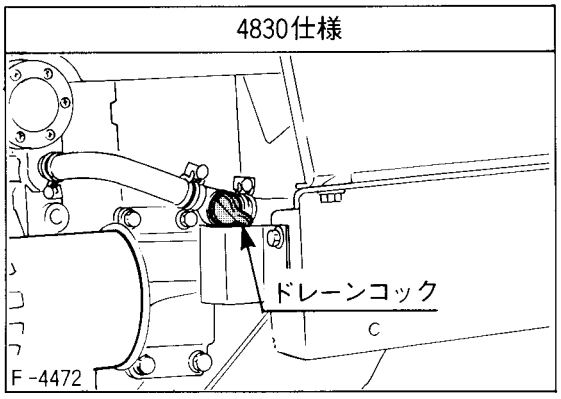
(2)水道の水でラジエータ内を洗浄してから，冷却水を給水してください。

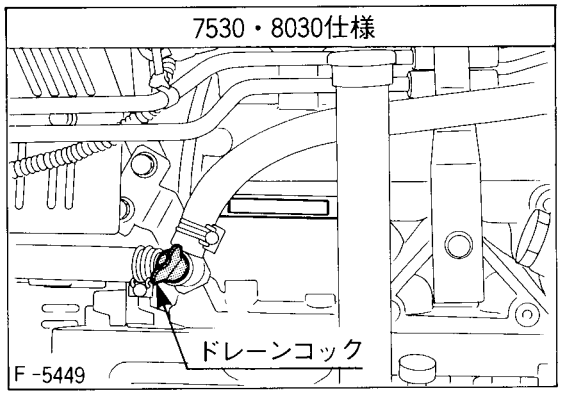
(3)ラジエータキャップの締めかたが不完全な場合，また，座面にすき間のある場合は，冷却水が漏れて早く減ります。

注　意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出し，ヤケドするおそれがありますので，停止後30分以上たって冷えてからにしてください。

＊ラジエータキャップを開けるときは，最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し余圧を抜いてから，キャップを外してください。



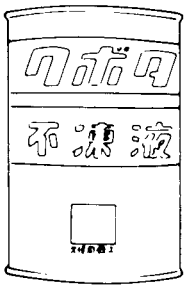


■不凍液の使いかた

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

重　要



F -1012

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。
不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

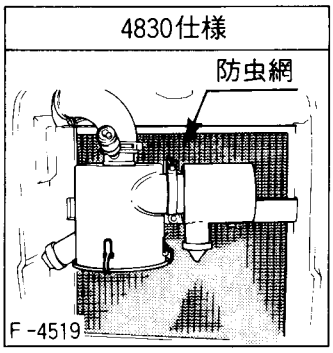
＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。

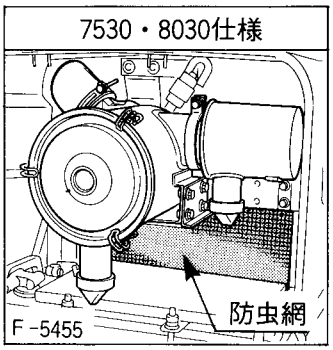
■防虫網の清掃

注　意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，ラジエータの防虫網に草の実や昆虫が付着し詰まることがあります。
こんなときは防虫網を清掃してください。





■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

重　要

＊ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。

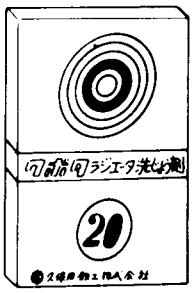
＊エアークリーナ内に水が入らないように注意して，清掃してください。

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

- 800時間使用ごと
- 不凍液を混入するとき
- 不凍液混入から水だけに変えるとき

などに使用してください。

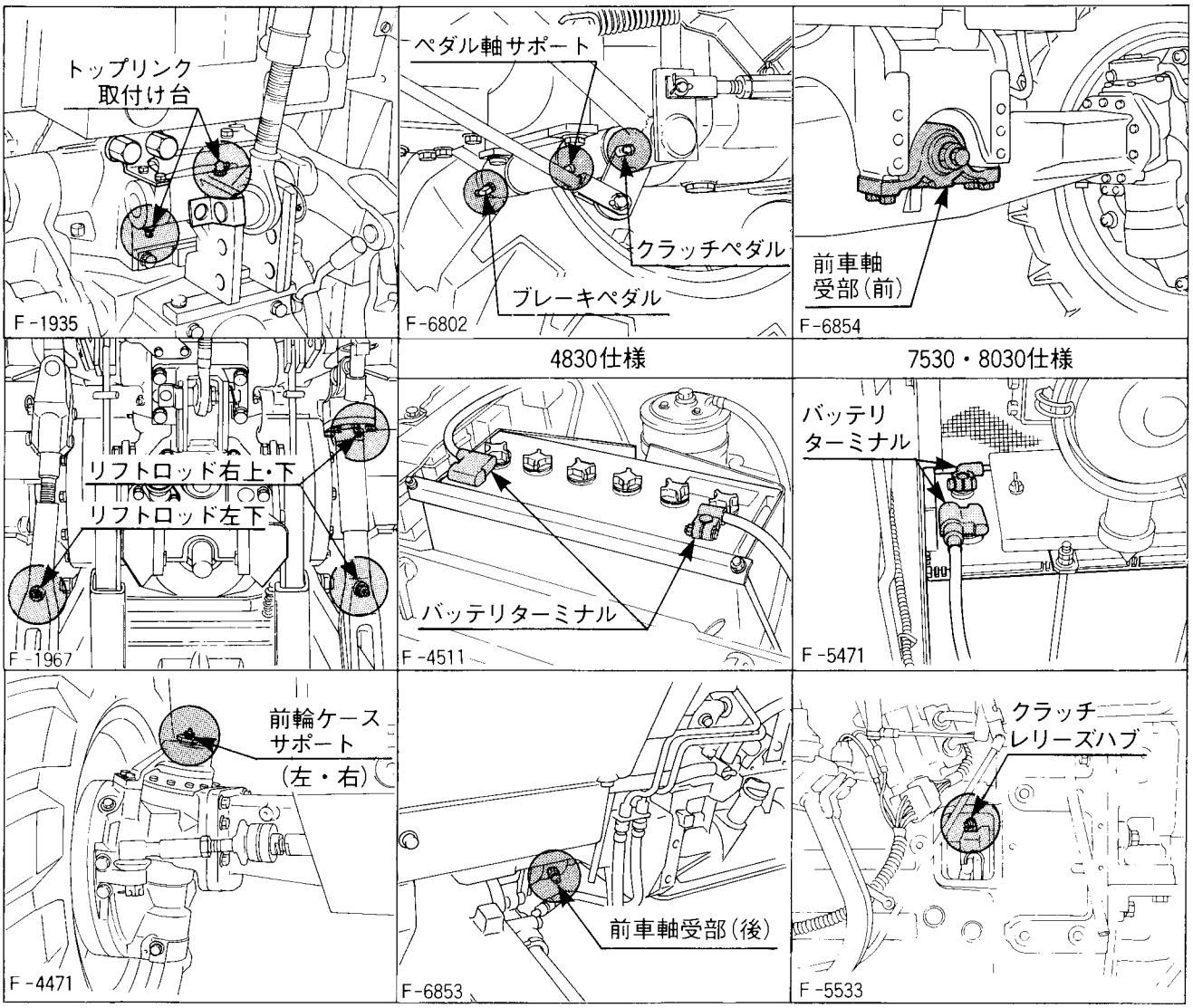


F -1013

グリースの注入について

通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，「**クボタ推奨グリース**」を使用してください。(60ページ参照)

■各部へのグリース注入――――シャーシグリースを少量注入します。



クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで４～５cm

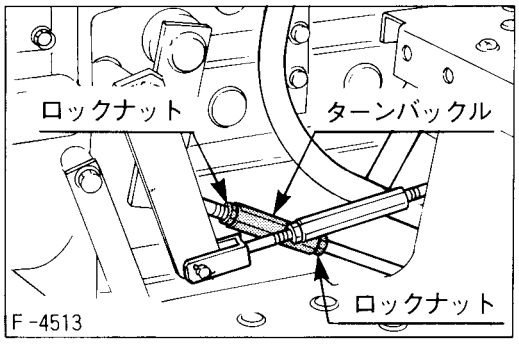
重　要

＊遊びが適正でないと，クラッチ切れ不良・伝動不良を起し，損傷につながります。

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して，ロッドの長さを調節します。

❷ロックナットを締付けます。



ブレーキペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで４～５cm

警　告

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

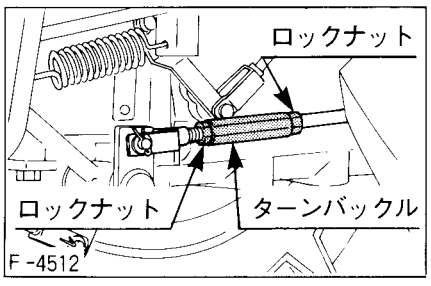
＊必ず左右のペダルの遊び量を合せてください。

◆調整方法

❶駐車ブレーキレバーを下げます。

❷ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回してロッドの長さを調節します。

❸ロックナットを締付けます。



駐車ブレーキレバーの点検･調整

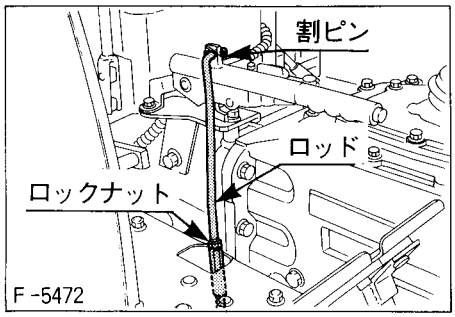
適正遊び量	ラチェットの３段目以下

◆調整方法

❶ブレーキペダルの遊びを調整した後，割ピンを外し，ロッドを抜きます。

❷ロックナットをゆるめ，ロッドを回し，長さを調節します。

❸元どおりに組付け，遊び量を確認します。



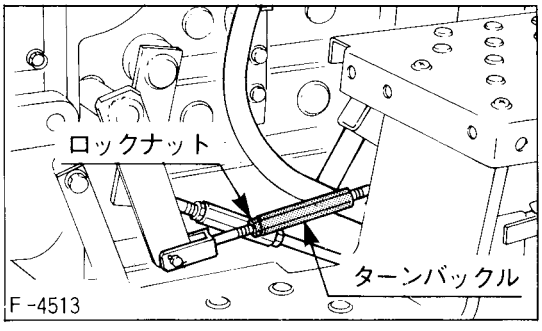
PTOクラッチ操作レバーの点検･調整

適正遊び量	レバーで４～５cm

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回してロッドの長さを調節します。

❷ロックナットを締付けます。



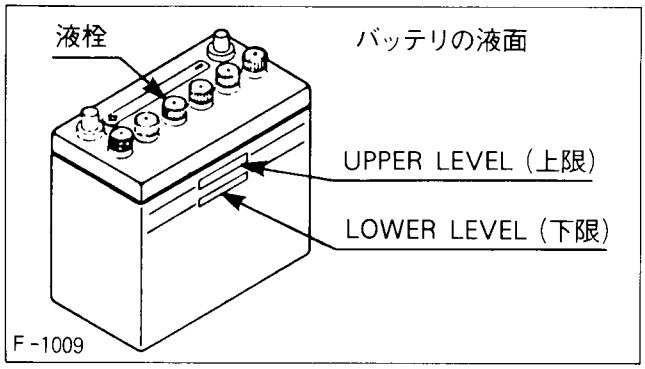
バッテリ液の点検と交換

危 険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

バッテリの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。
液面が少ないときは蒸留水の補給が必要です。



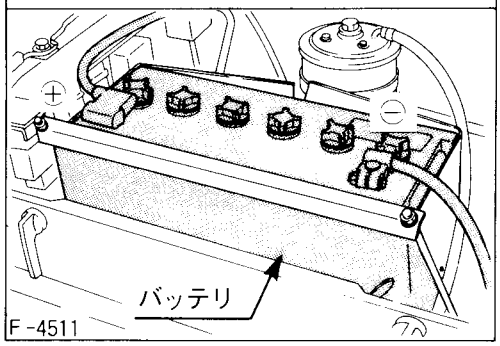
重 要

＊バッテリに液が不足するとバッテリをいため，多いと液がこぼれて車体の金属部を腐蝕させます。
＊バッテリにコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがわないようにしてください。まちがうと電気系統が故障します。
＊バッテリからコードを外すときは⊖側，取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると，工具が当った場合にショートします。
＊充電は，必ず本体から取外して行なってください。
電装品の損傷のほかに，配線などを傷めることがあります。バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
急速充電は，できるだけ避けてください。バッテリ寿命を短くします。
＊バッテリの寿命がなくなり，新品のバッテリと交換する場合には，必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときには，バッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

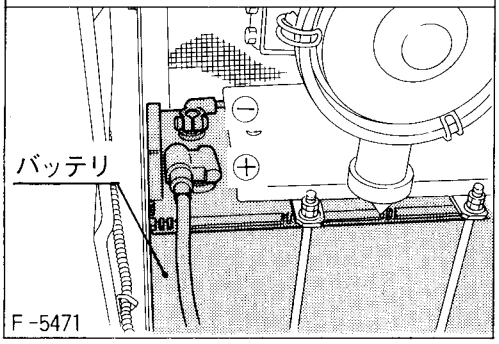
警 告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，メインスイッチを「OFF」(切)位置にしておいてください。
＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは最後にバッテリ⊖コードを接続してください。
＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

4830仕様



7530・8030仕様

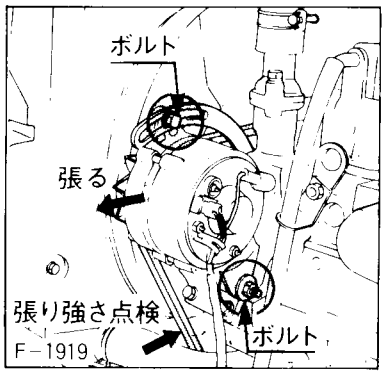


ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で押えて,約７㎜たわむ程度

◆調整方法

ダイナモを取付けているナット１個とボルト２個をゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
調整後はナット・ボルトを確実に締付けておいてください。

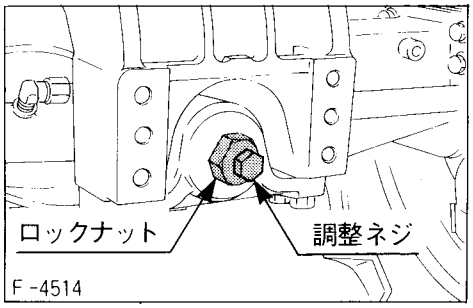


前部デフケース前後遊びの調整

前部デフケースの調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

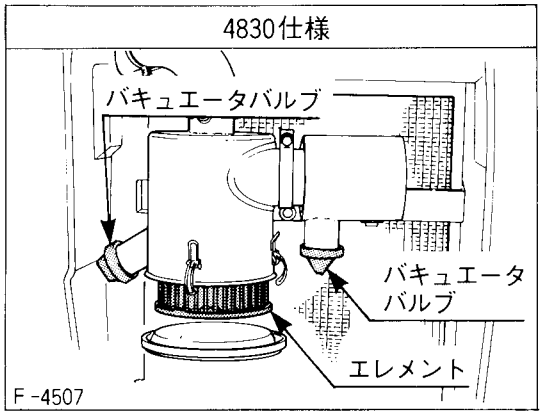
◆調整方法

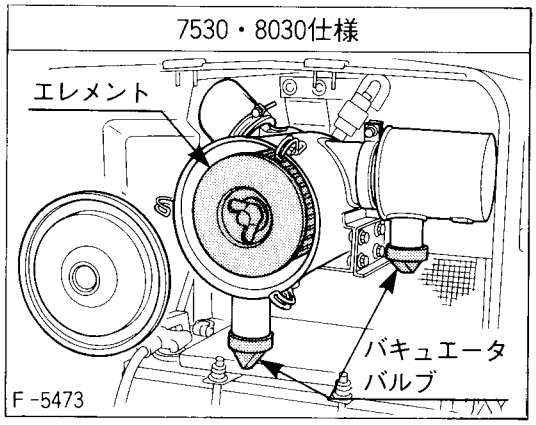
前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ネジを締込み(締付けトルク200～300kgf･cm)，ロックナットで固定します。



エアークリーナエレメントの清掃交換

(1)乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
(2)バキュエータバルブを取外して，大きなゴミを取除いてください。





■エレメントの清掃

清掃方法は，エレメントの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。
乾いたチリやホコリの場合，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。
(エアーの圧力は７kgf/㎠を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，洗浄剤をご使用ください。

【参考】
エレメント洗浄剤

品名	ND－1500（日本ドナルドソン製）
品番	15221－8665－1

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

■エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。

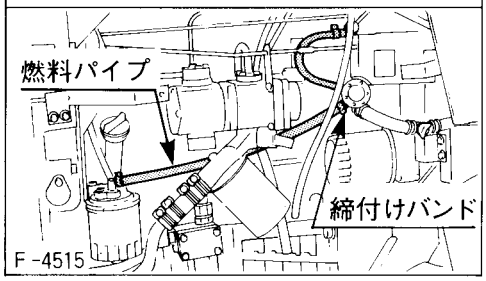
パイプ類の点検

燃料パイプ・ラジエータホースやパワーステアリングゴムホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごと又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

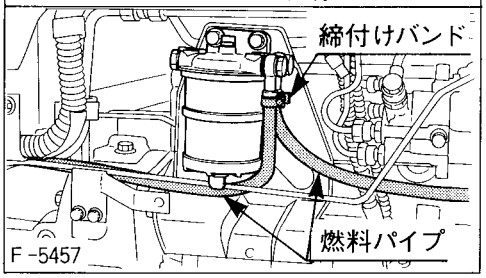
(1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)燃料パイプ類を交換する場合は，必ず空気抜きをする必要があります。

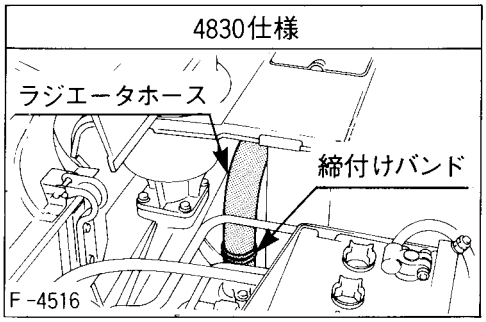
4830仕様



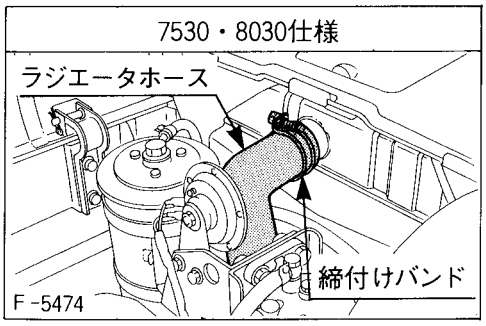
7530・8030仕様



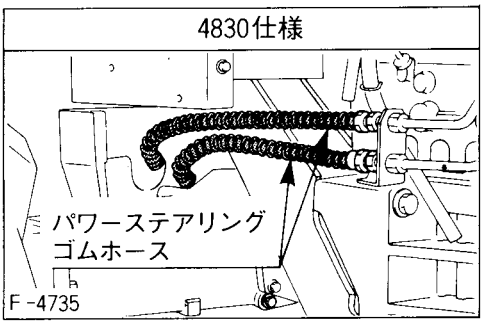
4830仕様



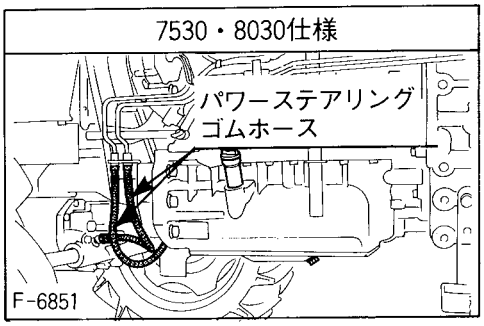
7530・8030仕様



4830仕様



7530・8030仕様



重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

注　意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。

燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

電気配線の点検

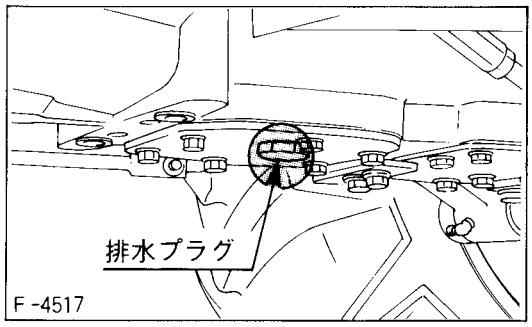
配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。
傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

注　意

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，お買いあげいただいた購入先で点検，修理してください。
＊トラクタにラジオなどを取付けるときの電源取出しは，お買いあげいただいた購入先に，それぞれ「ご相談窓口」を設けておりますのでご相談ください。

クラッチハウジングの水抜き

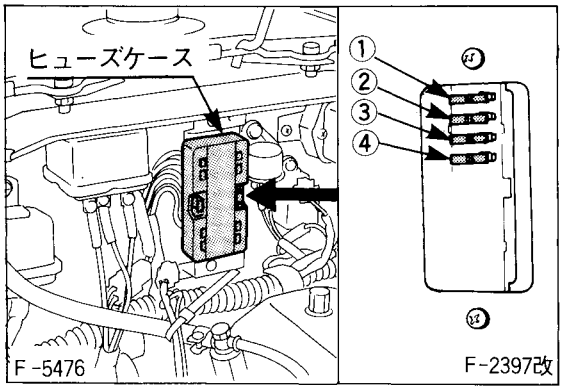
代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとに，クラッチハウジング底の排水プラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

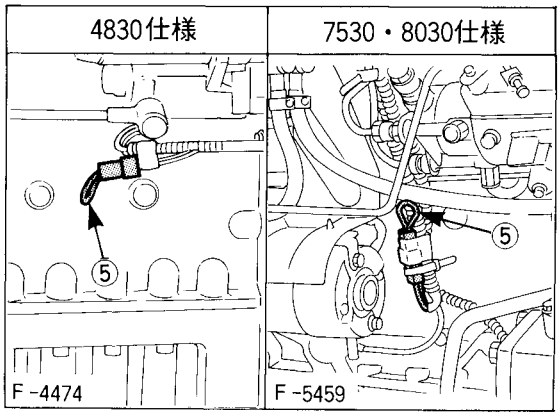


ヒューズ，ランプの交換

■ヒューズの交換

図のように4コのヒューズが入っています。
ヒューズが切れた場合は同容量のヒューズと交換してください。





◆保護回路

①ヒューズ(15A) MAIN KEY
（・キーストップ【B仕様】
・グロータイマ
・オルタネータ
・イージーチェッカ
・バックランプ
・ストップランプ
・スタータリレー）

②ヒューズ(15A) COMBINATION SWITCH
（・ホーン
・ヘッドランプ
・テールランプ）

③ヒューズ(10A) PARKING・FLASHER (HAZARD)
（・フラッシャランプ
・駐車灯）

④ヒューズ(20A) WORK LIGHT
（・作業灯）

⑤ヒュージブルリンク＝バッテリ逆接続防止

注　意

＊切れたヒューズ，ヒュージブルリンクを交換する前に，ヒューズ，ヒュージブルリンクの切れた原因を調べてください。

＊針金や銀紙は絶対に使用しないでください。

■ランプ類の交換

(1)ヘッドランプとリアーコンビネーションランプ
ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。

(2)その他のランプ
レンズを外し，バルブを交換します。

ヘッドランプ	45W/45W	尾灯 駐車灯（後）	8W
方向指示器（前）（横）	21W	作業灯	55W
方向指示器（後）	23W	制動灯	23W
車幅灯（前） 駐車灯（前）	5W	後退灯	15W

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備しておいてください。

(2)エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。その後も１～２ヵ月ごとに同様に防錆運転をしてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

(4)各部のボルトやナットのゆるみを点検し，ゆるんでいれば締付けておいてください。

(5)車体のさびやすい部分には，グリースかエンジンオイルを塗っておいてください。

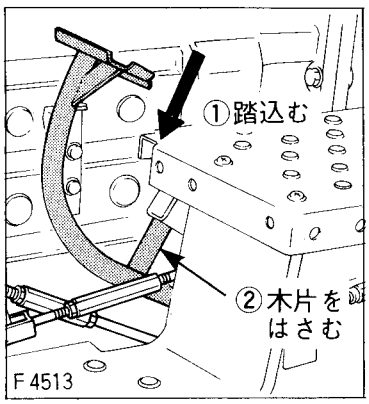
(6)ウエイトは取外しておいてください。

(7)タイヤの空気圧は標準より多いめにしておいてください。

(8)エンジンは，必ずエンジン停止つまみをいっぱい引張って止めておいてください。

(9)冷却水は抜いておいてください。

(10)**クラッチペダルは，ストッパ部に木片をかませて，クラッチが完全に切れた状態にしておいてください。**
クラッチを接続したまま長期間格納しますと，クラッチ板がさび付いて，次期運転時にクラッチが切れなくなることがあります。



(11)PTOクラッチレバーは，長期格納時は「切」(上げた状態)にしておいてください。

(12)作業機は，外すか地面に降ろしておいてください。

(13)バッテリは，トラクタから外して充電し，液面を正しく調整してから，日光の当らない乾燥したところに保管するか，バッテリのターミナルから配線を外してください。

(14)バッテリは，保管中でも自己放電しますから，１ヵ月に１回，補充電をしてください。

(15)格納場所は，雨のかからない乾燥した場所を選び，シートをかけるようにしましょう。

(16)戸外に置いておくときは，雨水がマフラから入らないようにしてください。

(17)燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のさびの原因になります。

重　要

＊洗車するときは，エンジンを止めてから行なってください。
もしエンジンをかけて行なう場合は，特にエアークリーナの吸入口から，水が入らないように注意してください。エンジンに水が入ると，故障の原因になります。

＊洗車するときは，ヘッドランプの裏側(キャップ)に水がかからないように注意してください。キャップの通気孔からランプ内に水が入ることがあります。

注　意

＊マフラやエンジンが十分冷却してから，カバーをかけてください。

＊格納時は，必ず「OFF」の位置でキーを抜いておいてください。

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	(1)燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 (2)燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	(1)パイププラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 (2)空気抜きをする。(36～38ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	(1)ラジエータに熱湯をそそぐ。 (2)気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	(1)バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)エアークリーナの目詰まり。	(1)エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
排気色が悪い場合	(1)燃料が悪い。	(1)良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	(1)正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	(1)冷却水の量(不足)及び水もれの点検 (2)ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 (3)ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終っている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部にしめりが残っている。 (2)ノズル不良 (3)燃料不良	(1)負荷をかけてマフラを十分に加熱する。 冷機時アイドリング運転の繰返し，及び長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。 (2)ノズルの点検 (3)良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

付　表

アタッチメント一覧表

分類	品　番	品　名	適用機種			備　考
			M4830	M7530	M8030	
ウエイト	99651－1200－1	前部ウエイトアッシ	○	○	○	ウエイト25kg×4枚含む ボルト4枚用，6枚用
	99731－1700－2	前部ウエイト取付け台	○	○	○	取付け台ボルト含む
	99651－1211－1	前部ウエイト単体	○	○	○	25kg
	35452－2181－1	ボルト(ゼンブ ウエイト)	○	○	○	(ウエイト8枚用)
	99881－1500－1	後輪ウエイトアッシ	○	○	○	ウエイト50kg×4枚 取付けボルト
	99881－1511－1	後輪ウエイト単体	○	○	○	50kg
タイヤ	99652－2700－1	ダブルタイヤ取付け金具	○	○	○	
その他	99883－9311－1	補助コントロールバルブ	○	○	○	(レバーアッシ含まず)
	36760－9711－1	レバーアッシ(配管含む)	○	○	○	(バルブアッシ含まず)
	99884－4800－1	トレーラ用ハーネスアッシ	○	○	○	
	35820－9760－1	作業灯アッシ	○	—	—	12V35W
	36830－9741－1	作業灯ウシロアッシ	—	○	○	角形2灯(12V55W)
	99601－2100－1	モンローマチックアタッチ	○	—	—	

標準付属品

品名	数量／台			備考
	4830	7530	8030	
8－9　スパナ	1			
10－11　スパナ	1			
12－14　スパナ	1			
13－17　スパナ	1			
17－21　スパナ	1			
19－22　スパナ	1			
24－27　スパナ	1			
24－35　ボックス　スパナ	1			
300mm　モンキー　レンチ	1			
ドライバ	1			＋，－差替え式
プライヤ	1			
ハンマ	1			
ジャッキ　本体	1			
ハンドル	1			
グリース　ガン	1			
エアーゲージ	1			
ヒュージブル　リンク	1			2P カプラ(スタータ用)
メインスイッチ　キー　アッシ	1			キー２コ＋安全憲章
取扱説明書	1			
サービスブック	1			
ホロセット　ピン	1			トップリンク用
フィルタ　レンチ	1	—		
ストッパ	2	2	2	前輪切れ角調整用

主要諸元(標準仕様)

型式			M4830DT	M7530DT	M8030DT
駆動方式			4輪駆動		
エンジン	名称		クボタS2602(-DI)	クボタV4000	クボタV4300
	形式		水冷4サイクル6気筒立形ディーゼル	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル	
	総行程容積(cc)		2598	3983	4292
	シリンダ内径×行程(mm)		82×82	105×115	109×115
	最大出力(馬力/回転毎分)		48/2600	79/2400	79.5/2400
	最大トルク(kg·m/回転毎分)		15.9/1600	27.9/1400	28.7/1200
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ容量		G160−10 (12V150Ah相当)	195G51(12V300Ah相当)	
	使用燃料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(ℓ)		64		
	エンジンオイル容量(ℓ)		14.7	15.8	
	冷却水容量(ℓ)		8.2	13.6	
車両寸法	全長(mm)		3410	3695	3880
	全幅(mm)		1750	1660	1850
	全高	マフラ先端(mm)	2320	2370	2445
		安全フレーム付(mm)	2400	2480	2490
	軸距(mm)		2010	2140	2305
	輪距	前輪(mm)	1220〜1400(4段)	1220〜1400(8段)	1320〜1510(4段)
		後輪(mm)	1220〜1920(8段)	1220〜1920(8段+油圧AT)	1420〜1920(6段)
	最低地上高(mm)		310(クロスメンバ下)	415(クロスメンバ下)	405(クロスメンバ下)
重量(kg)			2240	2730	2810
走行装置	タイヤサイズ(標準)	前輪	8.3−20 6PR	8.3−24 6PR	9.5−24 6PR
		後輪	12.4−28 6PR	12.4−36 6PR	16.9−30 6PR
	クラッチ方式		乾式単板ダブル(インデペンデント)		
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング		
	制動装置		一系統左右独立，湿式ディスク機械式		
	差動方式		かさ歯車式(デフロック付)		
	変速方式		常時かみ合式及び同期かみ合式		
変速段数(段)			前進16，後進4(超低速含む)		
走行速度(km/時)			前進0.38〜25.8 後進0.51〜11.0	前進0.20〜28.0 後進0.27〜12.3	前進0.20〜28.5 後進0.24〜11.2
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)			2.95	3.1	3.2
作業装置 昇降装置	制御方式		ポジションコントロール・ドラフトコントロール・ミックスコントロール		
	ポンプ容量(ℓ/分)		35	41.5	
	装着方式		JIS Ⅰ形	JIS Ⅰ,Ⅱ形	
	最大持上げ力(kg)		1900	2700	
けん引装置			高さと方向を調整できるスイングドローバ		
PTO軸	軸寸法		JIS 35		
	ライブPTO 回転方向		右回転		
	ライブPTO PTO標準回転速度(回転/分)	1段	540(エンジン2194) 640(エンジン2600)	540(エンジン2035) 637(エンジン2400)	
		2段	1000(エンジン2530) 1031(エンジン2600)	1000(エンジン2388) 1005(エンジン2400)	
	グランドPTO 回転方向		右回転		
	グランドPTO PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき。)	1段	1.74回転(タイヤ12.4−28)	1.55回転(タイヤ12.4−36)	1.52回転(タイヤ16.9−30)
		2段	2.57回転(タイヤ12.4−28)	2.44回転(タイヤ12.4−36)	2.39回転(タイヤ16.9−30)
安全フレーム			クボタSF48(4柱式)	クボタSF7530(4柱式)	クボタSF8030(4柱式)

ターフタイヤ仕様

型式				M4830DT-T1	M4830DT-T2	M4830DT-TW
駆動方式				4輪駆動		
エンジン	名称			クボタ S2602(-D1)		
	形式			水冷4サイクル6気筒立形ディーゼル		
	総行程容積(cc)			2598		
	シリンダ内径×行程(mm)			82×82		
	最大出力(馬力/回転毎分)			48/2600		
	最大トルク(kg・m/回転毎分)			15.9/1600		
	始動方式			セルモータ式		
	バッテリ容量			G160-10(12V 150Ah相当)		
	使用燃料			クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油		
	燃料タンク容量(ℓ)			64		
	エンジンオイル容量(ℓ)			14.7		
	冷却水容量(ℓ)			8.2		
車両寸法	全長(mm)			3440	3420	3410
	全幅(mm)			1885	2130	2500
	全高	マフラ先端(mm)		2305	2270	2250
		安全フレーム付(mm)		2285	2210	2200
	軸距(mm)			2010		
	輪距	前輪(mm)		1400	1340	1555
		後輪(mm)		1320～1920(7段)	1490，1650(2段)	1750
	最低地上高(mm)			340(クロスメンバ下)	235(クロスメンバ下)	240(クロスメンバ下)
重量(kg)				2250	2180	2310
走行装置	タイヤサイズ(標準)	前輪		9.5-18-6PR	9.5-16-6PR	29×12.00-15-4PR
		後輪		13.6/12-28-6PR	475/65 D20-4PR	355/80 D20-4PR
	クラッチ方式			乾式単板ダブル(インデペンデント)		
	かじ取り方式			全油圧式パワーステアリング		
	制動装置			一系統左右独立，湿式ディスク機械式		
	差動方式			かさ歯車式(デフロック付)		
	変速方式			常時かみ合式及び同期かみ合式		
変速段数(段)				前進16，後進4(超低速含む)		
走行速度(km/時)				前進0.38～25.8 後進0.51～11.0	前進0.33～22.6，後進0.44～9.6	
最大安定傾斜角(度)				40	48	50
作業昇降装置	制御方式			ポジションコントロール・ドラフトコントロール・ミックスコントロール		
	ポンプ容量(ℓ/分)			35		
	装着方式			JIS I，II形		
	最大持上げ力(kg)			1800		
けん引装置				高さと方向を調整できるスイングドローバ		
PTO軸	軸寸法			JIS 35		
	ライブPTO	回転方向		右回転		
		PTO標準回転速度(回転/分)	1段	540(エンジン2194)，640(エンジン2600)		
			2段	1000(エンジン2530)，1031(エンジン2600)		
	グランドPTO	回転方向		右回転		
		PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき。)	1段	1.71回転	1.99回転	2.02回転
			2段	2.52回転	2.94回転	2.98回転
安全フレーム				クボタ SF48(4柱式)		

■速度表(標準タイヤのとき)

(km/時)

	クリープ変速	副変速	主変速	M4830DT	M7530DT	M8030DT
前進	L	L	1	0.38	0.20	0.20
			2	0.47	0.25	0.25
			3	0.79	0.42	0.47
			4	1.08	0.57	0.58
		H	1	1.42	0.75	0.77
			2	1.76	0.93	0.95
			3	2.96	1.57	1.6
			4	4.04	2.14	2.2
	H	L	1	2.2	2.5	2.5
			2	2.7	3.1	3.1
			3	4.6	5.2	5.2
			4	6.3	7.0	7.2
		H	1	8.3	9.2	9.4
			2	10.2	11.4	11.7
			3	17.2	19.3	19.7
			4	25.8	28.0	28.5
後進	L	L	R	0.51	0.27	0.24
		H	R	1.89	1.0	0.91
	H	L	R	2.9	3.3	3.0
		H	R	11.0	12.3	11.2

■速度表(ターフタイヤ仕様)

(km/時)

	クリープ変速	副変速	主変速	M4830DT-T1	M4830DT-T2 M4830DT-TW
前進	L	L	1	0.38	0.33
			2	0.47	0.41
			3	0.79	0.69
			4	1.08	0.95
		H	1	1.42	1.24
			2	1.76	1.54
			3	2.96	2.59
			4	4.04	3.54
	H	L	1	2.2	1.9
			2	2.7	2.4
			3	4.6	4.0
			4	6.3	5.5
		H	1	8.3	7.2
			2	10.2	9.0
			3	17.2	15.1
			4	25.8	22.6
後進	L	L	R	0.51	0.44
		H	R	1.89	1.66
	H	L	R	2.9	2.6
		H	R	11.0	9.6

オイル・グリース一覧表

■エンジンオイル　必ず下表の指定オイルを使ってください。

日石三菱 コスモ石油 ジャパンエナジー 昭和シェル石油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30又は D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD

■ミッションオイル　必ず下表の指定オイルを使ってください。

日石三菱 コスモ石油 ジャパンエナジー 昭和シェル石油	クボタ純オイルUDT(油圧駆動用) 又は クボタ純オイルM80B

寒冷地向としてクボタ純オイルUDTをおすすめします。

■ギヤーオイルSAE90

下表以外のオイルを使用するときは，お買いあげいただいた購入先にお聞きください。
(使用箇所―前部デフケース，前輪ケース・前部ベベルギヤーケース右・左)

日石三菱 コスモ石油 ジャパンエナジー 昭和シェル石油	クボタ純オイルUDT 又はクボタ純オイルM90

■パワーステアリングオイル　〔タービンオイル32(#90相当)〕

日本石油	クボタ純オイルUDT,スーパーハイランド32 クボタ純正ブレーキオイルBP－32 (パワーステアリング兼用)
コスモ石油	クボタ純オイルUDT,コスモハイドロHV32
ジャパンエナジー	クボタ純オイルUDT,共石ハイドラックス32
昭和シェル石油	クボタ純オイルUDT,テラスオイルC32
モービル石油	モービルハイドロリックオイル28
エッソスタンダード石油	テレッソ32
出光興産	ダフニーハイドロウリックフルイド32
ゼネラル石油	ゼネラルハイドフルード32
キグナス石油	ユニットオイルE32

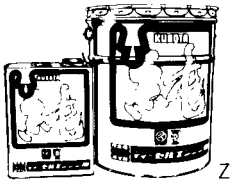
■グリース

メーカ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAP No.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEP No.2	ロードマスタ No.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEP No.2	リゾニックスグリース No.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリース No.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソスタンダード石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリース No.2	ホイールベアリングHDグリース No.2
ゼネラル石油	シャーシグリース No.2	WBグリース No.2
キグナス石油	シャーシグリース No.2	MPグリース No.2

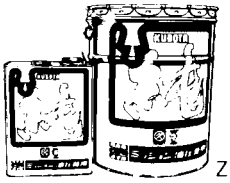
オイルは**クボタ純オイル**をお使いください。

●オイルはトラクタの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

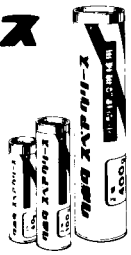
■エンジンには，
クボタ純オイル
ディーゼルエンジン用
D30，又は
D10W30，又は
D30スーパーCD，
又は
D10W30スーパーCD


Z-1002
4ℓ　20ℓ

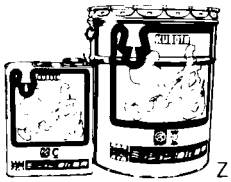
■トラクタ本体には，
クボタ純オイル
ミッション用
M80B
又は，UDT


Z-1003
4ℓ　20ℓ

■グリースアップには，
クボタスペアグリース


Z-1005
60 100 400

■ロータリなどには，
クボタ純オイル M90
ミッション用


Z-1003
4ℓ　20ℓ

いずれもクボタが品質保障する最も適したオイルです。
お買い求めは，販売店・農協又はコスモ石油・日本石油・ジャパンエナジー・昭和シェル石油のスタンドにご用命ください。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和62年12月22日
生物系特定産業技術研究推進機構

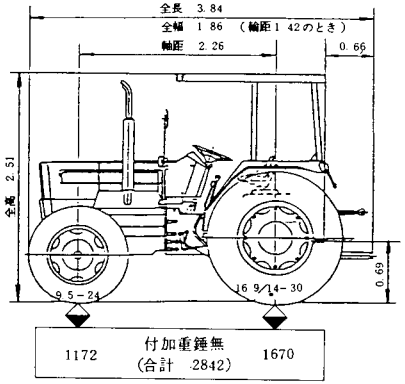
合格番号　８７０４６　　型式名　クボタM8030DT　　４輪駆動

依頼者名　久保田鉄工株式会社

住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番４７号

Ⅰ　主要諸元・構造

1.　機体の大きさ　寸法(ｍ)・質量(kg)



1172	付加重錘無 (合計 2842)	1670

2.　機　　関
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 呼称出力：58.5 kW{ 79.5 PS }
- 定格回転数：2400 rpm
- シリンダ内径×行程：109 × 115 mm
- 総行程容積：4 292 l
- 燃焼室形式：直接噴射式
- 過給機の有無：無

3.　伝動装置
- 主クラッチ形式：乾式単板
- 主変速：5段
- 副変速：2段
- クリープ変速：2段
- 前進：16段(0.2 ～ 26.9 km／h)
- 後進：4段(0.2 ～ 11.2 km／h)

4.　主ＰＴＯ
- 規格：6スプライン直径 35 mm
- 回転数(機関定格のとき)：637, 1005 rpm
- ＰＴＯクラッチ形式：独立形

5.　作業機昇降装置
- 形式：油圧式
- 制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
- 油圧外部取出口：PT1／2，2個
- 作業機装着装置：3点リンク 1, 2形

6.　輪　　距
- 前輪：1.47 ～ 1 57 m (2段階)
- 後輪：1.42 ～ 1.92 m (6段階)
- 試験時：前輪 1.47 m，後輪 1.42 m

7.　かじ取装置
- 形式：全油圧式

Ⅱ　検査成績

1.　ＰＴＯ性能(最大出力時)

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
55.0 kW {74.8 PS}	265 g/kW·h { 195 g/PSh }	629 rpm	23 %

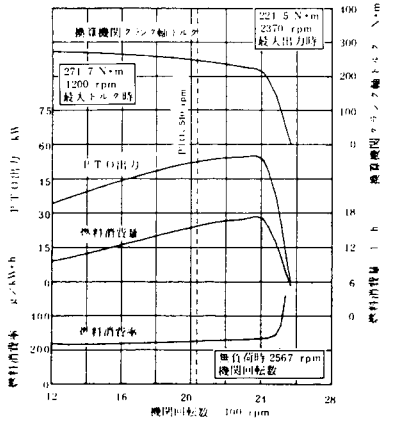


図1　ＰＴＯ性能曲線

農用トラクター（乗用型）検査成績表

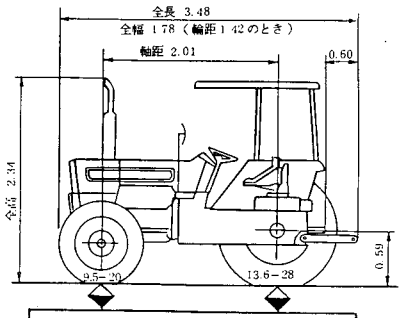
昭和58年12月22日
農業機械化研究所

合格番号　85054　　型式名　クボタM4830DT　　４輪駆動

依頼者名及び住所　久保田鉄工株式会社　　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　主要諸元・構造

1.　機体の大きさ　寸法(ｍ)・質量(kg)



920	付加重錘無 (合計 2273)	1353
1185	付加重錘付 (合計 2993)	1808

2.　機　　関
- 種類：水冷４サイクル６気筒ディーゼル
- 呼称出力：35 kW{ 48 PS }
- 定格回転速度：2600 rpm
- 排気量：2.598 ℓ

3.　伝動装置
- 前進：16段(0.4 ～ 24.4 km／h)
- 後進：4段(0.5 ～ 11.4 km／h)
- 差動機固定装置：あり，足動式

4　主ＰＴＯ
- 規格：6スプライン直径 35 mm
- 回転速度(機関定格のとき)：$\frac{640}{1031}$ rpm

5.　作業機昇降装置
- 形式：油圧式
- 制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
- 油圧外部取出口：あり
- 作業機装着装置：3点リンク 1形

6　輪　　距
- 前輪：1. 22～ 1. 40 m (4段階)
- 後輪：1. 32～ 1. 92 m (7段階)
- 試験時：前輪 1. 40 m，後輪 1. 42 m

Ⅱ　検査成績

1.　ＰＴＯ性能(最大出力時の値)

出　力	燃料消費率	PTO軸速度／速度段
32.4 kW {44.0 PS}	253 g／kWh { 186g／PSh }	591 rpm／低

2.　けん引性能(コンクリート上)

最大けん引力	最大けん引出力
22.56 kN (8 速) {2300 kgf}	27.9 kW (14 速) {37.9 PS}

3.　作業機昇降装置性能

下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
17.55 kN {1790 kgf}	15.79 kN { 1610kgf }

4　騒音(運転者の耳もと)：97 dB(A)

5.　静的横転倒角：42°

6.　最小旋回半径：2.88 m(ブレーキ使用時)

7.　安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

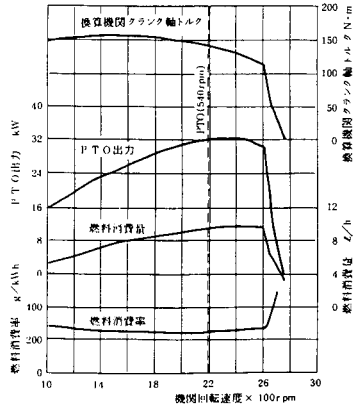


図　ＰＴＯ性能曲線

Ⅲ　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針(昭和58年12月22日農林水産大臣公表)に定められたトラクターの第Ⅱ類に属するものである。

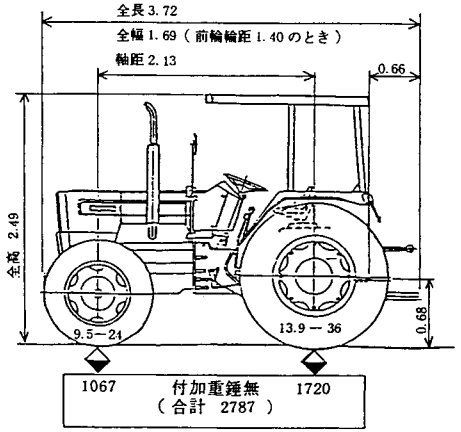
農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和63年8月2日
生物系特定産業技術研究推進機構
二輪駆動

合格番号　88003　　型式名　クボタ M7530DT
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）



2. 機　関
種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
呼称出力：58.1 kW｛79PS｝
定格回転数：2400 rpm
シリンダ内径×行程：105×115 mm
総行程容積：3.983 l
燃焼室形式：直接噴射式
過給機の有無：無

3. 伝動装置
主クラッチ形式：乾式単板
主変速：5段（前進4段，後進1段）
副変速：2段
クリープ変速：2段
前進：16段（0.2～26.9 km／h）
後進：4段（0.3～12.6 km／h）

4. 主PTO
規格：6スプライン直径35 mm
回転数（機関定格のとき）：637 rpm（1005）
PTOクラッチ形式：独立形

5. 作業機昇降装置
形式：油圧式
制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
油圧外部取出口：PT 1/2，2個
作業機装着装置：3点リンク1，2形

6. 輪　距
前輪：1.22～1.40 m（8段階）
後輪：1.22～1.92 m（無段階）
試験時：前輪1.40 m，後輪1.32 m

7. かじ取装置
形式：全油圧式

Ⅱ 検査成績

1. PTO性能（最大出力時）

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
51.2 kW {69.6PS}	270 g/kW·h {199 g/PSh}	637 rpm	20 %

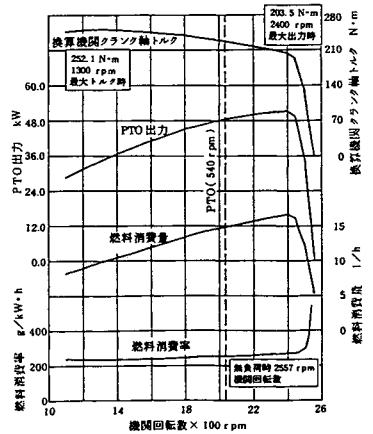


図1　PTO性能曲線

2. 騒音（運転者の耳もと）：97 dB（A）
3. 静的横転倒角：35°
4. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：3.20 m
5. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速度
9速	19.61 kN {2000 kgf}	12.6 kW {17.1 PS}	2.30 km/h
13速	19.61 kN {2000 kgf}	43.9 kW {59.7 PS}	8.06 km/h
14速	15.69 kN {1600 kgf}	45.4 kW {61.7 PS}	10.40 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力15.10 MPa {154 kgf/cm²} のとき）	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
18.14 kN {1850 kgf}	19.66 kN {2005 kgf}

ポンプ性能（最大出力時）		
流量	圧力	出力
40.3 l/min	15.10 MPa {154 kgf/cm²}	10.14 kW {13.79 PS}

Ⅲ 付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅰ類に属するものである。

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速度
9速	21.57 kN {2200 kgf}	13.6 kW {18.5 PS}	2.27 km/h
12速	21.57 kN {2200 kgf}	37.5 kW {51.0 PS}	6.26 km/h
14速	14.42 kN {1470 kgf}	43.4 kW {59.0 PS}	10.84 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力15.10 MPa {154 kgf/cm²} のとき）	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
18.14 kN {1850 kgf}	19.66 kN {2005 kgf}

ポンプ性能（最大出力時）		
流量	圧力	出力
40.3 l/min	15.10 MPa {154 kgf/cm²}	10.14 kW {13.79 PS}

4. 騒音（運転者の耳もと）：98 dB (A)
5. 静的横転倒角：38°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：3.14 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ 付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅱ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

昭和 農業機械化研究所

合格番号　85085　　型　式　名　クボタ　ＳＦ48

依頼者名及び住所　久保田鉄工株式会社
大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番地47号

製造者名及び住所　依頼者に同じ

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型 式 名

クボタ　Ｍ4830ＤＴ

2. 主要諸元

型　式　名		：	クボタ　Ｍ4830ＤＴ
種　類		：	4輪駆動
質量（フレーム付き）	kg	：	2275
軸　距	mm	：	2010
機関出力／回転速度	kW{PS}／rpm	：	35.3{48}／2600

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材とした４柱式であり，上部フレームはフェンダー上にボルトで取付られ，フェンターはブラケット・防振ゴムを介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：	110.0 cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：	152.0 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおけるフレームの内幅		：	102.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	69.5 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	70.0 cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	48.5 cm
戸口の幅	（上部）	：	— cm
	（中部）	：	— cm
	（下部）	：	— cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	151.5 cm
	（最高位ステップから）	：	— cm
	（最低位ステップから）	：	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	：	226.5 cm
	（排気管上端まで）	：	234.5 cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	142.5 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	39.0 cm

※　1　クボタＭ4830ＤＴ，　タイヤサイズ：　前輪　8.3−22　　後部12.4／11−32装着時

2　トラクターシートの銘柄型式：　しげる工業，G 54200000

3. 主要材料

主 フ レ ー ム：　ＳＴＫＲ41，　ＳＳ41，　ＳＰＨＣ
装着ブラケット：　ＳＳ41，　ＳＰＨＣ
組立・装着ボルト：　Ｓ43Ｃ

4. 主な装備

シートベルト（２点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験

1）衝撃試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は2275 kg，軸距は2010 mm。

衝撃エネルギー：　後方衝撃：　3.90 kJ{398 kgf・m}　前方衝撃：　3.34 kJ{341kgf・m}
側方衝撃：　9.14 kJ{933kgf・m}

圧　壊　力：　45.50 kN{4641kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：{右側　0.5 cm / 左側 −0.5 cm}　前部（後方へ）：{右側 −0.5 cm / 左側　0.5 cm}

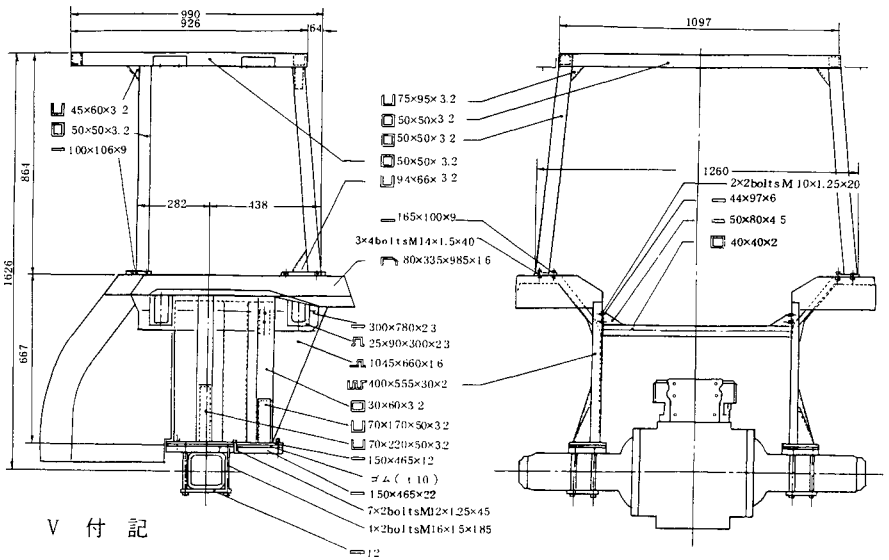
側部（左側方へ）：{前側　16.5 cm / 後側　14.0 cm}　上部(下方へ)：前部{右側　0 cm / 左側　1.5 cm} 後部{右側 −1.0 cm / 左側　2.0 cm}

3）側方衝撃試験時のフレームの瞬間最大変位と残留変位との差：　9.0 cm

2. フレーム内の騒音（7.5 km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）

90 dBA　〔クボタＭ4830ＤＴ〕

Ⅳ　付　図



（単位：mm）

Ⅴ　付　記

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

昭和63年.2月.9日
生物系特定産業技術研究推進機構
安全フレーム

合格番号　87066

型式名　クボタ SF8030

依頼者名　久保田鉄工株式会社

住所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

製造者名　依頼者に同じ

住所

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名

クボタM 8030 DT

2. 主要諸元

型式名		：	クボタM 8030 DT
種類		：	4輪駆動
質量（フレーム付き）	kg	：	2850
軸距	mm	：	2260
機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	：	58.5 {79.5}／2400

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，フエンダー・防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法 ※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：	127.0 cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：	171.5 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおけるフレームの内幅		：	108.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	88.0 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	76.5 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	75.0 cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	54.0 cm
戸口の幅	（上部）	：	— cm
	（中部）	：	38.5 cm
	（下部）	：	27.0 cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	166.5 cm
	（最高位ステップから）	：	186.5 cm
	（最低位ステップから）	：	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	：	246.0 cm
	（排気管上端まで）	：	240.5 cm
フレームの全幅		：	134.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	41.5 cm

※ 1. クボタM 8030 DT　タイヤサイズ：　前輪9.5－24　　後輪16.9－30　装着時

2. トラクターシートの銘柄型式：　しげる工業，G 52400000

3. 主要材料

主フレーム：　STKR 41，SPHC，SS 41

装着ブラケット：　SS 41，STKR 41，SGD 41－D

組立・装着ボルト：　S 43 C

4. 主な装備

シートベルト（2点式）

Ⅲ 検査成績

1. 強度試験

1）衝撃試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は2850 kg，軸距は2260 mm。

衝撃エネルギー：　後方衝撃：　6.18 kJ{630 kgf·m}　前方衝撃：3.57 kJ{364 kgf·m}

側方衝撃：10.84 kJ{1105 kgf·m}

圧壊力：　57.00 kN{5814 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：{右側 2.0 cm / 左側 3.0 cm}　前部（後方へ）：{右側－2.0 cm / 左側－3.0 cm}

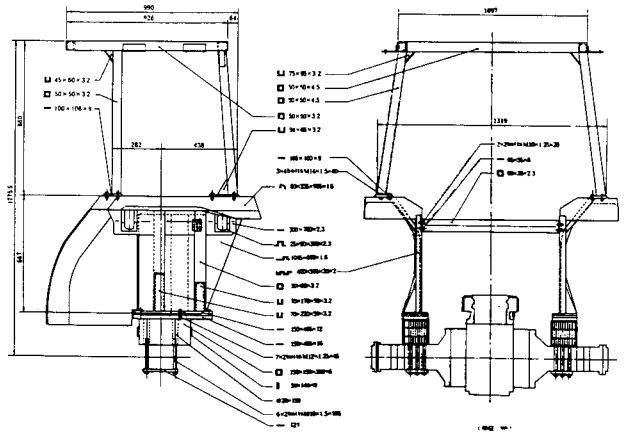
側部（左側方へ）：{前側12.5 cm / 後側11.5 cm}　上部（下方へ）：前部{右側0.5 cm / 左側1.5 cm}　後部{右側－0.5 cm / 左側 2.0 cm}

3）側方衝撃試験時のフレームの瞬間最大変位と残留変位との差：　8.5 cm

2. フレーム内の騒音（7.5 km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）

92 dBA〔クボタ M 8030 DT〕

Ⅳ 付図



Ⅴ 付記

—

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

昭和63年8月2日
生物系特定産業技術研究推進機構
[illegible]ーム

合格番号　88014　型式名　クボタ SF7530
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　所

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名
クボタ M 7530 DT

2. 主要諸元

型式名		：	クボタ M 7530 DT
種類		：	4輪駆動
質量（フレーム付き）	kg	：	2760
軸距	mm	：	2125
機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	：	58.1{79}／2400

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着方法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，フェンダー・防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法 ※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：	127.5 cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：	171.0 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおけるフレームの内幅		：	105.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	74.5 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	57.0 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	56.0 cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	35.0 cm
戸口の幅	（上部）	：	— cm
	（中部）	：	36.0 cm
	（下部）	：	27.0 cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	164.5 cm
	（最高位ステップから）	：	183.0 cm
	（最低位ステップから）	：	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	：	245.5 cm
	（排気管上端まで）	：	238.0 cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	143.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	43.0 cm

※ 1. クボタ M7530DT タイヤサイズ： 前輪9.5－24 後輪13.9－36装着時
2. トラクターシートの銘柄型式： しげる工業，G 52400000

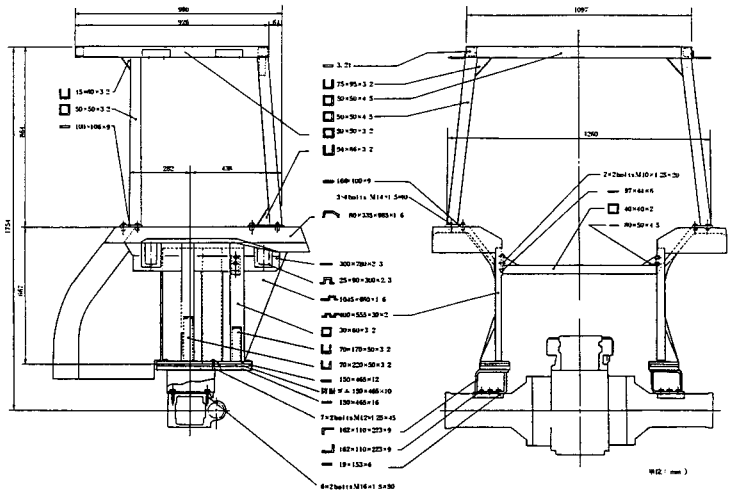
3. 主要材料
主フレーム： STKR 41，SPHC，SS 41
装着ブラケット： SS 41，STKR 41
組立・装着ボルト： S 43C

4. 主な装備
シートベルト（2点式）

Ⅲ 検査成績

1. 強度試験
1）衝撃試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は2800kg，軸距は2125mm。
衝撃エネルギー ： 後方衝撃： 5.37 kJ{547kgf・m} 前方衝撃：3.55 kJ{362kgf・m}
側方衝撃：10.69 kJ{1090 kgf・m}
圧壊力： 56.00 kN{5710kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
後部（前方へ）：{右側 1.0 cm / 左側 2.0 cm} 前部（後方へ）：{右側－1.0 cm / 左側－2.0 cm}
側部（左側方へ）：{前側 18.0 cm / 後側 16.0 cm} 上部（下方へ）：前部{右側 0 cm / 左側 2.5 cm} 後部{右側－1.0 cm / 左側 2.5 cm}
4）側方衝撃試験時のフレームの瞬間最大変位と残留変位との差： 11.0 cm
2. フレーム内の騒音（7.5 km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）
94 dBA〔クボタ M 7530 DT〕

Ⅳ 付図



Ⅴ 付記

—

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011) 662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048) 862-1121　〒338-0832　浦和市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(0722) 41-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092) 606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

株式会社クボタアグリ東日本
秋田事業所：電(0188) 45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所：電(022) 384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京事業所：電(048) 862-1124　〒338-0832　浦和市西堀５丁目２番36号
新潟事業所：電(025) 285-1261　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号

株式会社クボタアグリ西日本
金沢事業所：電(0762) 75-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋事業所：電(0586) 24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪事業所：電(0722) 41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子事業所：電(0859) 33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山事業所：電(086) 279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松事業所：電(0878) 74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州
福岡事業所：電(092) 606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本事業所：電(096) 357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

品番　36761—9971—3

Kubota